スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成32年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために

安全のために心がけること....4
運転の前に.....10
ブレーキについて 13
使用燃料..... 16
アクセサリの取り付けや
積載について 16
改造について 19

取扱いの方法

装備一覧 20
メータの見かた.....28
運転アシストシステム
の設定 69
メインスイッチ.....86
ハンドルスイッチ 90
エンジンのかけかた 92
ガソリンの給油 96
シフトペダル 98
ブレーキレバー 101
リヤブレーキペダル.....102
クラッチレバー 102
シート 103
ヘルメットホルダ 105
書類入れ 105
スタンド 105
サスペンション..... 106
ETC2.0 車載器 111

お車の点検および簡単な整備

点検と整備..... 126
日常点検と定期点検 127
サービス工具..... 129
ステアリングダンパ 129
フェアリング..... 130
フューエルタンク 132
注油 134
バッテリ 135
スパークプラグ 138
エアクリーナ 138
エンジンオイル 141
冷却水.....145
スロットルケーブル.....148
ドライブチェーン 149
クラッチ.....152
ブレーキ.....154
シフトペダル 158
タイヤ 159
サイドスタンド
/ インタロックシステム ... 162
ヒューズ 163
灯火装置、方向指示器 167

トラブルシューティング

トラブルシューティング
とは 168
エンジンがかからない
ときは 168
オーバーヒートしている
ときは.....168
油圧が下がっている
ときは.....169
メータに次の表示が出た
ときは 170
お車が次の状態のときは .. 170

お車の手入れ	保管のしかた.....172 長期保管後は.....173	サビを防ぐために .....173 洗車.....175	洗車後は 178
インフォメーション	触媒装置.....180 車両の情報記録装置 180	識別ナンバー打刻位置.....181 環境を保護するために.....182	
サービスデータ	主要諸元.....184	サービスデータ 185	

必読！安全運転のために

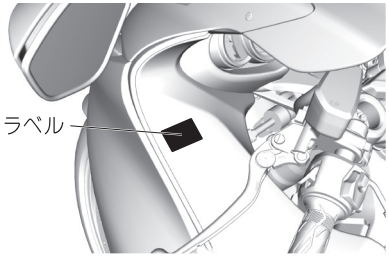
安全のために心がけること

■ 事故や故障を避けるために

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

◇重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。運転するときは、これらの注意をいつもお守りください。また、決してはがさないでください。



- 転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

◇バイク事故は他の運転者から気づかれないことが要因で起きることがあります。次のことに注意して運転してください。
- 明るい昼間でもヘッドランプやテールランプを点灯する
- 他の運転者の死角に入らない

◇運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足を後席用フットレストに乗せさせてください。

◇急激なハンドル操作や片手運転は、横滑りや転倒の原因になりますので絶対にしないでください。

◇荷物の積載は、操縦安定性に影響を与えます。積み過ぎに注意して安全な速度で運転してください。荷物をのせるときは「積載について」(P.18)を参照してください。

＜点検整備をしましょう＞
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
もし、いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。点検については「日常点検と定期点検」(P.127)を参照してください。

⚠警 告

スピードを出しすぎると、操縦のコントロールを失う原因となり、事故につながるおそれがあります。

走行時の路面、視界、操作状況やあなたの技量、経験に適した速度で走行してください。

⚠警 告

運転中にハンドルから手を離したり、フットレストから足を離したりすると操縦性に影響が発生し、バランスを失ったり転倒を引き起こしたりするおそれがあります。

運転中は必ず、両手でハンドルを握り、両足をフットレストに置いてください。

■ 安全な運転は正しい服装から

＜概要＞
運転者と同乗車は必ずヘルメットを着用し、保護性が高く運転のしやすい服装や保護具を着用してください。次の内容を参考にご用意ください。

＜ヘルメット＞
- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは適切なサイズで圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを着用してください。風から視界を確保できるだけでなく、空気中の虫、ほこり、前を走っている車が巻き上げる小石などからも目を守ります。

安全のために心がけること

⚠警 告

ヘルメットは、正しくかぶらないと事故の際に死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。

ヘルメットを正しくかぶってください。運転者だけでなく、同乗者も必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

＜適切な服装＞

- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用しましょう。万一のとき身体への衝撃を軽減します。また、運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどのゆったりした服装は運転操作の邪魔になります。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。
- 必要に応じてプロテクタを備えたジャケットやパンツを着用してください。

⚠警 告

後席の人が背丈の長いジャケットやコートを着用するとテールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続車に認識されず危険です。

後席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートをできるだけ着用しないでください。着用する場合は、すそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが隠れないようにしてください。

＜同乗者の装備＞

二人乗りするときは、同乗者も運転手と同じようにヘルメットと保護具を着用してください。同乗者の服がホイールやチェーンなどに巻き込まれるおそれがありますので、スカートやゆったりしたズボンなどは避け、靴紐にも注意してください。

■ 環境に合わせた運転をしましょう

＜風が強い日は＞

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

⚠警 告

大型の車両に追い越されたときやトンネルの出口や丘陵の多い土地では、突然横風を受けたり、運転のコントロールを失なうことがあります。

速度を落とし横風に警戒してください。

＜雨の日や雪の日は＞

- ぬれた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいので、急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。また、これらの道は制動距離がのびるため、ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。雨が降ると道路にしみこんでいた油分が道路に浮き上がりすべりやすくなっています。路面上の標示、マンホール、グレーチング（溝のふた）、橋のつなぎ目などの金属部、線路などもすべりやすくなっていますので、特に注意してください。
- コーナリング時のブレーキングは挙動が不安定になります。コーナーに差し掛かる前に十分にスピードを落としましょう。タイヤと路面の間の摩擦力には限界がありますので、限界を超えた場合にはタイヤがすべり、コントロールを失って転倒するおそれがあります。

⚠警 告

滑りやすい路面で強いブレーキをかけるとホイールが横滑りし転倒するおそれがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキは慎重にかけてください。

アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

安全のために心がけること

＜冠水した道は＞
冠水した場所は走行しないでください。
万一、冠水した場所を走行した時は、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。
また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線の浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- エンジンオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。

エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ お車になれるまでは

運転技術と機械的な知識を身につけることが、安全に運転するための基本です。安全に運転するためにも、お車をお買いあげいただいた直後は、交通量の少ない場所でお車の運転と操作に慣れることをおすすめします。

■ 乗車定員

乗車定員は、2名です。
定員をこえての走行は危険ですので、絶対にお止めください。

＜二人乗りの手引き＞
二人乗り（タンデム）は、オートバイならではの感覚を楽しみ、共有できる乗り方ですが、同乗者の体重はハンドリングとブレーキングに影響するため、一人乗りのときとは乗り方を変えなければなりません。
二人乗りする場合、必要に応じで次の項目をご確認ください。

- 「タイヤ空気圧の点検」（P.161）
- 「リヤサスペンション」（P.108）
- 「積載について」（P.18）

走行前に同乗者の足がフットレストに届くかを確認してください。また、安全に運転するためには、同乗者もオートバイの動きや同乗者としての乗り方を知っておく必要があります。同乗者に次の内容を事前に理解してもらってください。

- 同乗者は運転手の腰回りをつかむか、タンデムベルトやグラブバーがある場合にはそれらをつかんで体を安定させます。
- 同乗者は、運転手がバランスを崩す原因になるため、突然動かないようにしてください。また、カーブを曲がるときには、運転手に合わせて体を傾けるようにしましょう。
- 同乗者は、足がエキゾーストパイプやマフラなどに触れてやけどをしないために、信号などで停車するときにも足はフットレストにのせたままにしてください。乗り降りのときにも触れないように注意しましょう。

■ 一酸化炭素について

一酸化炭素中毒を防ぐために、風通しのよい場所でエンジンをかけてください。
排気ガスに含まれる一酸化炭素は、無色・無臭のために発生に気付きにくい気体です。一酸化炭素中毒になると、軽度の場合は頭痛や吐き気からはじまり、重度になると致命傷に致る危険性があります。

⚠警 告

閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所ではエンジンをかけないでください。

排気ガス中の一酸化炭素などの有害な成分により、中毒になるおそれがあります。

■ 交通ルールを守りましょう

運転するときは、交通ルールを順守してください。礼儀やマナーのある運転を行い、他の運転手の模範になれるようにしましょう。

■ まとめ

事故を回避するには環境に応じた判断力と注意力が必要です。交通状況はもちろん、路面や天候に加え、お車の状態も変化します。また、他の車の動きは予測しにくいため、常に注意を払いましょう。
慣れていない運転方法や無茶な運転は、事故の原因になります。
ヘルメットや保護具はしっかりと着用しましょう。

運転の前に

■ ならし運転

＜概要＞

新車時からの最初の1,000 kmは、車の寿命にとって最も大切な期間です。この期間に正しくならしをすることによって、寿命をのばし、本来の性能を得ることができます。

ならし運転中は、不必要な空ぶかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ならし運転については、次の手順を参照してください。

＜エンジン回転数の限度＞

最初の1,000 kmを走行するまでは、エンジン回転5,500 r/min以下で走行してください。

＜ならし運転のコツ＞

ならし運転中のエンジン回転数には、変化をつけるようにしてください。回転数に変化をつけることで部品にかかる負荷が変わり、部品に当たりをつけることができます。エンジン部品に当たりをつけるために、ある程度の負荷は必要ですので回転数の限度をこえない範囲で運転してください。

＜タイヤを交換したとき＞

新しいタイヤは、エンジンと同じように本来の性能を引き出すためには、ならしが必要です。新しいタイヤはスリップしやすいので、最初の160 kmは出来るだけ倒す角度を小さくしてください。最初の160 kmを超えてからは、倒す角度を徐々に大きくして、ならしてください。また、最初の160 kmまでは、急加速、ハードなコーナリング、急ブレーキを避けてください。

⚠警 告

新品のタイヤはすべりやすいため、タイヤのならし運転を適切に行わないと転倒するおそれがあります。

新品タイヤ装着時は「ならし運転」(P.10)を参照して、約160 km走行するまでタイヤのならし運転を行ってください。

■ 坂道では

＜坂道での走りかた＞

- 高いギヤで急な坂を登っていると、出力が不足してスピードが落ちるときがあります。スピードが落ちる前に低いギヤにシフトダウンしましょう。スピードが落ちすぎる前に素早くシフトしてください。
- 長い下り坂では、低いギヤに落としてエンジンブレーキを併用しましょう。スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。より強いエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。長い間ブレーキをかけ続けるとブレーキが加熱して効きが悪くなりますので、注意してください。
- 下り坂でのエンジン回転のあがりすぎには注意してください。

⚠警 告

長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。

ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。

クラッチが過熱し、故障の原因となります。

■ 停車時や駐車時は

＜停めかた＞

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。「メインスイッチ」(P.86)参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の人がエキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

運転の前に

⚠警 告

マフラに内蔵されている触媒装置は高温になりますので、駐停車したときに燃えやすいものが近くにあると、火災の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは、車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがないことを確認してください。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このときに触るとやけどを負うおそれがあります。

歩行者や子供などが触れにくい場所に停めてください。

アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

アドバイス

斜面でサイドスタンドを使用して停めると倒れるおそれがあるので、平坦な場所に止めることをおすすめします。斜面に停めざるを得ない場合は、お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。エンジンかけるときは、ニュートラルにシフトしてください。

■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

ブレーキについて

■ ABSとは

ABSは、走行中ブレーキをかけたときにホイールがロックしないように制御する装置です。
IMU（慣性計測装置）を搭載しているため、フロントブレーキを強くかけたときに発生するリヤタイヤの浮き上がりを抑制する働きもします。

ブレーキの操作方法は、ABSを装備していない車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

ABSは、電子制御でブレーキ圧をコントロールしています。このシステムはホイールの回転スピードを監視しており、ホイールロックを検知したときにブレーキ圧力を下げることでホイールロックを防ぐ働きをします。また、8 km/h未満の低速時やバッテリが上がっている場合を除き、常に作動しているため、特別な操作は必要ありません。
ブレーキをかけた時にABSがホイールのロックを防いでいるときには、ブレーキレバーやブレーキペダルが軽く振動しますが異常ではありませんのでそのままブレーキをかけ続けてください。
なお、ABSは、判断ミスや操作ミス、また路面や気象条件によってはABSを非装備の車より制動距離が長くなる場合があります。ABSに頼りすぎないようにしてください。

指定以外のタイヤを使用するとABSが正常に機能しないおそれがあります。ABSを正常に機能させるためにタイヤは前後ともに指定タイヤをご使用ください。（☞P.160）

⚠警 告

ABSはすべての路面状況に対応できるものではありませんので、誤った判断や操作をすると事故の原因になるおそれがあります。

路面や気象条件に合わせた運転を行ってください。

アドバイス

ABSは制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。

ブレーキについて

■ モーショントラックブレーキシステムとは

この車両には、コーナリング中のブレーキで作動したABSに対して、バンク角に応じたABSの制御を行う、モーショントラックブレーキシステムという機能を装備しています。
過度や急なブレーキをかけたときに一定の範囲内で車輪のロックを回避し、ライダーが意図した走行ラインをトレースするサポートを行います。
ABSはコーナリング中のブレーキについても機能しますが、ABSの装備／非装備に関わらず、コーナリング中の急ブレーキはスリップやバランスを崩す可能性がありますので、ブレーキは慎重にかけてください。ABSは危険を回避する装置ではありません。
ABSは万能ではありませんので、注意して運転しましょう。

⚠警 告

モーショントラックブレーキシステムはコーナリング中のブレーキで作動したABSに対して、バンク角に応じたABSの制御を行いますが、物理限界を超えた横すべりを制御することはできません。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSを過信せずに安全運転を心掛けてください。

■ ブレーキのかけかた

1. スロットルグリップを戻します。
2. フロントとリヤのブレーキを同時に使い、エンジンブレーキを併用します。
3. 速度に合わせてシフトダウンします。
4. 停止する前にクラッチを切り、ギヤをニュートラルに入れます。

⚠警 告

フロントブレーキまたはリヤブレーキのどちらか一方だけを使用すると制動力を効果的に得られず、衝突やスリップ、バランスを崩すおそれがあります。

制動力を効果的に得るためにはフロントブレーキとリヤブレーキを同時にかけてください。

⚠警 告

急ブレーキや急なシフトダウンは走行安定性を損ない、横すべりや転倒の原因になるおそれがあります。

不必要な急ブレーキや急なシフトダウンは避けてください。特に、車体が傾いているとき、滑りやすい路面や整備されていない路面では、より注意が必要です

⚠警 告

ABSを装備、非装備に関係なくコーナリング中に強いブレーキをかけるとスリップやバランスを崩すおそれがあります。ABS装備車でもコーナリング中の強いブレーキによる横すべりは制御できません。

コーナーの手前では十分に減速してください。

⚠警 告

ぬれた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいため、動距離が長くなるだけでなくスリップやバランスを失うおそれがあります。

すべりやすい路面や整備されていない路面では、ブレーキは早めに、また慎重にかけてください。

⚠警 告

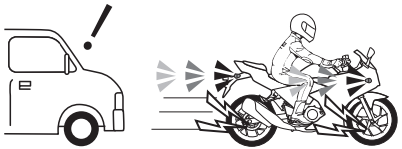
前方車両との車間距離が短いと衝突するおそれがあります。

安全に止まれるように十分な車間距離をとって走行してください。

■ エマージェンシストップシグナル(ESS)

ESSとはエマージェンシストップシグナル（Emergency Stop Signal）の略です。ESSは、次の条件をすべて満たしているときに、すべてのターンシグナルライトを通常より早く点滅させることで、後続車へ注意を促す機能です。その際に、メータ内のターンシグナルインジケータライトもあわせて点滅します。

- ブレーキレバーもしくはブレーキペダルを勢いよく操作したときの車速が約55 km/h以上のとき
- ABSが作動しているとき、またはABSが作動するような急ブレーキのとき



ブレーキについて

ESSは、次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキレバーもしくはブレーキペダルを離したとき
- ABSの作動が終了したとき
- ハザードスイッチをONにしたとき

アドバイス

- **ESSは、走行中の急ブレーキ時に後続車に注意を促すための機能であり、追突を防ぐことができるものではありません。**
- **ESS の機能を停止させることはできません。**
- **次のような路面を走行中に、一瞬しかABSが作動しなかったときは、ESSが作動しないことがあります。**
  - **滑りやすい路面を走行しているとき**
  - **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**

使用燃料

無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)を使用してください。
不適切な燃料はエンジン内部、スパークプラグや排気系部品の耐久性に影響を与えます。

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
タンク容量：20L

注 記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

無鉛レギュラーガソリン、粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

アクセサリの取り付けや積載について

■ アクセサリについて

＜選び方＞

不適切なアクセサリが取り付けられた場合、思わぬ事故の原因となる可能性があります。安全に運転するためにもスズキ純正アクセサリをおすすめします。スズキ販売店ではお車に適合したアクセサリの取り付けができますので、装着の際にはスズキ販売店にご相談ください。
アクセサリを選ぶときは、アクセサリの重量も考慮に入れてください。アクセサリによる重量増加は、ライディングの安全だけでなく走行安定性にも影響を及ぼします。

⚠警 告

不適切なアクセサリの取り付けや改造は、操作性に影響を与え、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。次のことをお守りください。

- **運転前に、アクセサリが適切に取り付けられているかを確認してください。**
- **部品やアクセサリは、純正部品もしくはこの車に合わせて作られたものを使用してください。**
- **取付けや使用方法については、アクセサリ付属の説明書に従ってください。**
- **疑問な点がありましたらスズキ販売店にご相談ください。**

＜取り付け方と注意点＞

- カウリング、ウインドスクリーン、バックレスト、サドルバッグ、トラベルトランクなどの風の影響を受けるアクセサリは、できるだけ低くかつ車体の重心位置が変わらないように取り付けてください。マウントブラケットおよび他の取付金具は強度があり、弛みにくいものを使用してください。
- 最低地上高およびバンク角の確認をしてください。アクセサリが、サスペンションやステアリングなどの作動に影響していないことを確認してください。
- トレーラーやサイドカーを牽引するようには設計されていないため、トレーラーやサイドカーを牽引しないでください。
- ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付けると、操作性を損なうおそれがあります。重量の増加は操作性を損なうだけでなく、前輪の振れや走行安定性の悪化の原因となります。ハンドルバーやフロントフォークにアクセサリを取り付ける場合は、できるだけ軽く最小限のものにとどめてください。
- アクセサリによっては、正常なライディングポジションが取れなくなり、操縦性を悪化させる原因になります。正常なライディングポジションが取れることを確認してください。
- 電装アクセサリによっては、大きな負荷によってワイヤハーネスが損傷し、運転中にエンジンが停止するなどの危険な状態を引き起こす可能性があります。スズキ純正アクセサリをご使用ください。

アクセサリの取り付けや積載について

■ 積載について

荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。

⚠警 告

過積載や、不適切な積み方は車体のバランスを失う原因になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この取扱説明書の積載限度および積載のガイドラインに従ってください。

<積載のガイドライン>

この車は同乗者を乗せていないときは、リヤシートに小さい荷物をのせることができるように設計されています。荷物をのせる場合には、次のガイドラインに従ってください。

- 荷物をリヤシートに積むときは、荷物をゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。
- サドルバッグなどを取り付けて荷物をのせるときは、車体の左右に均等に振り分けて積み、しっかりと固定してください。
- 荷物はできる限り少なくし、車体の中心に近い場所に積んでください。
- 必要に応じてサスペンションのセッティングを調整してください。
- 大きな物や重い積載物は、ハンドルバー、フロントフォーク、リヤフェンダーに取り付けないでください。
- 荷物入れや荷台ボックスを、テールエンドから車体の外に突き出して取り付けないでください。
- テールエンドから車体の外に突き出るものはのせないでください。
- 積載方法が悪いと、バランスを失わせ、車の操作性に影響を与えます。荷物をのせているときやアクセサリを取り付けた状態で運転するときは、通常より速度を落として運転してください。
- 前後のタイヤとも、適正な空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧（冷間時）：

前輪：290 kPa (2.90 kgf/cm^2, 42 psi)
後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm^2, 42 psi)

⚠警 告

高温のエキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに荷物が触れると、荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。

荷物を積むときは、高温になるところに荷物が触れないようにしてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置くと、ハンドル操作に悪影響を与えます。

ハンドル操作を妨げるところに、物を置かないでください。

改造について

不正改造はやめましょう。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- この車は、排出ガス規制適合車です。車両には排気ガスを浄化する触媒装置が搭載されています。エキゾーストパイプやマフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、エキゾーストパイプやマフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。
- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。
- お車に荷物やアクセサリを取り付けるときは、積載限度を守ってください。

⚠警 告

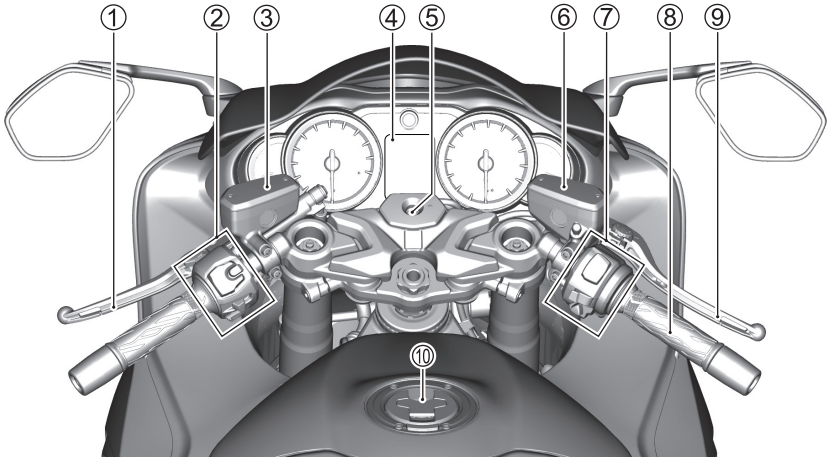
アルミ合金フレームの改造は安全性を低下させ、事故につながるおそれがあります。

穴あけや溶接など、強度を低下させてしまうような改造は行わないでください。

装備一覧

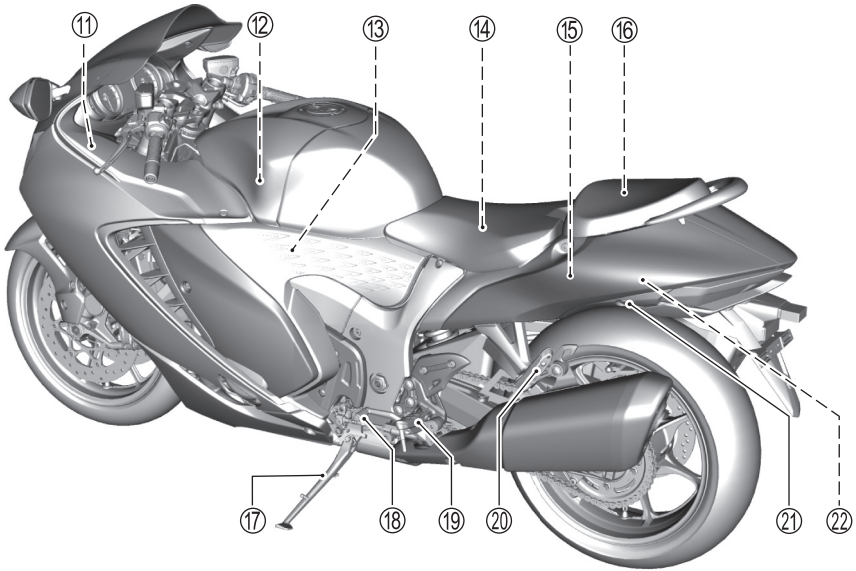
■ 各部の名称

ハンドル周り



① クラッチレバー（☞ P.102）
② 左ハンドルスイッチ（☞ P.23）
③ クラッチフルードリザーバタンク（☞ P.152）
④ メータ（☞ P.24）
⑤ メインスイッチ（☞ P.86）
⑥ フロントブレーキリザーバタンク（☞ P.154）
⑦ 右ハンドルスイッチ（☞ P.23）
⑧ スロットルグリップ
⑨ ブレーキレバー（☞ P.101）
⑩ フューエルタンクキャップ（☞ P.96）

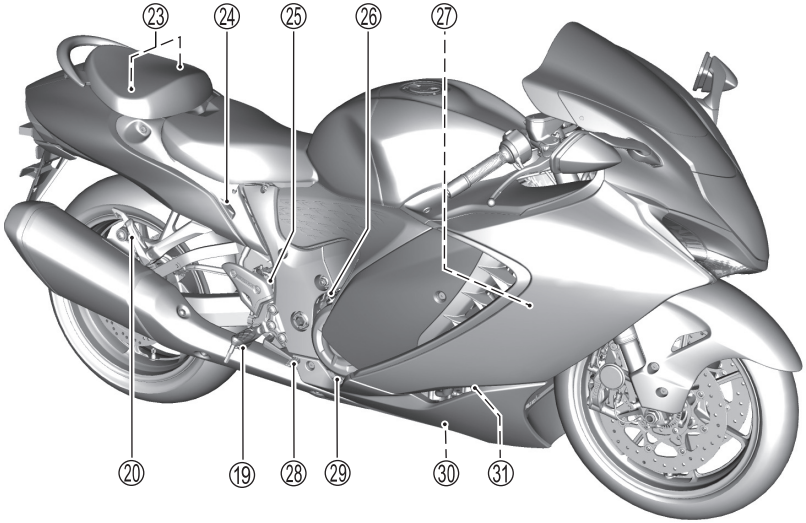
車両左側



⑪ ヒューズ（☞ P.164）
⑫ エアクリーナ（☞ P.138）
⑬ エアクリーナドレンプラグ（☞ P.141）
⑭ バッテリ（☞ P.135）
⑮ メインヒューズ（☞ P.164）
⑯ サービス工具（☞ P.129）
⑰ サイドスタンド（☞ P.105）
⑱ シフトペダル（☞ P.98）（☞ P.158）
⑲ フットレスト
⑳ 後席用フットレスト
㉑ シートロック（☞ P.103）
㉒ ETC ヒューズ（☞ P.165）

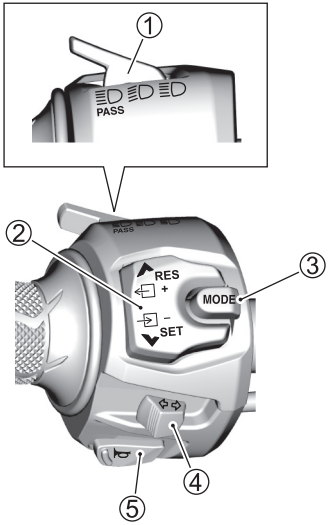
装備一覧

車両右側

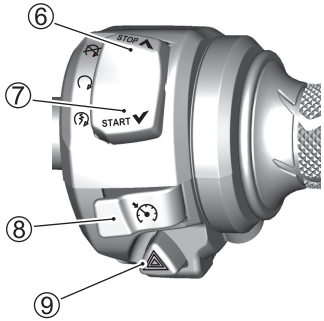


㉓ ヘルメットホルダ（☞ P.105）
㉔ リヤブレーキリザーバタンク（☞ P.154）
㉕ リヤブレーキランプスイッチ（☞ P.158）
㉖ エンジンオイル注入口（☞ P.144）
㉗ 冷却水リザーバタンク（☞ P.145）
㉘ リヤブレーキペダル（☞ P.157）
㉙ エンジンオイル点検窓（☞ P.143）
㉚ エンジンオイルドレンプラグ
㉛ エンジンオイルフィルタ（☞ P.141）

ハンドルスイッチ



左ハンドルスイッチ



右ハンドルスイッチ

左ハンドルスイッチ

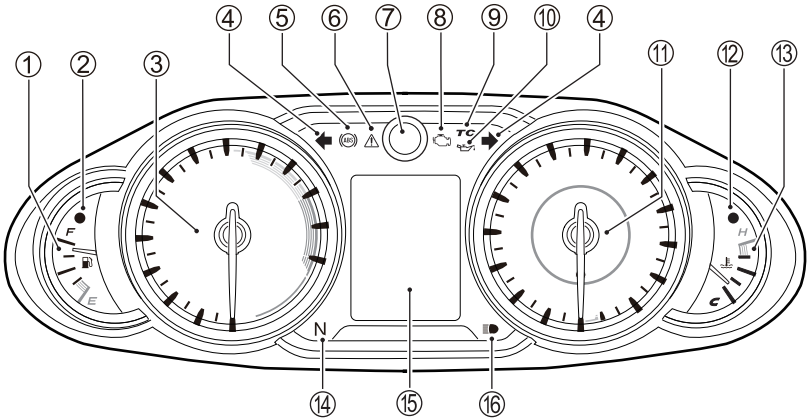
① ディマスイッチ / パッシングスイッチ（☞ P.90）
② セレクトスイッチ（☞ P.90）
③ モードスイッチ（☞ P.90）
④ ターンシグナルスイッチ（☞ P.91）
⑤ ホーンスイッチ（☞ P.90）

右ハンドルスイッチ

⑥ エンジンストップスイッチ（☞ P.91）
⑦ スタータスイッチ/ローンチコントロールシステムスイッチ（☞ P.92）
⑧ クルーズコントロールスイッチ（☞ P.76）
⑨ ハザードスイッチ（☞ P.92）

装備一覧

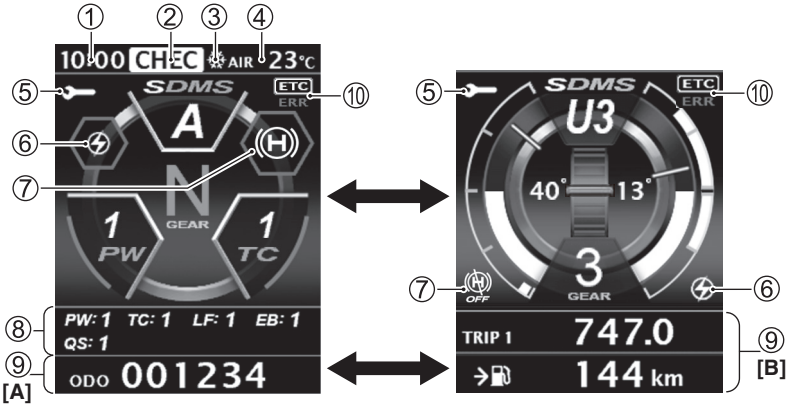
メータ、警告灯、インジケータライト



① フューエルメータ（☞ P.28）
② 燃料警告灯（☞ P.29）
③ タコメータ（☞ P.29）
④ ターンシグナルインジケータライト（☞ P.29）
⑤ ABS 警告灯（☞ P.30）
⑥ マスタウォーニングインジケータライト（☞ P.31）
⑦ エンジン回転インジケータライト（☞ P.31）
⑧ エンジン警告灯（☞ P.33）
⑨ TC インジケータライト（☞ P.33）
⑩ 油圧警告灯（☞ P.34）
⑪ スピードメータ（☞ P.35）
⑫ 水温警告灯（☞ P.35）
⑬ 水温計（☞ P.35）
⑭ ニュートラルインジケータライト（☞ P.36）
⑮ LCD（液晶ディスプレイ）（☞ P.25）
⑯ ハイビームインジケータライト（☞ P.36）

LCD(液晶ディスプレイ)

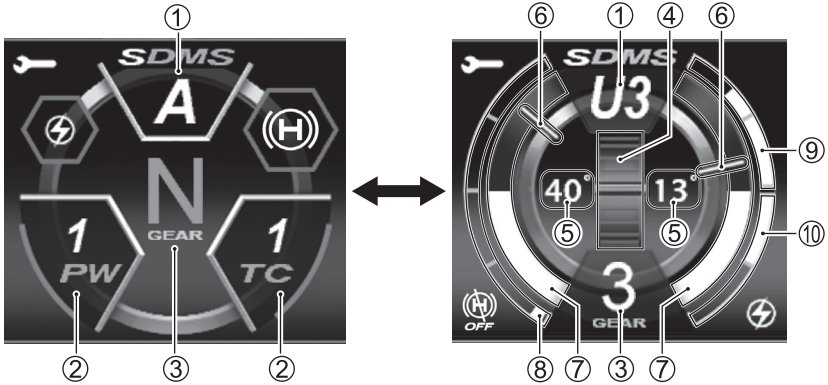
＜共通機能＞



① 時計 (☞ P.36)
② 故障診断表示 (☞ P.36)
③ フリーズインジケータ (☞ P.37)
④ 外気温計 (☞ P.37)
⑤ サービスリマインダインジケータ (☞ P.38)
⑥ エンジン回転インジケータ (☞ P.31)
⑦ ヒルホールド表示 (☞ P.38)
⑧ 運転アシストシステムインジケーター一覧 (☞ P.39)
⑨ インフォメーションウインドウ
[A]：一段表示
[B]：二段表示
(☞ P.39)
⑩ ETC インジケータ /ERR インジケータ (☞ P.44)

装備一覧

＜メイン画面＞

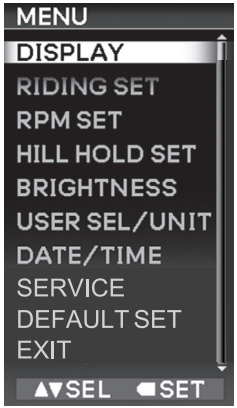


メイン画面の切替（☞ P.46）

① SDMS-α*（スズキドライブモードセレクタアルファ）（☞ P.48）
② 運転アシストシステムインジケータ（L/R）（☞ P.49）
③ ギヤポジションインジケータ（☞ P.53）
④ 前後加速度（☞ P.55）
⑤ 最大バンク角（L/R）（☞ P.54）
⑥ バンク角ピークホールドバー（L/R）（☞ P.54）
⑦ バンク角（L/R）（☞ P.54）
⑧ スロットル開度（☞ P.54）
⑨ フロントブレーキ圧（☞ P.55）
⑩ リヤブレーキ圧（☞ P.55）

***メータ表示上ではSDMS-αをSDMSと省略して表記しています。本オーナーズマニュアルでもメータ表示に合わせてSDMSと表記して説明を行います。**

<MENU画面>



「MENU」画面の表示（☞ P.46）

① DISPLAY（☞ P.46）
メイン画面の表示を設定します。

② RIDING SET（☞ P.56）
3 つのユーザー設定モードの選択および各システムの制御レベルを設定します。

③ RPM SET（☞ P.58）
エンジン回転インジケータライトを設定します。

④ HILL HOLD SET（☞ P.62）
ヒルホールドを設定します。

⑤ BRIGHTNESS（☞ P.64）
バックライト照明の輝度を調整します。

⑥ USER SEL/UNIT（☞ P.65）
ユーザー設定モードの有効 / 無効と単位を設定します。

⑦ DATE/TIME（☞ P.66）
日付と時間を設定します。

⑧ SERVICE（☞ P.67）
サービスリマインダの設定値を確認します。

⑨ DEFAULT SET（☞ P.68）
「MENU」の各種設定を初期値に戻します。

⑩ EXIT
メイン画面に戻ります。

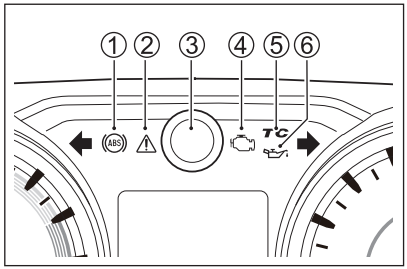
メータの見かた

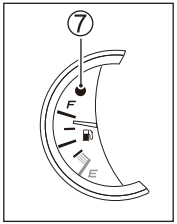
■ メインスイッチをONにしたとき

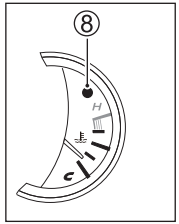
- 液晶ディスプレイ、各指針および照明は約3秒間のオープニング動作を行います。
- 次の警告灯、インジケータライトが約2秒間点灯します。
  - エンジン警告灯④
  - マスタウォーニングインジケータライト②
  - エンジン回転インジケータライト③
  - 燃料警告灯⑦
  - 水温警告灯⑧
- 次の警告灯、インジケータライトが点灯します。
  - 油圧警告灯⑥
  - ABS警告灯①
  - TCインジケータライト⑤

アドバイス

警告灯、インジケータライトの消灯する条件は、各警告灯、インジケータライトの項目を参照してください。

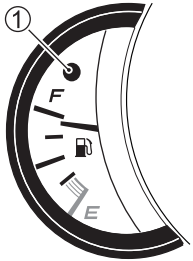






■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量の目安を示します。“E”は燃料が空であることを、“F”は燃料が満タンであることを示します。この車は、燃料警告灯①を装備しています。



アドバイス

サイドスタンドで車体を傾けた状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。

燃料警告灯

燃料が約5.0リットルを下回ると、燃料警告灯が点灯します。メインスイッチを「ON」にすると、約2秒間点灯し、タンクに十分な燃料がある場合は消灯します。

アドバイス

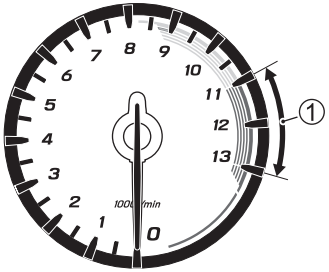
燃料警告灯が点灯したときはすみやかにガソリンを給油してください。

■ タコメータ

エンジンの回転速度（回転数）を示します。

レッドゾーン

レッドゾーン①とは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。エンジン保護のため、指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。
走行速度が高いときにシフトダウンするとエンジン回転数が上がり過ぎる場合がありますのでとくに注意してください。



■ ターンシグナルインジケータライト⇦⇨

右または左のターンシグナルランプが作動すると、ターンシグナルインジケータライトが点滅します。

アドバイス

断線故障などでターンシグナルランプが正常に作動していないときは、通常時より早く点滅して異常があることをお知らせします。（ESS（エマージンシストップシグナル）が作動中の場合を除く）

メータの見かた

■ ABS警告灯 (ABS)

- メインスイッチを ON にすると点灯し、車速が約5 km/hを超えると消灯します。
- ABSに異常があると、点灯し続けます。点灯している間は、ABSは作動しません。

⚠警 告

ABS警告灯が点灯しているときはABSが作動しません。この状態で急ブレーキをかけるとホイールがロックすることがあります。

速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ABS警告灯が点灯したまま走行するのは、いざというときにABSが働かずに事故の原因になるおそれがあります。

もし、運転中にABS警告灯が点滅または点灯したときは、安全な場所に停車して、メインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動してABS警告灯を確認します。

- **走行を開始し、ABS 警告灯が消灯すれば正常に機能しています。**
- **走行を開始しても、ABS 警告灯が消灯しない場合はABSが機能していませんので、スズキ販売店で点検を受けてください。**

アドバイス

- **走行前にエンジンの空ぶかしをすると、ABS警告灯が消灯する場合があります。**
- **エンジン始動後、走行前に ABS 警告灯が消灯したときはメインスイッチを一旦OFFにし、再度ONにしてABS警告灯が点灯することを確認してください。メインスイッチをONにしたときにABS警告灯が点灯しない場合は、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。**

■ マスタウォーニングインジケータライト ⚠

メインスイッチをONにすると、ランプチェックのため約2秒間点灯したあと、消灯します。

次の故障が発生すると赤色または黄色に点灯します。

- エンジン関連
- ABS関連
- バッテリ電圧低下（赤）
- ハンドルスイッチ（黄）
- 外気温センサ（黄）
- 転倒したとき（黄）

（☞「故障診断表示」（P.36））

アドバイス

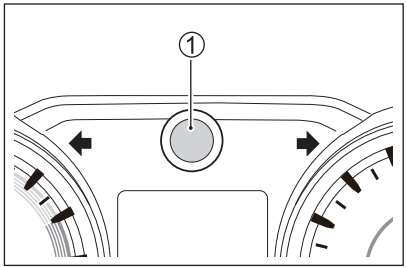
マスタウォーニングインジケータライトが点灯した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ エンジン回転インジケータ

エンジン回転インジケータライト①が点滅/点灯する設定になっている場合に表示します。メイン画面の表示切替により表示する位置が異なります。
設定は「RPM SET」(P.58)を参照してください。

エンジン回転インジケータライト

エンジン回転数が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライトが緑（SUB）、黄（SUB）、白（MAIN）の順に点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。設定は「RPM SET」(P.58)を参照してください。
MAIN（白）は4,000～11,000 r/min、SUBは250～3,000 r/minの範囲で設定可能です。



初期設定（工場出荷時）

- MODE：OFF
- MAIN：10,000 r/min
- SUB：1,000 r/min
- BRIGHT：4

メータの見かた

例：MAIN設定を10,000 r/min、SUBを1,000 r/minに設定した場合

例：MAIN 設定を10,000 r/minに設定した場合

SUB 設定回転数 (r/min)	SUB点灯/点滅 回転数（r/min）		MAIN点灯/点滅 回転数（r/min）
	(緑)	(黄)	(白)
250	9,500	9,750	10,000
500	9,000	9,500	10,000
1,000	8,000	9,000	10,000
1,500	7,000	8,500	10,000
2,000	6,000	8,000	10,000
2,500	5,000	7,500	10,000
3,000	4,000	7,000	10,000

例：MAIN設定を10,000 r/minに設定し、SUB設定を500 r/minに設定した場合

エンジン回転数（r/min）および設定回転数（r/min）	SUB				MAIN	
	(緑)		(黄)		(白)	
エンジン回転数 < 9,000	–		–		–	
9,000 ≦ エンジン回転数 < 9,500	○点灯	※点滅	–		–	
9,500 ≦ エンジン回転数 < 10,000	–		○点灯	※点滅	–	
10,000 ≦ エンジン回転数	–		–		○点灯	※点滅

■ エンジン警告灯

メインスイッチをONにすると、ランプチェックのため約2秒間点灯し、その後消灯します。

エンジンの排気ガス低減制御装置、電子制御装置に異常が発生したとき、または失火を検知すると点灯または点滅します。
エンジン警告灯が点灯または点滅した場合、同時に液晶ディスプレイに故障診断表示“FI”を表示します。（☞「故障診断表示」（P.36））

注 記

点灯、点滅したまま走行を継続すると、排気ガス低減装置や操作性へ影響を与えます。

エンジン運転中に点滅した場合は、触媒装置が損傷するおそれがありますので速やかに停車し、エンジンを止めてください。やむをえず走行する場合は、スロットルを大きく開けず低速で走行してください。その後、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジン警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ TCインジケータライト

TC

TCインジケータライトの作動は、お車の設定によって異なります。

- メインスイッチを ON にすると点灯し、速度が約10 km/hになるとトラクションコントロールシステムが作動可能な状態になり消灯します。
- トラクションコントロールシステム作動時は点滅します。
- トラクションコントロールシステムをOFFに設定すると常時点灯します。

システム詳細は下記を参照してください。
「モーショントラックトラクションコントロールシステム」（P.69）

設定方法は下記を参照してください。

- 「運転アシストシステムインジケータ（L、R）」（P.49）
- 「RIDING SET」（P.56）

メータの見かた

TCインジケータライトとエンジン警告灯が同時に点灯したときは、安全な場所に停車してメインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動し、10 km/h以上で走行したときのTCインジケータライトとエンジン警告灯の点灯状態を確認してください。

- 10 km/h以上で走行したときにTCインジケータライトが消灯すれば、正しく機能しています。
- 10 km/h 以上で走行しても TC インジケータライトが消灯しない場合は正しく機能していません。消灯しないときは、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

トラクションコントロールシステムに異常があるときは、TCインジケータライトとエンジン警告灯が同時に点灯します。このときには、トラクションコントロールシステムが作動しません。

同時に点灯したときは、トラクションコントロールシステムをOFFに設定して、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ 油圧警告灯“ ”

メインスイッチをONにすると油圧警告灯が点灯します。正常時はエンジンの始動とともに油圧警告灯は消灯します。
エンジン始動後にエンジン油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。点灯したらエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。（☞P.143 「エンジンオイル量の点検」を参照）

注 記

油圧警告灯が点灯したまま走行するとエンジンやトランスミッションに損傷を与えるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯したときは、すぐにエンジンを止めてください。エンジンオイル量を点検し、オイルが不足しているときは、オイルを補充してください。オイル量が適切なのに油圧警告灯が消灯しない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

エンジンを始動した後に油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開いたり走行したりすると、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

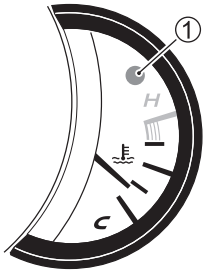
スロットルを操作する前や走行する前に油圧警告灯が消えていることを確認してください。

■ スピードメータ

走行速度をkm/hの単位で示します。

■ 水温計

水温計は、エンジン冷却水の温度を表示します。この車は、水温警告灯①を装備しています。



水温警告灯

メインスイッチをONにすると、ランプチェックのため約2秒間点灯します。
エンジン冷却水の温度が規定値を超えると点灯します。
走行中またはアイドリング中に水温警告灯が点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。オーバーヒートの可能性がありますのでトラブルシューティングの項を参照して、確認や処置を行ってください。（☞「オーバーヒートしているときは」（P.168））

注 記

水温警告灯が点灯した状態で運転すると、オーバーヒートによりエンジンが損傷するおそれがあります。

水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめてエンジンを冷やしてください。また、水温警告灯が消灯するまでエンジンをかけないでください。

アドバイス

高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめてエンジンを冷やしてください。

メータの見かた

■ ニュートラルインジケータライト N

トランスミッションがニュートラル（ギヤが入っていない）のときに緑色のインジケータライトが点灯します。ニュートラル以外のときに消灯します。

■ ハイビームインジケータライト

ヘッドランプが上向きのときに青色のインジケータライトが点灯します。

■ 時計

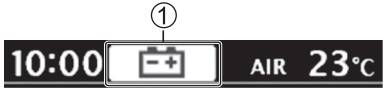
時分を１２時間表示で表示します。

時計（調整）の詳細は「DATE/TIME」(P.66)を参照してください。

■ 故障診断表示

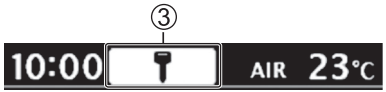
液晶ディスプレイ上部に故障情報を表示します。次の表示が出ている場合は、速やかにスズキ販売店にご相談ください。

① バッテリ電圧低下



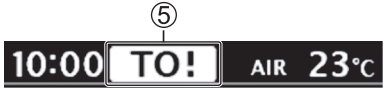
② コントローラ間の通信不能

③ イモビライザの未承認



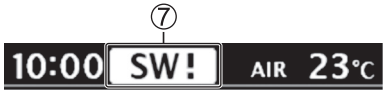
④ エンジン関連の故障検出

⑤ 車両の転倒



⑥ ヒルホールド機能の故障

⑦ ハンドルスイッチの故障



⑧ 外気温センサの故障

アドバイス

“CHEC”と表示されたときは、エンジンの始動ができません。次の項目を点検してください。CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店にご相談ください。

- **各ヒューズが切れていないか**
- **メータなどのコネクタが接続されているか**

アドバイス

走行する環境（高度、気温など）によっては、故障診断表示が機能しない場合があります。

■ 外気温計

外気温計は、常に周辺の外気温を表示します。

- 表示温度の範囲：－10℃～50℃
- －10℃より低温の場合：“LO”
- 50℃より高温の場合：“HI”

アドバイス

- **温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。**
- **外気温センサに異常を検出したときは、外気温計は“--”を表示し、故障診断表示に“AIR !”を表示します。また、マスタウォーニングインジケータライトが黄色に点灯します。**

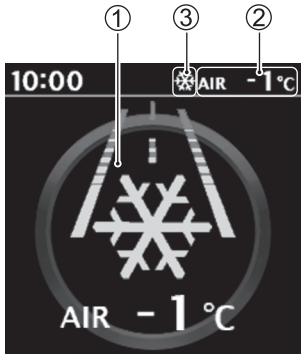
低温時

外気温が3℃を下回るとメイン画面にフリーズマーク①を表示します。また、外気温計②が30秒間点滅します。その後は、外気温が5℃を上回るまでフリーズインジケータ③が点灯します。

フリーズマーク①の表示中に、MODEスイッチ、セレクトスイッチ（(UP、DOWN)のいずれかを押したり、ローンチコントロールシステム画面、クルーズコントロールシステム画面、アクティブスピードリミッタの作動条件を満たしたときは、次の状態になります。

- フリーズマーク①を表示する前の通常画面*
- 外気温計②の点滅終了
- フリーズインジケータ③を点灯

*** ローンチ画面、スピードコントロール画面表示条件が成立した場合を除く**



メータの見かた

アドバイス

- **温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。**
- **フリーズマーク表示したときは、路面が凍結している可能性があるため、路面の状況に注意して運転してください。**

■ サービスリマインダインジケータ

日付と距離の設定をもとに、次回の点検時期をお知らせします。設定された日付または距離に達すると点灯します。
詳細は、「SERVICE」(P.67) を参照してください。

アドバイス

サービスリマインダの設定はスズキ販売店にご相談ください。

■ ヒルホールド表示

ヒルホールドの作動状態を次の様に表示します。

表示		システムの状態
-	消灯	スタンバイ
	点灯	システムがブレーキを制御中
	点滅	ブレーキ制御解除の事前通知
	点灯	・システムがオフ ・システム故障時

- 設定方法は、「HILL HOLD SET」(P.62)を参照ください。
- システム詳細は、「ヒルホールドコントロールシステム」(P.84)を参照ください。

アドバイス

- ブレーキレバーとブレーキペダルを離してから約27秒経過すると、ヒルホールド表示が点滅してお知らせします。点滅を始めて約3秒後にシステムが解除されます。
- バッテリ電圧が低下しているときは、エンジン始動時にABS警告灯と（H）OFFの表示が一時的に点灯する場合が有ります。車速が5 km/h以上になった時に、両方とも消灯したときは問題ありません。

⚠警 告

液晶ディスプレイの故障診断表示に“HILL”の表示が出て、マスタウォーニングインジケータライトが点灯したときは、ヒルホールドが機能しません。この状態で登り坂で停車した場合、車両が後退して事故や転倒の原因になります。

“HILL”の表示が出て、マスタウォーニングインジケータライトが点灯したときは、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ 運転アシストシステムインジケータ覧

運転アシストシステムインジケータに設定できる制御システム全ての設定状態を表示します。また、運転アシストシステムインジケータの変更および保存に使用します。運転アシストシステムインジケータに設定しているシステムの略称は、枠で囲われ、グレーで表示します。
運転アシストシステムの表示と設定については、「運転アシストシステムインジケータ（L、R）」(P.49)をご覧ください。

■ インフォメーションウインドウ

通常画面でSDMSや運転アシストシステムインジケータを選択していないときにMODEスイッチを2秒間長押しすることで1段表示もしくは2段表示で次の情報を表示します。

アドバイス

バッテリを外したあとは、1段表示となります。

メータの見かた

一段表示

セレクトスイッチ（UP、DOWN）を操作して、枠内の表示を変更できます。

1-1	ODO	オドメータ	☞P.42
1-2	TRIP1	トリップメータ	☞P.42
1-3	TRIP1	平均燃費計（km/L, L/100 km）	☞P.42
1-4	TRIP1	累積時間	☞P.43
1-5	TRIP2	トリップメータ	☞P.42
1-6	TRIP2	平均燃費計（km/L, L/100 km）	☞P.42
1-7	TRIP2	累積時間	☞P.43
1-8		電圧計	☞P.43
1-9	瞬間燃費計		☞P.43
1-10		航続可能距離計	☞P.43

二段表示

セレクトスイッチ（UP、DOWN）を操作して、枠内の表示を変更できます。

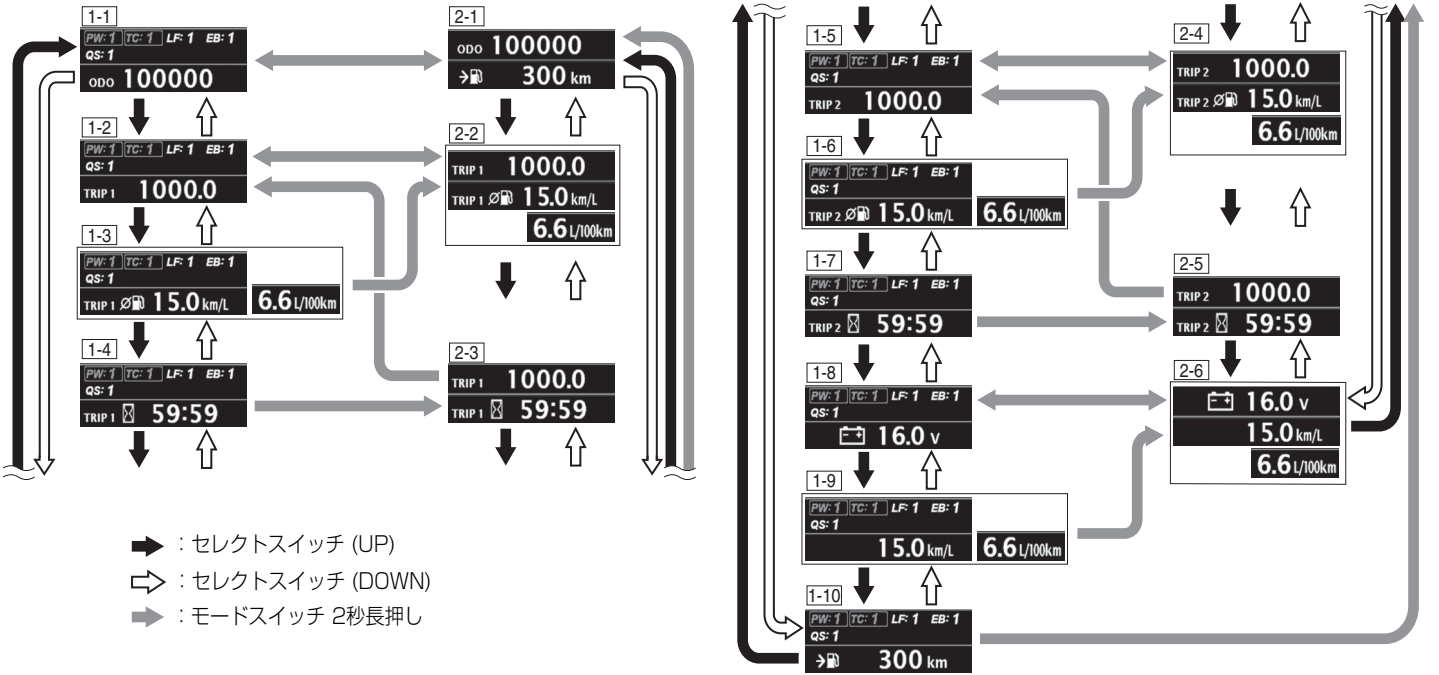
2-1	ODO	オドメータ	☞P.42
		航続可能距離計	☞P.43
2-2	TRIP1	トリップメータ	☞P.42
	TRIP1	平均燃費計（km/L, L/100 km）	☞P.42
2-3	TRIP1	トリップメータ	☞P.42
	TRIP1	累積時間	☞P.43
2-4	TRIP2	トリップメータ	☞P.42
	TRIP2	平均燃費計（km/L, L/100 km）	☞P.42
2-5	TRIP2	トリップメータ	☞P.42
	TRIP2	累積時間	☞P.43
2-6		電圧計	☞P.43
	瞬間燃費計		☞P.43

設定方法

セレクトスイッチ、MODEスイッチを使用して表示を切り替えます。

アドバイス

1-3、1-6、1-9、2-2、2-4、2-6については、単位を変更できます。詳しくは、「USER SEL/UNIT」(P.65)をご覧ください。


1-1
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
ODO 100000
1-2
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 1 1000.0
1-3
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 1 15.0 km/L
6.6 L/100km
1-4
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 1 59:59
2-1
ODO 100000
300 km
2-2
TRIP 1 1000.0
TRIP 1 15.0 km/L
6.6 L/100km
2-3
TRIP 1 1000.0
TRIP 1 59:59
1-5
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 2 1000.0
1-6
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 2 15.0 km/L
6.6 L/100km
1-7
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
TRIP 2 59:59
1-8
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
16.0 V
1-9
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
15.0 km/L
6.6 L/100km
1-10
PW: 1 TC: 1 LF: 1 EB: 1
QS: 1
300 km
2-4
TRIP 2 1000.0
TRIP 2 15.0 km/L
6.6 L/100km
2-5
TRIP 2 1000.0
TRIP 2 59:59
2-6
16.0 V
15.0 km/L
6.6 L/100km
：セレクトスイッチ (UP)
：セレクトスイッチ (DOWN)
：モードスイッチ 2秒長押し

メータの見かた

オドメータ

ODO 001234

総走行距離を示します。999,999 kmまで表示します。

アドバイス

オドメータの表示は999,999 kmを超えた場合は999,999 kmで固定されます。

トリップメータ

TRIP 1 2345.6

- リセット後の走行距離を9999.9まで表示します。
- TRIP1、2の2つのモードがあります。
- セレクトスイッチ（UP）を約2秒間押すとリセットし、0.0を表示します。リセットされるのは表示しているTRIP1または2だけで、表示していない方はそのままです。
- 表示の設定が1段表示（1-2、1-5）、2段表示（2-2〜2-5）のときにリセットすると対応する平均燃費計と累積時間もリセットします。

アドバイス

9999.9を超えると0.0に戻り、計測を続けます

平均燃費計

TRIP 1 24.0 km/L

TRIP 1 4.1 L/100km

- TRIP1、2各々の走行距離に対する燃費を次の範囲で表示します。
  - km/L：0.1 〜 99.9
  - L/100 km：2.0 〜 99.9
- トリップメータをリセットすると対応する平均燃費計もリセットします。
- トリップメータが0.0表示のときは、平均燃費計も0.0を表示します。

アドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。

トリップメータ累積時間

- 対応するトリップメータをリセットしてから現在までのメインスイッチをONにしている累積時間を99:59まで表示します。
- トリップメータをリセットすると対応する累積時間もリセットします。

電圧計

バッテリの電圧を10.0V ～ 16.0Vの範囲で表示します。

アドバイス

- **表示される値は、他の計測器の値と異なる場合があります。**
- **12.0V 以下の電圧値を頻繁に表示する場合は、スズキ販売店にご相談ください。**

瞬間燃費計

走行中の瞬間燃費を次の範囲で表示します。

- km/L：0 ～ 50
- L/100 km：2.0 ～ 50

アドバイス

- **車速が 3 km/h 以下のときは燃費測定されません。**
- **燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なります。**

航続可能距離計

現在の燃料残量で走行できるおよその航続可能距離を表示します。給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

サイドスタンドで駐車している場合は航続可能距離を更新しません。サイドスタンドを外して、航続可能距離を更新してください。バッテリを外すと航続可能距離計がリセットします。その場合は、一定距離を走行するまでーーーを表示します。

アドバイス

- **航続可能距離は、目安です。表示は実際の走行距離と異なる場合がありますので、早めの給油をおすすめます。**
- **航続可能距離を算出するための平均燃費は表示されません。また、表示されているトリップメータの平均燃費とは異なることがあります。**

メータの見かた

■ ETCインジケータ ETC

ETC2.0車載器の作動状況に応じて、次のページの表のように点灯、点滅、消灯します。

■ ERRインジケータ ERR

ITSスポットから注意喚起情報受信を受信したときやETC2.0車載器が使用できないときには、次のページの表のように点灯、点滅します。

⚠警 告

注意喚起情報受信時を除いて、ERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCが利用できません。

走行前や料金所通過時にはERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。

アドバイス

ETC　および車載器についての詳細は「ETC2.0車載器」(P.111)をご覧ください。

ETC利用	インジケータ表示		状態
○	ETC点灯 ERR消灯	ETC	・ETCが利用できるとき ・料金所で正常情報を受け取ったとき
○	ETC点灯 ERR点滅 （約0.1秒間隔で約5秒間）	ETC ERR	・ETCが利用できるとき ・ITSスポットから注意喚起情報を受信したとき
×	ETC点灯 ERR点灯	ETC ERR	・ETCが利用できないとき ・ETCカードが挿入されていないとき（車載器がセットアップ済み） ・料金所で停止情報を受け取ったとき
×	ETC点灯 ERR点滅 （約0.3秒周期）	ETC ERR	・ETCが利用できないとき ・ETCカードが認証中のとき ・ETCカードが挿入されていないとき（車載器が未セットアップ） ・車載器が故障しているとき
×	ETC点灯 ERR点滅 （約2秒間隔で3回点滅の繰り返し）	ETC ERR	・ETCが利用できないとき ・期限切れのETCカードを挿入したとき* ＊GPS信号を受信できないときは機能しません。 詳しくは、P.112の警告文をご覧ください。
×	ETC点灯 ERR点滅 （2回点滅の繰り返し）	ETC ERR	・ETCが利用できないとき ・アンテナが接続されていないとき
×	ETC点滅 ERR点滅	ETC ERR	・ETCが利用できないとき ・配線がつながっていないとき
–	ETC消灯 ERR消灯	–	・メインスイッチをオフにしたとき

メータの見かた

■ MENU

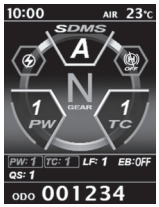
メニュー項目

「MENU」には、次の項目があります。
詳細は、それぞれの参照先をご確認ください。

- DISPLAY (☞ P.46)
- RIDING SET (☞ P.56)
- RPM SET (☞ P.58)
- HILL HOLD SET (☞ P.62)
- BRIGHTNESS (☞ P.64)
- USER SEL/UNIT (☞ P.65)
- DATE/TIME (☞ P.66)
- SERVICE (☞ P.67)
- DEFAULT SET (☞ P.68)

「MENU」の表示

通常画面のときに、セレクトスイッチ（DOWN）を長押しすると、「MENU」画面を表示します。選択したい項目をセレクトスイッチ（UP、DOWN）で選び、MODEスイッチの短押しで決定します。



通常画面

MENU画面

アドバイス

- **車速が10 km/h未満のときのみ「MENU」画面に切り替わります。**
- **次のときに「MENU」画面から通常画面に戻ります。**
  - **EXITを選択したとき**
  - **車速が10 km/h以上になったとき**
  - **MODEスイッチを長押ししたとき**

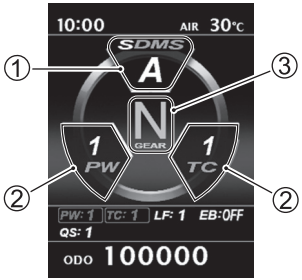
■ DISPLAY

通常画面の選択

通常表示する画面をセレクトスイッチ（UP、DOWN）で「SDMS」画面と「ACTIVE DATA」画面から選択しMODEスイッチで決定します。「MENU」画面に戻るには、EXITを決定します。

SDMS画面

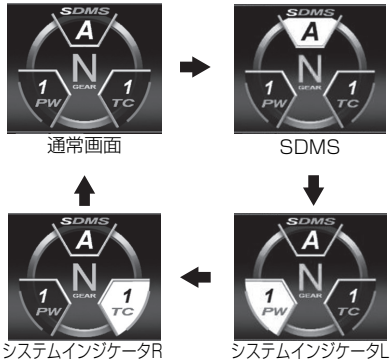
「SDMS」画面では、次の内容を表示します。



① SDMS-α（スズキドライブモードセレクタアルファ）（☞ P.48）
② 運転アシストシステムインジケータ（L,R）（☞ P.49）
③ ギヤポジションインジケータ（☞ P.53）

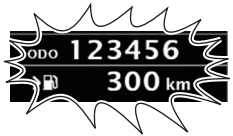
操作方法

通常画面でMODEスイッチを押すと設定を変更できるインジケータをハイライト表示します。選択後、セレクトスイッチ（UP、DOWN）で、設定を変更します。



アドバイス

運転アシストシステムインジケータRから通常画面に戻るときには、インフォメーションウインドウが2回点滅します。



メータの見かた

SDMS-α（スズキドライブモードセレクタアルファ）

SDMSのモード設定状態の表示と運転アシストシステム制御レベルを変更します。

アドバイス

- **メータ表示上では SDMS-α を SDMS と省略して表記しています。本オーナーズマニュアルでもメータ表示に合わせてSDMSと表記して説明を行います。**
- **スロットルグリップを回しているときは、ドライブモードの切り替えができません。ドライブモードの切り替えは、スロットルグリップを完全に戻した状態で行ってください。**
- **スロットルグリップを完全に戻した状態でSDMSモードと制御レベルを切り替えられないときは、安全な場所に車両を停止して、メインスイッチを一旦OFFしてください。再度メインスイッチをONにしても切り替えができない場合はスズキ販売店で点検を受けてください。**

<SDMSとは>

SDMSとは、モードを変更することで、モードを構成している5種類の運転アシストシステムと制御レベルを1度に変更できる機能です。天候、速度、道路状況、交通状況など、乗り心地や用途に合わせて設定してください。

6つのモードはA、B、C、U1、U2、U3が用意されています。

- A、B、C（スズキ設定）：制御レベルの変更はできますが保存はできません。変更したときは、メインスイッチをOFFにすると初期値に戻ります。
  - A：Active
    上級者が積極的に走るのに適したモード
  - B：Basic
    一般ライダーが街乗りからワインディングまで幅広くこなせるスタンダードモード
  - C：Comfort
    初心者や雨天走行に適したモード
- U1、U2、U3（ユーザー設定）：制御レベルの変更と保存ができます。

モードの初期設定

SDMS		PW	TC	LF	EB	QS
[S]	A	1	1	1	OFF	1
	B	2	5	5	OFF	1
	C	3	10	10	OFF	2
[U]	U1	1	1	1	OFF	1
	U2	2	5	5	OFF	1
	U3	3	10	10	OFF	2

[S]：スズキ設定（制御レベル変更不可）
[U]：ユーザー設定（制御レベル変更可能）
PW：パワーモードセレクタ(P.69)
TC：トラクションコントロールシステム(P.69)
LF：アンチリフトコントロールシステム(P.71)
EB：エンジンブレーキコントロールシステム(P.73)
QS：双方向クイックシフトシステム（P.73）

アドバイス

運転アシストシステムの機能については、参照先をご覧ください。

＜モード変更方法＞

SDMSをハイライト表示しているときにセレクトスイッチ（UP、DOWN）でモードを変更します。

A ↔ B ↔ C ↔ U1 ↔ U2 ↔ U3

アドバイス

- **「MENU」の「USER SEL/UNIT」(P.65)で表示しない設定にしたものは表示しません。**
- **スイッチによるSDMSの切替え操作は、画面が完全に切り替わってから次の操作を行ってください。**

運転アシストシステムインジケータ（L、R）

運転アシストシステムの設定の表示と切り替えに使用します。
この車では、LとRのそれぞれに下記の運転アシストシステムの中からお好みに合わせて１つずつ設定することができます。

- パワーモードセレクタ(P.69)
- トラクションコントロールシステム(P.69)
- アンチリフトコントロールシステム(P.71)
- エンジンブレーキコントロールシステム(P.73)
- 双方向クイックシフトシステム(P.73)

各機能の詳細は、参照先をご覧ください。

メータの見かた

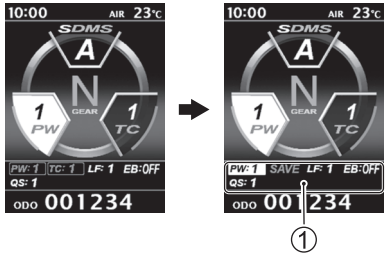
アドバイス

- システムの設定を変更したときは、SDMSが輪郭のみの表示に変化します。詳細は、「走行アシストシステムの設定を変更したときは」(P.58)をご覧ください。
- スロットルグリップを回しているときは、ドライブモードの切り替えができません。ドライブモードの切り替えは、スロットルグリップを完全に戻した状態で行ってください。
- スロットルグリップを完全に戻した状態でSDMSモードと制御レベルを切り替えられないときは、安全な場所に車両を停止させ、メインスイッチを一旦OFFしてください。再度メインスイッチをONしたときに切り替えができない場合はスズキ販売店で点検を受けてください。

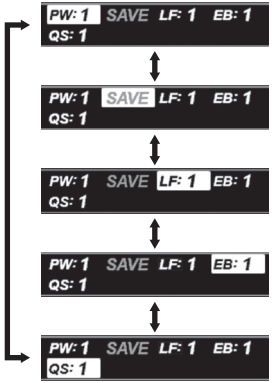
<表示するシステムの選択方法>

選択：セレクトスイッチ（UP、DOWN）
決定：MODEスイッチ

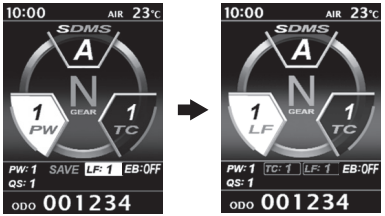
1. 運転アシストシステムインジケータLまたはRのインジケータをハイライト表示した状態で、MODEスイッチを2秒間長押して運転アシストシステムインジケータ一覧①を表示します。



2. 運転アシストシステムインジケータLまたはRに設定するシステムを選択します。決定すると同時に、選択したインジケータに切り替わります。



例:LFを設定したとき



アドバイス

運転アシストシステムインジケータLを設定しているときにはRに設定している項目、運転アシストシステムインジケータRを設定しているときにはLに設定している項目に“SAVE”を表示します。

<制御レベルの変更方法>

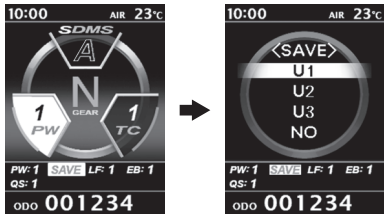
1. 運転アシストシステムインジケータLまたはRをハイライト表示しているときに、セレクトスイッチ(UP、DOWN)で制御レベルを変更します。

例：PW（パワーモードセレクタ）設定時

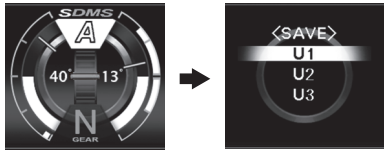
アドバイス

- **各システムの制御レベルの選択範囲については、「RIDING SET」(P.56)の設定方法をご覧ください。**
- **システムの設定を変更したときは、SDMSが輪郭のみの表示に変化します。詳細は、「走行アシストシステムの設定を変更したときは」(P.58)をご覧ください。**

2. 変更した制御レベルを保存する際は、SAVEを選択して決定後、保存するモード（U1、U2、U3）を選択します。



- 運転アシストシステムの設定値が変更された状態でACTIVE DATA画面に移行した際、変更中のSDMSを切り替える時に「SAVE」画面へ移行します。



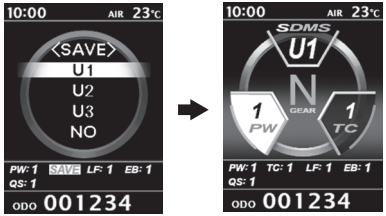
メータの見かた

アドバイス

- 「SAVE」画面の表示中に、クルーズコントロールスイッチなどを操作すると「SAVE」画面がキャンセルされることがあります。この場合、運転アシストシステムの設定は保存されません。
- 走行中は、運転アシストシステムの設定値を保存することができません。車両を停車させて、保存を行ってください。

- U1、U2、U3を選択したとき
  保存先を決定すると選択したモードの表示に切り替わります。

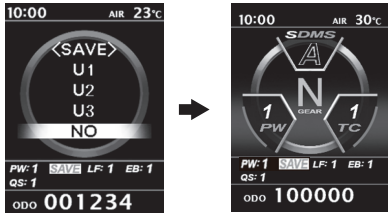
例:保存先をU1にしたとき



アドバイス

USER(SDMS)の表示設定で表示しない設定にしているモードに保存した場合は設定が変更され、保存したモードがSDMSに表示されるようになります。

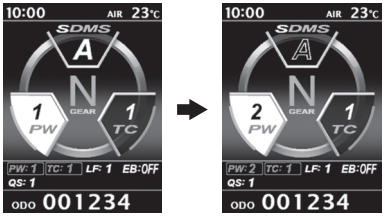
- NOを選択したとき
  NOを選択すると通常画面に切り替わります。



＜運転アシストシステムの設定の変更時は＞

運転アシストシステムの設定を変更したときは、SDMSが下記の様に“輪郭のみ”の表示に変化します。

例:PW（パワーモードセレクタ）の設定を1から2に設定したとき



お好みの設定に変更しただけでは設定が保存されていませんので、メインスイッチをOFFにする前に保存してください。保存方法は「＜制御レベルの変更方法　＞」(P.51)を参照してください。

⚠警 告

制御レベルを変更していることを確認せずに走行すると、制御レベルが予測と違った際に事故の原因になるおそれがあります。

走行時にはSDMSの表示で設定変更の有無を確認してください。

ギヤポジションインジケータ

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（ギヤが入っていない）のときはNを表示します。

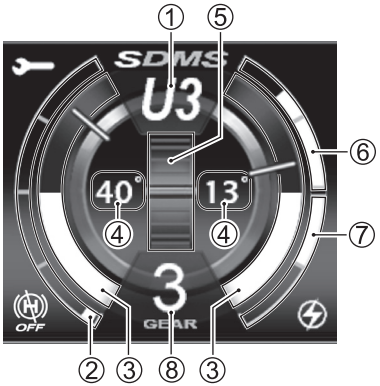
アドバイス

液晶ディスプレイの故障診断表示に“CHEC”が表示されているときは、ギヤポジションインジケータには“－”が表示されます。

メータの見かた

ACTIVE DATA画面

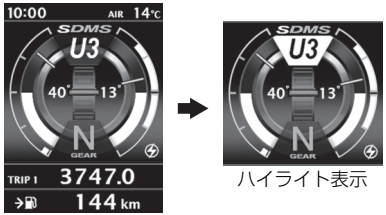
ACTIVE DATA画面では、次の内容を表示します。



① SDMS-α（スズキドライブモードセレクタアルファ）(P.48)
② スロットル開度 (P.54)
③ バンク角 (L/R) (P.54)
④ 最大バンク角 (L/R) (P.54)
⑤ 前後加速度 (P.54)
⑥ ブレーキ圧（フロント）(P.55)
⑦ ブレーキ圧（リヤ）(P.55)
⑧ ギヤポジションインジケータ (P.53)

<操作方法>

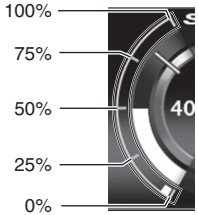
通常画面で MODE スイッチを押すとSDMSをハイライト表示します。選択後、セレクトスイッチ（UP、DOWN）で、設定を変更します。



通常画面　　ハイライト表示

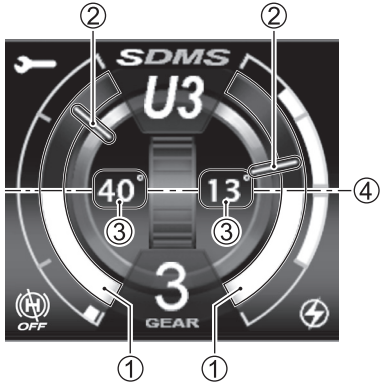
<スロットル開度>

スロットル操作に連動して、スロットル開度をハイライト表示します。



<バンク角（左/右）、最大バンク角（左/右）>

バンク角①は、走行中の車体の傾斜に連動して、車体の左右のバンク角をハイライト表示します。また、バンクした角度の最も深い角度をピークホールドバー②で表示します。
最大バンク角③は、運転中の最大バンク角を数値で表示します。



① バンク角（左、右）
② ピークホールドバー（左、右）
③ 最大バンク角（左、右）
④ 基準水平（0°）

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視することは危険です。

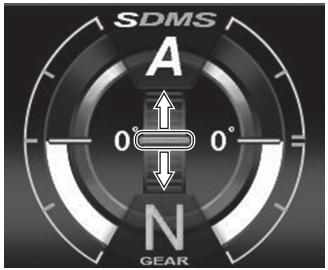
メータやスイッチを見ながら運転しないでください。

アドバイス

- **次の操作で角度をリセットします。**
  - **メインスイッチをOFFにする**
  - **SDMS選択中にセレクトスイッチ（UP）を約2秒間長押しする**
- **スロットル開度、バンク角および最大バンク角の表示は目安としてください。**

<前後加速度>

走行中の加速度および減速度に連動して表示します。



<フロントブレーキ圧/リヤブレーキ圧>

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの操作に連動して、フロントブレーキとリヤブレーキのブレーキ圧をハイライト表示します。

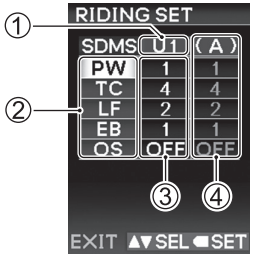
① フロントブレーキ圧
② リヤブレーキ圧

メータの見かた

■ RIDING SET

次の手順で、SDMS(P.48)のユーザー設定（U1、U2、U3）を行います。

設定項目



① 選択中の SDMS モード
② 運転アシストシステムの設定項目
- PW：パワーモードセレクタ(P.69)
- TC：トラクションコントロールシステム(P.69)
- LF：アンチリフトコントロールシステム(P.71)
- EB：エンジンブレーキコントロールシステム(P.73)
- QS：双方向クイックシフトシステム(P.73)

③ 運転アシストシステムの設定状態
④ 設定の参考値

アドバイス

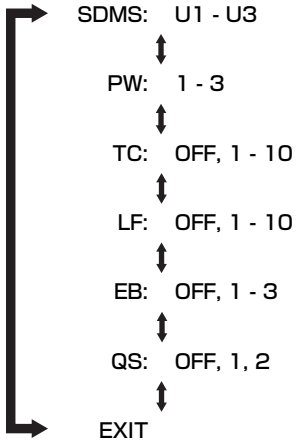
- **各システムの機能についてはそれぞれの参照先をご覧ください。**
- **お好みの設定に変更するには、まず ④「設定の参考値」の中からお好みの設定に近いものを探し、次に各運転アシストシステムの制御レベルを変更してお好みの設定に近づけることをおすすめします。**
- **U1、U2、U3に保存されている設定は、バッテリを取り外しても記憶しています。**

設定方法

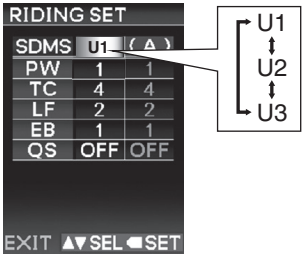
選択：セレクトスイッチ（UP、DOWN）
決定：MODEスイッチ

1. 「MENU」の「RIDING SET」を選択し、決定します。

2. 設定する SDMS のモードおよび運転アシストシステムを選択し、決定します。それぞれの機能は、次の設定範囲から選択できます。



[SDMS]



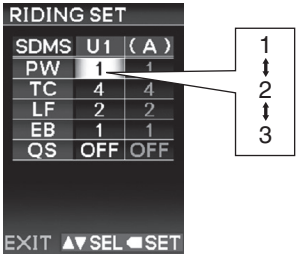
アドバイス

右の列には、SDMSのモードに合わせて設定の参考値を次の様に表示します。

U1⇔(A)、U2⇔(B)、U3⇔(C)

[PW、TC、LF、EB、QS]

例：PW



アドバイス

- 設定を変更した時点で、選択中のSDMSのモードに保存されます。
- モードや数値の設定中に10秒間操作がない場合には、設定中の数値で決定し、項目の選択状態に戻ります。
- 走行中は設定ができません。設定中に走り始めた場合には、選択中の設定で決定し、通常画面に戻ります。

設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき
- メインスイッチをOFFしたとき

メータの見かた

3. 「EXIT」を選択すると、「MENU」画面に戻ります。

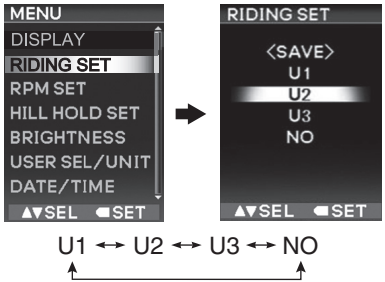
走行アシストシステムの設定を変更したときは

選択：セレクトスイッチ（UP、DOWN）
決定：MODEスイッチ

通常画面で運転アシストシステムの設定を変更するとSDMSの表示が“輪郭”のみになります。このときに「MENU」画面の「RIDING SET」へ移行しようとすると、下記のSAVE画面を表示しますので保存先のモードを選択し決定します。保存しないときは、「NO」を選択します。
保存完了後は、「RIDING SET」画面に切り替わります。

運転アシストシステムの設定の変更時

RIDING SETへの移行時



■ RPM SET

エンジン回転インジケータライトを設定するには、次の手順で行います。

1. 「MENU」表示からRPM SETを選択し、MODE スイッチを押します。「RPM SET」が点滅し、設定画面に切り替わります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押すと選択した項目が次の順にハイライト表示します。
「MODE」⇔「MAIN」⇔「SUB」⇔「BRIGHT」⇔「EXIT」⇔「MODE」

設定内容は、下記の5項目です。

1. MODE（モード）
エンジン回転インジケータライトの点灯、点滅、OFF（消灯）を設定します。

2. MAIN
MAIN（白色）の点灯タイミング（エンジン回転数）を設定します。

3. SUB
SUB（緑色、黄色）の点灯タイミング（エンジン回転数）を設定します。

4. BRIGHT
エンジン回転インジケータライトの輝度を設定します。

5. EXIT
「MENU」画面に戻ります。

アドバイス

「MODE」を「OFF」に設定した場合、「MAIN」、「SUB」、「BRIGHT」の設定はできません。設定する場合は、「MODE」の設定を「○」LIGHT　または「☼」BLINKを選択します。☞「MODE（モード）設定」（P.60）

メータの見かた

設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき

アドバイス

- **バッテリ端子を外した場合は、エンジン回転インジケータライトを再設定してください。**
- **バッテリ端子を外した場合は、以下の設定になります。**
  - MODE：OFF
  - MAIN：10,000
  - SUB：1,000
  - BRIGHT：レベル4
- **設定中にメインスイッチを OFF にすると、変更は保存されません。**
- **スイッチの操作がない状態が10秒間続くと、変更を決定し設定は終了します。**

MODE（モード）設定

次の手順でエンジン回転インジケータライトの点灯・点滅・消灯を設定します。

1. MODE（モード）を選択中にMODEスイッチを押すと設定に移ります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押し、エンジン回転インジケータライトのモードを○（点灯）、☼（点滅）、OFF（消灯）から選択します。エンジン回転インジケータ“⚡”は（点灯）、（点滅）の選択と連動します。

エンジン回転インジケータライトとエンジン回転インジケータ“⚡”の表示を下表に示します。

MODE	○（点灯）	☼（点滅）	OFF（消灯）
MAIN	○	☼	–
SUB	○	☼	–
エンジン回転インジケータ表示“⚡”	⚡	⚡	–

3. MODE スイッチを押すと設定が確定し項目の選択画面に戻ります。

MAIN作動回転数設定

次の手順でエンジン回転インジケータライトの点灯/点滅タイミング（エンジン回転数）を設定します。

1. 「MAIN」を選択中にMODEスイッチを押すと設定画面に移ります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して、回転数を設定します。
   - 設定範囲は 4,000 r/min から 8,000 r/minまでは、500 r/min単位で設定できます。
   - 設定範囲は 8000 r/min から 11,000 r/minまでは、250 r/min単位で設定できます。
   - タコメータの針は設定した回転数を示し、モードに応じてMAIN（白色LED）が点灯/点滅します。
3. MODE スイッチを押すと設定が確定し項目の選択画面に戻ります。

SUB作動回転数設定

次の手順でエンジン回転インジケータライトの点灯/点滅タイミング（エンジン回転数）を設定します。

1. 「SUB」を選択中にMODEスイッチを押すと設定画面に移ります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して回転数を設定します。設定回転数は次の通りです。
   250 r/min ⇔ 500 r/min ⇔ 1000 r/min ⇔ 1500 r/min ⇔ 2000 r/min ⇔ 2500 r/min ⇔ 3000 r/min ⇔ 250 r/min
3. MODE スイッチを押すと設定が確定し項目の選択画面に戻ります。

メータの見かた

BRIGHT（輝度）設定

次の手順でエンジン回転インジケータライトの輝度を設定します。

1. 「BRIGHT」を選択中にMODEスイッチを押すと設定画面に移ります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して照度を設定します。調整範囲は、“1”（最低）から“6”（最高）までの6段階です。
3. MODE スイッチを押すと設定が確定し項目の選択画面に戻ります。

■ HILL HOLD SET

ヒルホールドを設定します。ヒルホールドをONに設定すると、上り坂での停車状態からの再発進を補助します。
システムの詳細は「ヒルホールドコントロールシステム」(P.84)を参照してください。

1. 「MENU」表示から「HILL HOLD SET」を選択し、MODEスイッチを押します。「HILL HOLD SET」が点滅し、設定画面に切り替わります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して「ON」または「OFF」を選択します。選択した項目がハイライト表示します。

<ON>
ヒルホールドが機能します。
「ON」に設定しているときは、ヒルホールド表示①がシステムの作動に合わせて消灯、点灯、点滅します。

①

<OFF>
ヒルホールドが機能しません。
「OFF」に設定しているときは、下記のヒルホールド表示②が点灯します。

②

3. MODEスイッチを押します。チェックマーク“✓”が選択した項目に移動し確定します。確定すると「MENU」画面に戻ります。

アドバイス

ヒルホールド機能にエラーが発生しているときは、ONに設定することはできません。

設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき
- メインスイッチをOFFしたとき

メータの見かた

■ BRIGHTNESS

メータのバックライトの明るさを6段階で調節します。明るさは、初期設定ではレベル4に設定されています。

1. 「MENU」表示から「BRIGHTNESS」を選択し、MODEスイッチを押します。「BRIGHTNESS」が点滅し、設定画面に切り替わります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して、明るさを設定します。設定したレベルが明るく表示されます。

3. MODE スイッチを押すと設定が確定し「MENU」画面に戻ります。

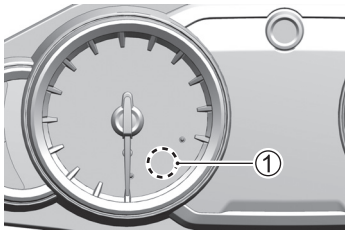
設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき
- メインスイッチをOFFしたとき

アドバイス

- **このメータは、周囲の明るさに応じて液晶やメータの照明を自動的に調整するために光センサ①が設けられています。光センサが覆われていると自動調光が正常に機能しない場合があります。**



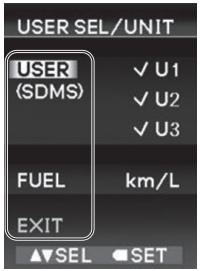
- **液晶画面が熱くなると、画面が暗くなることがあります。画面温度が下がれば通常の状態に戻ります。暗い画面から回復しない場合は、スズキ販売店にご相談の上、点検を受けてください。**

■ USER SEL/UNIT

ユーザー設定モードの有効、無効と単位表示の設定をします。

1. 「MENU」画面で「USER SEL/UNIT」を選択し、MODEスイッチを押します。「USER SEL/UNIT」が点滅し、設定画面に切り替わります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して項目（「USER (SDMS)」、「FUEL」または「EXIT」）を選び、MODEスイッチを押して決定します。



<USER (SDMS)>

SDMSで選択できるSDMSユーザー設定モード（U1/U2/U3）を設定します。
チェックを入れているモードのみ選択可能になり、チェックを外すとグレー表示になって選択できなくなります。
「SDMS」初期画面には、チェックマークが付いているユーザーモード（「U1」、「U2」、および「U3」）が表示されます。

例：「SDMS」初期画面（U1選択時）

メータの見かた

U1、U2、U3：
選択すると有効になります。選択を解除すると、無効になります。

BACK：
「USER SEL/UNIT」の設定画面に戻ります。

<FUEL>

燃料ユニットの設定に使用します。
表記を「km/L」または「L/100 km」に設定します。

<EXIT>

「MENU」画面に戻ります。

設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

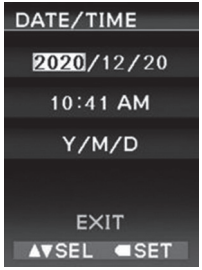
- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき
- メインスイッチをOFFしたとき

■ DATE/TIME

次の手順で日付と時刻を設定します。

1. 「MENU」画面で「DATE/TIME」を選択し MODE スイッチを押します。「DATE/TIME」が点滅し、設定画面に切り替わります。

2. セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押して、年、月、日、時間、分、日付の表示順序を設定します。選択した項目がハイライトします。
年、月、日の表示順は次の3パターンから選択できます。
Y/M/D （年、月、日）
M/D/Y （月、日、年）
D/M/Y（日、月、年）



3. MODEスイッチで決定すると、設定画面に戻ります。

アドバイス

- **年は2020から2099まで設定できます。**
- **日付・時刻・表示順の設定中にスイッチを10秒間操作しないと、表示されている内容で決定し、設定が終了します。**
- **バッテリを再接続すると、日付、時間がリセットしますので再度設定してください。**

設定の強制終了

設定画面の表示中に次のいずれかの条件を満たすと、設定中の値を決定して強制終了します。

- MODEスイッチを長押ししたとき
- 走行を開始したとき
- ヒルホールドのインジケータが点滅したとき
- メインスイッチをOFFしたとき

■ SERVICE

サービスリマインダは、日付と距離の設定をもとに、点検表示およびインジケータによって次の点検時期をお知らせします。

⚠警 告

サービスリマインダインジケータが点灯したまま乗り続けると、車両に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

点灯したときは、速やかに点検整備を受け、スズキ販売店でサービスリマインダの再設定を行ってください。

アドバイス

サービスリマインダの設定はスズキ販売店にご相談ください。

サービスリマインダの日付と距離を確認するときは、「MENU」表示から「SERVICE」を選択し、MODEスイッチを押します。SERVICEが点滅し、SERVICE設定画面に切り替わります。

メータの見かた

<サービスリマインダインジケータの点灯前>

- 設定された日付を表示します。
- 設定された距離までの残りの距離を表示します。

<サービスリマインダインジケータの点灯時>

- 設定された日付もしくは距離に達すると🔧マーク①を表示します。
- 距離と日付のどちらかが先に到達しても、距離は－ km、日付は設定された日付を表示します。
- メインスイッチをONにしたとき、点検時期に達したことを2秒間通知します。

<オープニング予告>

メインスイッチをONにすると、設定された日付および距離に対して、残り1か月、もしくは残り1,000 kmに達した際に、点検時期の予告を2秒間表示します。

<オープニングアラーム>

サービスリマインダインジケータが点灯したとき、メインスイッチをONにすると、2秒間、アラーム表示をします。

■ DEFAULT SET

すべての「MENU」設定を工場出荷状態にリセットします。リセットするときは、「YES」を選択し、MODEスイッチで決定します。

アドバイス

リセットすると、以前の設定は復元できませんのでご注意ください。

工場出荷状態

- DISPLAY：SDMS
- BRIGHTNESS：レベル4
- RPM SET
  - MODE：消灯
  - MAIN：10,000[rpm]
  - SUB：1,000[rpm]
  - BRIGHT：レベル4
- UNIT：km/L
- USER SEL
  - U1：有効
  - U2：有効
  - U3：有効

運転アシストシステムの設定

■ パワーモードセレクタ

パワーモードセレクタは、スロットルグリップ操作に対して出力特性が異なる3つのモード（PW1～3）から選択できます。それぞれの出力特性は、次の様になっています。

PW1 ①

最もシャープなスロットルレスポンスであり、すべてのスロットル開度において最大のエンジン出力が得られる特性

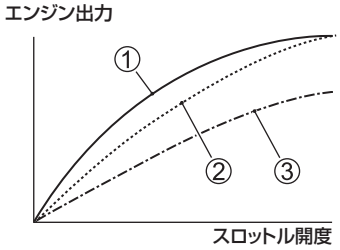
PW2 ②

PW1より中間のスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性

PW3 ③

- PW2　より高いスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性
- フルスロットル時の出力をPW1、2より絞った特性

出力特性イメージ



アドバイス

- **パワーモードセレクタを操作すると、エンジン出力特性が切り替わるため、エンジン回転数が変化します。**
- **パワーモードの切替え操作に失敗した場合は、SDMSの表示が点滅します。**

■ モーショントラックトラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムとは、スロットルグリップを回しているときにシステムがリヤタイヤの空転を感知すると、エンジン出力を制御してリヤタイヤのグリップ力を回復させる機能です。
トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御しているときは、TCインジケータライトが点滅します。

⚠警 告

指定以外のタイヤを使用すると、システムが正常に機能しなくなるため、事故の原因になるおそれがあります。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

運転アシストシステムの設定

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、あらゆる条件下での後輪のスリップ（空転）を完全に制御したり、転倒を防止したりするものではありません。

カーブでのオーバースピードや深すぎるバンク角による横すべり、ブレーキングやエンジンブレーキなどによるリヤタイヤのスリップ（空転）は、制御することができません。技量、天候、路面状況に応じた適切な速度で運転してください。

⚠警 告

設定がOFFになっていると、制御は行われません。ご自身の技量を超えた乗りかたは事故につながるおそれがあります。

ご自身の技量に合わせた走行を行ってください。

アドバイス

- **トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御すると、エンジン音や排気音が変化することがあります。**
- **急加速や悪路走行などで前輪または後輪が地面から離れた場合、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御することがあります。**
- **トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御したとき、スロットルグリップを回してもエンジン出力が上がらない場合があります。そのときは、一旦スロットルグリップを完全に戻すと正常な状態に戻ります。**
- **運転前にトラクションコントロールシステムの設定モードを確認してください。**

トラクションコントロールシステムは、OFFまたは10段階の感度（モード1～10）に設定することができます。

トラクションコントロールシステムは、リヤホイールの空転を少なくするようにエンジン出力を制御します。感度レベルはモード1の感度レベルが最も低く、モード10が感度レベルが最も高く設定されています。

OFFを選択すると、リヤホイールが空転しても、エンジン出力を制御しません。

モードの設定

SDMS画面の運転アシストシステムインジケータ、もしくは「MENU」の「RIDING SET」で制御モードを変更します。
変更の方法については、次を参照してください。

- 運転アシストシステムインジケータ(P.49)
- RIDING SET(P.56)

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

トラクションコントロールシステムのモード切替えは回りの安全に十分に注意して行ってください。

アドバイス

- **スロットルグリップを完全に戻していないときは、モード切替ができません。選択中のトラクションコントロールシステム表示が点滅します。モード切替するときはスロットルグリップを完全に戻した状態で行ってください。**
- **モードを切り替えできないときは、セレクトスイッチ（アップまたはダウン）を押したときにインジケータが点滅します。**

■ アンチリフトコントロールシステム

アンチリフトコントロールシステムとは、加速するときに前輪が大きく浮き上がることを抑制する機能です。システムが車速、エンジン回転数、ギヤポジションなどの状態をもとに適切なスロットル開度を算出し、スロットルグリップを操作したときに必要以上にスロットル開度が大きくならないように制御します。また、前輪の浮き上がりを検知したときには、浮き上がりが小さくなるように制御します。

アドバイス

アンチリフトコントロールシステムは、あらゆる条件下での前輪の浮き上がりを抑制するものではありません。悪路や坂道、また車両後部に積載している状態などでは浮き上がりが発生しやすくなります。

運転アシストシステムの設定

モード設定

アンチリフトコントロールシステムは、10段階（LF1～10）に設定することができます。または無効（OFF）することもできます。モードの数字が大きいほど、浮き上がりにくくなります。

OFF：制御しません。
LF1：制御が最小になります。
LF10：制御が最大になります。

アドバイス

モードをOFFに設定しているときや、センサ類および装置に異常が検出されているときは、システムは作動しません。

⚠警 告

設定がOFFになっていると、制御は行われません。ご自身の技量を超えた乗りかたは事故につながるおそれがあります。

ご自身の技量に合わせた走行を行ってください。

アンチリフトコントロールシステムインジケータ

アンチリフトコントロールシステムの作動中は、SDMSの表示位置にアンチリフトコントロールシステムインジケータが点滅します。

＜点滅条件＞

アンチリフトコントロールシステムの作動中に、スロットルグリップを大きく操作したときに点滅します。

アドバイス

インジケータの点滅中は、セレクトスイッチ（アップまたはダウン）が機能しません

■ エンジンブレーキコントロールシステム

エンジンブレーキコントロールシステムは、スロットルグリップを全閉にしたときに発生するエンジンブレーキの強さを、システムが燃料噴射とスロットルバルブの開度を調整することにより制御する機能です。
このシステムは3段階（EB1～3）に設定することができます。または無効（OFF）にすることもできます。
エンジンブレーキは、このシステムがOFFになっているときに最も強くなります。

OFF：制御しません。エンジンブレーキは最大になります。
EB3：エンジンブレーキは最小になります。

作動条件

システムは、次の条件がすべて満たされるときに作動します。

- EBモードがOFF以外のとき
- 所定のエンジン回転数以上でスロットルグリップが全閉のとき
- 車両速度が所定値以上のとき
- スロットルポジションセンサが正常のとき
- ギヤポジションセンサが正常のとき
- ニュートラル以外のとき
- クラッチレバーを握っていないとき
- クルーズコントロールが作動していないとき

アドバイス

指定以外のタイヤの使用やスプロケットのギヤ比などを変更すると適切に制御ができなくなります。

■ 双方向クイックシフトシステム

クイックシフトとは、走行中のシフトチェンジ操作をアシストする機能です。メータの設定でクイックシフトを設定すると、走行中にスロットル開度の調整やクラッチレバーを操作せずにシフトチェンジができます。なお、停車状態からの発進時やギヤが入っている状態で停車している時は、クラッチレバーを握る必要があります。

注 記

ギヤシフト機構に関わる部品を変更・改造すると、クイックシフトが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、クイックシフトは、オートマチック・トランスミッションのような自動的にシフトチェンジを行う機能ではありません。低いギヤでエンジン回転数が高すぎる運転などは、トランスミッションなどに負荷をかかり、破損の原因になります。

エンジン回転数や速度に合わせて、ご自身でシフトチェンジを行ってください。

運転アシストシステムの設定

設定方法

メータのSDMS画面の運転アシストシステムインジケータ、もしくは「MENU」の「RIDING SET」でQS（クイックシフト）のMODE（モード）設定を、「QS1」もしくは「QS2」に設定します。

OFF：制御しません。
QS1：シャープなシフト感の「スポーツ」モード
QS2：ソフトなシフト感の「街乗り」モード

変更の方法については、次を参照してください。

- 「運転アシストシステムインジケータ（L、R）」（P.49）
- 「RIDING SET」（P.56）

■ ローンチコントロールシステム

⚠警 告

ローンチコントロールシステムは、クローズドコースにおいて、ライダーの操作をアシストするための装備です。クラッチを急激につなぐ等の適切でない操作は、事故や転倒などの原因になるおそれがあります。

走行する際は、ご自分の技量に合わせた走行を行ってください。

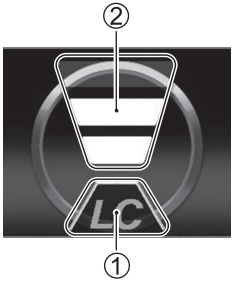
⚠警 告

指定以外のタイヤの使用やスプロケットのギヤ比などを変更すると適切な制御ができなくなるため、事故の原因になるおそれがあります。

タイヤ交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、スプロケットを交換する際は同じサイズ・歯数の物を使用してください。

ローンチコントロールシステムは、クローズドコースにおいて、停車状態からの発進時にライダーの操作をサポートするための機能です。
発進時、エンジン回転に専用の制御をかけることによって、ライダーはスロットルを開けたままクラッチレバーの操作に集中できるようにサポートします。加えて、各センサからの情報をもとに、システムがエンジン出力を変化させることにより、加速中に最適な姿勢を維持できることを目的としています。

シフトポジションが1速のときのみ、ローンチコントロールインジケータ①に「LC」を表示します。



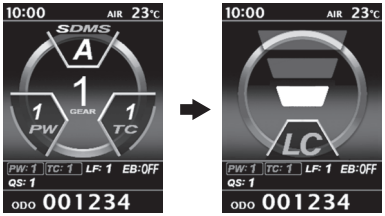
①：ローンチコントロールインジケータ（シフトインジケータ）
②：モード表示

アドバイス

クイックシフトを設定している場合は、発進後のシフトアップ時にクラッチレバーの操作は必要ありません。

ローンチコントロールシステム設定

1. エンジンを始動します。
   ☞「エンジンのかけかた」（P.92）
2. 停車しているときに、スタータスイッチ/ローンチコントロールシステムスイッチを約1秒間押すと、ローンチコントロールシステムが設定され、メータにローンチコントロールインジケータが表示します。



スタータスイッチ/ローンチコントロールシステムスイッチを押したときに、ローンチコントロールインジケータが点滅する場合は、ローンチコントロールシステムの設定ができません。
ローンチコントロールインジケータは、以下の場合に点滅します。

- 停車していないとき
- スロットルグリップを大きく開いているとき
- 短期間にローンチコントロールシステムの使用頻度が高いとき

ローンチコントロールシステムの設定を解除する場合は、もう一度、スタータスイッチ/ローンチコントロールシステムスイッチを約1秒間押してください。

運転アシストシステムの設定

3. 発進前には、エンジン回転数が3つのモードから選択した回転数を上回らないようにシステムが制御します。回転数の上限は、セレクトスイッチ（上又は下）を操作して3つのモードから選択します。

モード	回転数上限（r/min）
1	3,700
2	6,000
3	8,000

アドバイス

上記の表の回転数と実際のタコメータの回転数には、違いが生じる場合があります。

4. スロットルグリップとクラッチレバーを操作し発進します。発進後は、システムが走行状況に合わせてエンジン出力を変化させます。ローンチコントロールシステムは、2速へのシフトアップ、スロットルグリップを戻したり、ブレーキをかけるなどして減速すると解除します

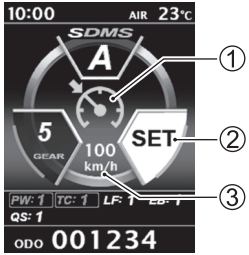
⚠警 告

発進時の長時間の半クラッチ状態は、クラッチ機構の損傷の原因となります。

半クラッチ状態を長く維持することは避けてください。

■ クルーズコントロールシステム

クルーズコントロールは、高速道路などの加減速の少ない道路において、スロットルグリップを操作しなくてもセットした速度で定速走行できる機能です。セットした速度をキャンセルした後に、前回セットした速度に戻すレジューム機能も備えています。



①：クルーズコントロールインジケータ
②：SET 表示
③：目標車速（レジューム時）

アドバイス

- セット可能条件を満たしていないなどで、スタンバイ状態から車速をセットできないときは、クルーズコントロールインジケータが点滅します。
- 上り坂や下り坂などの道路状況によっては、クルーズコントロールが定速車速を保てない場合があります。
- メインスイッチをOFFにすると、クルーズコントロールはオフに設定されます。
- レジューム機能を使用したときに表示する目標車速は、実際の速度を示しているものではありません。車両速度はスピードメータをご覧ください。

⚠警 告

クルーズコントロールの誤使用は、意図しない加速などの原因となり事故につながるおそれがあります。

クルーズコントロールを使用しないときは、設定をオフにしてください

⚠警 告

天候や道路の状況によっては、システムを使用すると安全を損ない、事故などの原因になるおそれがあります。
次のような状況は使用しないでください。

- 悪天候時
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 未舗装路
- 滑りやすい道
- 急な下り坂

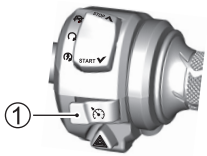
定速車速セット条件

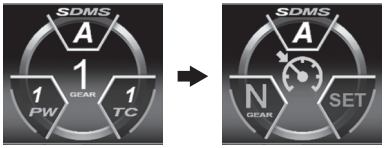
定速車速をセットするには、次の条件を満たしている必要があります。

- クルーズコントロールがスタンバイ状態になっていること
- ギヤが2速以上で2,000 r/min以上のとき

クルーズコントロール画面切替え

右ハンドルスイッチのクルーズコントロールスイッチ①を押すと、クルーズコントロール画面に切り替わります。





運転アシストシステムの設定

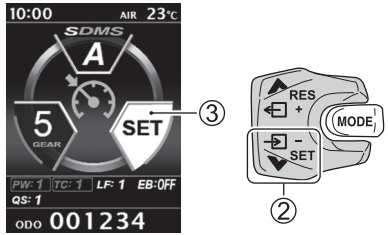
アドバイス

クルーズコントロールスイッチを押したときにアクティブスピードリミッタの画面になったときは、MODEスイッチを長押ししてクルーズコントロール画面に切り替えてください。

車速セット

1. セット可能条件を満たしているときは、クルーズコントロールインジケータ①が点灯します。

2. クルーズコントロールインジケータ①が点灯した状態で、希望の車速になったときに左ハンドルスイッチのセレクトスイッチ（DOWN/SET/-）②を押すと車速のセットが完了し、スロットルグリップを戻してもその時の車速で定速走行します。
車速をセットすると、クルーズコントロールのSET表示③が点灯します。



3. 設定車速での走行中は、左ハンドルスイッチのセレクトスイッチの（UP/RES/+）と（DOWN/SET/-）で車速の調整ができます。

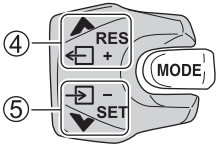
設定可能速度：30 km/h以上

セレクトスイッチ（UP/RES/+）④

- 短押し：約1 km/h増速
- 長押し：連続増速

セレクトスイッチ（DOWN/SET/-）⑤

- 短押し：約1 km/h減速
- 長押し：連続減速



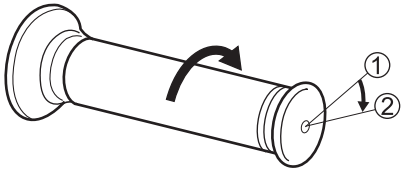
アドバイス

セットした速度で定速走行しているときにスロットルグリップを回すと、セットした速度以上に加速できます。スロットルグリップを戻すと設定していた車速に戻ります。また、設定車速以上で走行中にセレクトスイッチ（DOWN/SET/-）“▼”を押すと、設定車速がその時の車速に更新されます。

定速走行のキャンセル

以下の操作を行うと、定速走行をキャンセルし、スタンバイ状態に戻ります。

- スロットルグリップを全閉位置①から閉じる方向へ回したとき



② キャンセル位置

- クラッチレバーを握ったとき
- ブレーキレバーやブレーキペダルを操作したとき
- エンジン回転数が2,000 r/minを下回ったとき
- ギヤが1速になったとき
- シフトチェンジをしたとき
- 坂道などで、セットした速度に長時間到達できないとき
- タイヤが空転したとき
- クルーズコントロールを解除（オフ）した（P.80）とき

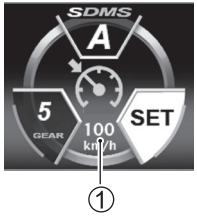
アドバイス

システムに異常が発生したときにも、定速走行はキャンセルされます。

運転アシストシステムの設定

レジューム機能

システムの中に定速走行をキャンセルしたときの設定値データが残っているときは、セレクトスイッチ（UP/RES/+）“▲”を押すとキャンセル時の目標車速に戻すことができます。
レジューム機能が働いているときは、目標車速に戻るまで目標車速①を表示します。



以下のときには、レジューム機能は使用できません。

- エンジン回転数が2,000 r/minを下回った
- メインスイッチをOFFにした
- クルーズコントロールをオフにした

⚠警 告

前回キャンセルした時の設定車速より速度が遅い状態でレジューム機能を使うと車両が加速しますので、不適切な道路状況での使用は事故の原因になります。

前回キャンセルしたときの設定車速を考慮した上で使用してください。

クルーズコントロールの解除（オフ）

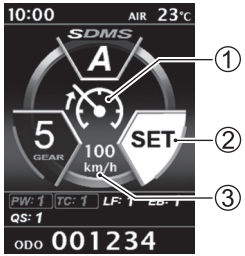
クルーズコントロールスイッチを押すとシステムをオフにします。オフになると同時に、クルーズコントロールインジケータが消灯します。

アドバイス

システムに異常が発生したときにも、クルーズコントロールはオフになります。

■ アクティブスピードリミッタ

アクティブスピードリミッタは、システムがスロットルバルブの開度を制御することで、ライダーの好みに合わせて設定した車速が最高車速となるように制御する機能です。
設定できる制御車速は、40〜200 km/hです。例えば、設定を100 km/hにした場合には、フルスロットルにしても約100 km/hが最高速になるように制御します。



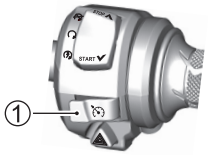
①：アクティブスピードリミッタシンボルマーク
②：SET 表示
③：制御車速

アドバイス

- **制御車速とスピードメータの速度は、一致しない場合があります。**
- **制御車速を設定していても、走行の状況によっては設定値を一時的に超えるときや制御しきれないときがあります。速度の制限を保証するものではありませんのでご注意ください。技量、天候、路面状況、交通ルールに則した適切な速度で運転してください。**
- **スピードセンサやシステムに異常があるときはシステムが作動しません。**
- **指定以外のタイヤを使用すると、システムが正しい制御車速を表示できません。タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。**

リミッタ画面切替え

通常画面のときにクルーズコントロールスイッチ①を押し、アクティブスピードリミッタのスタンバイ画面に切り替えます。



運転アシストシステムの設定

アドバイス

クルーズコントロールスイッチを押したときにクルーズコントロール画面になったときは、MODEスイッチを長押ししてアクティブスピードリミッタのスタンバイ画面に切り替えてください。

制御車速のセット

1. 制御車速を変更するときは、セレクトスイッチ（UP/RES/+）とセレクトスイッチ（DOWN/SET/-）で速度を変更します。

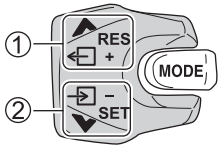
設定可能速度：40～200 km/h

セレクトスイッチ（UP/RES/+）①

- 短押し：1 km/h増速
- 長押し：5 km/h刻みで連続増速

セレクトスイッチ（DOWN/SET/-）②

- 短押し：1 km/h減速
- 長押し：5 km/h刻みで連続減速



2. 走行時、システムに速度を制御させるときは、MODEスイッチを押してSET表示を点灯させます。

アドバイス

- **設定条件を満たしていないときに、スピードリミッタスタンバイ状態でMODEスイッチを押すと、インジケータアイコンまたは設定速度表示が点滅します。**
- **制御車速は、SET表示が点灯していないときでも変更できます。**
- **制御車速は走行中でも変更できます。制御車速で走行しているときに速度の設定値を変更すると、スロットルグリップの操作状況に応じて車速が変化します。**

3. SET　表示が点灯していることを確認して走行します。システムが設定した制御車速を最高速度として制御します。

アドバイス

車両のシステムに異常が発生したときには、アクティブスピードリミッタを解除することがあります。

アドバイス

アクティブスピードリミッタ作動中にシステムの異常を検出したときは、スロットルグリップを開けていても強制的に減速します。一旦スロットルグリップを閉じると走行はできますが、強い出力制限がかかった状態になり、同時にアクティブスピードリミッタインジケータが点滅します。この状態になったときは、スロットルグリップを閉じた状態でクルーズコントロールスイッチを押すと出力制限が解除され、通常の状態に戻ります。

システムの一時キャンセル

1. アクティブスピードリミッタ作動中において、他の車を追い越すときなどの一時的に制御車速以上のスピードが必要なときには、スロットルグリップを急に開けると一時的に設定している制御速度以上のスピードを出すことができます。一時キャンセル中は、制御車速の表示が点滅します。

2. スロットルを閉じ、設定している制御速度を下回ると通常の制御速度に戻ります。

アドバイス

一時解除機能は、車速と設定車速の差が20 km/h以内のときのみ作動します。

制御車速のキャンセル

車速の制御中（SET表示を点灯中）に制御をキャンセルする（SET表示を消灯させる）場合は、MODEスイッチを押してスタンバイ画面に戻します。

運転アシストシステムの設定

システムの解除

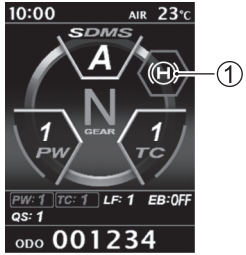
スタンバイ画面でクルーズコントロールスイッチを押すとアクティブスピードリミッタを解除し、通常画面に戻ります。

アドバイス

スロットルグリップを開いている状態では、制御車速のキャンセルやシステムの解除はできません。キャンセルや解除ができない場合には、アクティブスピードリミッタインジケータが点滅します。

■ ヒルホールドコントロールシステム

ヒルホールドコントロールシステムは、上り坂で停車状態から発進する時に車両の後退を防ぎ、スムーズな発進を補助する機能です。
システムが作動すると、システムが約30秒間リヤブレーキを制御し、ブレーキレバーやブレーキペダルを操作しなくても車両が後退しないように働きます。
システム解除の約3秒前からヒルホールド表示①が点滅を始め、それに合わせてブレーキ圧は徐々に減圧し、その後完全に解除します。



システムの作動条件

- 上り坂で停車しているとき
- フロントブレーキ、リヤブレーキまたはその両方をかけているとき
- ヒルホールドがオフに設定されていないとき
- ギヤポジションがニュートラルでないとき
- サイドスタンドを外しているとき

アドバイス

- ホイールの回転が完全に止まっていないと機能しません。
- ヒルホールドコントロールシステムのオフの設定については「HILL HOLD SET」（P.62）を参照してください。

⚠警 告

ヒルホールドコントロールシステムが機能していない状態でブレーキを解除すると、車両が後退して事故や転倒の原因になります。

ヒルホールド表示が点灯するまでは、ブレーキを解除しないでください。

システムの作動方法

システムの作動条件を満たすと、メータのヒルホールド表示①が点灯します。点灯しているときは、ブレーキレバーやブレーキペダルの操作をしていなくても、システムがリヤブレーキを制御し、車の後退を防ぎます。

システムの解除方法

次の状態になると、システムを解除します。

- 発進したとき
- ブレーキレバーやブレーキペダルを離してから30秒経過したとき
- ブレーキレバーをすばやく2回にぎったとき
- サイドスタンドを出したとき
- ギヤをニュートラルにしたとき

アドバイス

ブレーキレバーとブレーキペダルを離してから約27秒経過すると、ヒルホールド表示が約3秒間点滅して間もなくシステムが解除されることをお知らせします。このときに、フロントブレーキやリヤブレーキを操作すると、解除までの時間が30秒延長します。

運転アシストシステムの設定

⚠警 告

ヒルホールドコントロールシステム表示が点滅を始めると、約3秒後にシステムが解除されます。そのままにするとシステムが解除され、車両が後退して事故や転倒の原因になります。

ヒルホールドコントロールシステム表示が点滅を始めたら、フロントブレーキとリヤブレーキを操作して、車両の後退に備えてください。

⚠警 告

ヒルホールドコントロールシステムの制御には限界がありますので、極端に急な坂道や滑りやすい道を上るとき、また積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。

常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキレバーやブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。

⚠警 告

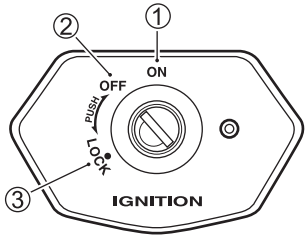
極端に急な坂道や滑りやすい道を上るときにヒルホールドコントロールシステムが作動すると、タイヤがロックし、車両のコントロールができなくなる場合があります。

システムよりタイヤがロックして発進できないときは、ブレーキレバーをすばやく2回にぎってシステムを解除してください。

メインスイッチ

■ ポジション

メインスイッチには　ON①・OFF②・LOCK③の3つのポジションがあります。



⚠警 告

衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。また、車両の異常により火災が発生したり、リヤホイールなどの回転する部品に巻き込まれたりする可能性があります。

転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止してください。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。

⚠警 告

走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。

キーは停車後、操作してください。

注 記

走行中にメインスイッチを操作するとエンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

メインスイッチは走行中に操作しないでください。

OFF

- エンジンが停止します。
- ライト類が消灯します。
- キーが抜けます。

ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  - ヘッドランプ
  - テールランプ
  - ポジションランプ
  - ライセンスランプ
- キーが抜けません。

アドバイス

ONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が点灯しません。
- キーが抜けます。

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。チェーンロックなどの併用もおすすめします。

メインスイッチ

<ハンドルロックのかけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押し込みながらOFFからLOCKまで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

<ハンドルロックの外しかた>

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

⚠警 告

ハンドルをロックしたまま車を動かすと、バランスを失って転倒する原因になります。

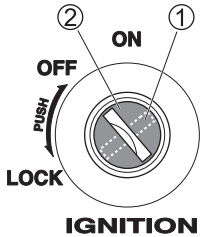
サイドスタンドを出してからハンドルをロックしてください。

アドバイス

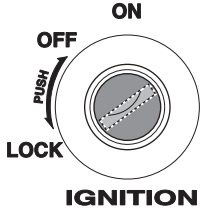
- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。
- メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。

アドバイス

- メインスイッチのキー穴 ① をカバーするリッド②を設けています。

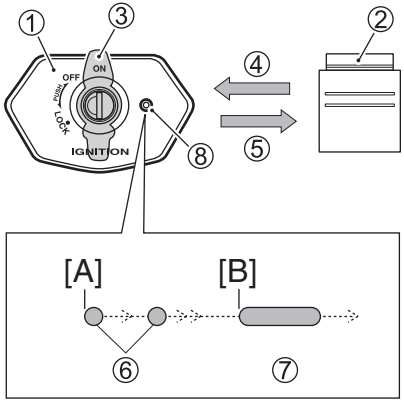


- リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。



■ イモビライザ

差し込まれたキーのIDが車のECMに登録されているものかどうかを照合し、始動の可否を判定します。
メインスイッチ①をONにすると、ECM②はキー ③に内蔵されているコントローラにID④の送信を指令します。（このとき登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータライトが点滅⑥します）これを受けてキーはID⑤を送信、ECMが正しいと判断すると始動可能となりインジケータライト⑦が2秒間点灯します。



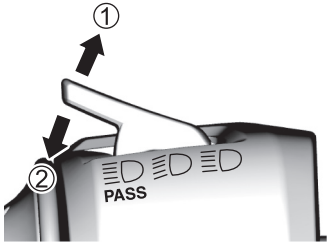
[A]：メインスイッチ ON
[B]：エンジン始動可
⑧：イモビライザインジケータライト

アドバイス

- インジケータライトがいつまでも点滅する場合はキーが違っているか、送信異常です。メインスイッチをOFFにしてやり直してください。
- キーは工場出荷時に 2 個登録されています。さらに2個まで追加登録が可能です。この登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータライトが点滅します。
- キーを2つとも紛失してしまうと、ブランクキー 2個とECMを交換しなければなりません。予備のキーはしっかり保管してください。
- キーを差し込むときに、この車のスペアキーや他の車のイモビライザ対応キーをイモビライザアンテナに近づけるとイモビライザシステムが正常に作動しなくなることがあります。キーホルダにイモビライザ対応のキーを2個以上付けないでください。
- 金属製のもの、磁気を帯びたもの、電波を発信するものはイモビライザの通信に悪影響を与えるため、キーホルダに付けたり、キーに近づけないでください。

ハンドルスイッチ

■ ディマスイッチ / パッシングスイッチ



①：ハイビーム
②：パッシングスイッチ

ディマスイッチ

上向きまたは下向きにヘッドランプの向きを切り替えます。

<ハイビーム“≡D”>

スイッチを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

<ロービーム“≡D”>

スイッチをハイビームの位置から手前に戻すと、ヘッドランプが下向きになります。

パッシングスイッチ“≡D PASS”

スイッチをロービーム位置から手前に引いている間、ハイビームが点灯します。スイッチをはなすとロービームにもどります。

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

注 記

ライトの熱によりレンズが溶けたり置いた物が損傷することがあります。

停車中に点灯したヘッドランプやテールライトを物でさえぎったり衣類などを被せないでください。

注 記

ヘッドランプにテープ類を貼ると貼り付けた所がライトの熱で溶けるおそれがあります。

ヘッドランプにテープ類を貼らないでください。

■ セレクトスイッチ

LCD（液晶ディスプレイ）表示切替えや各システムの設定に使用します。
詳細は下記を参照してください。

- 「LCD(液晶ディスプレイ)」(P.25)
- 「運転アシストシステムの設定」(P.69)

■ モードスイッチ

LCD（液晶ディスプレイ）表示切替えや各システムの設定に使用します。
詳細は下記を参照してください。

- 「LCD(液晶ディスプレイ)」(P.25)
- 「運転アシストシステムの設定」(P.69)

■ ホーンスイッチ

スイッチを押している間、ホーン（警音器）が鳴ります。

■ ターンシグナルスイッチ ⇦⇨

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルライトが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルライトが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは、点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されませんので、使用後は必ずスイッチを前に押して解除してください。

■ エンジンストップスイッチ / スタータスイッチ / ローンチコントロールスイッチ

エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。エンジンストップスイッチを“⊗”（STOP）側に押すとエンジンが停止します。通常は“Ω”にしておきます。

<Ω>

エンジン関連の電気回路を接続します。

- エンジンの始動ができます。

<⊗>

エンジン関連の電気回路を遮断します。

- エンジンが停止します。
- エンジンの始動ができません。

注 記

走行中にエンジンストップスイッチをΩ→⊗ や Ω→⊗→Ωにすると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因になります。

ハンドルスイッチ

スタータスイッチ“⊛”

スタータスイッチを押すことでスタータモータが回転して、エンジンを始動します。
詳細は「エンジンのかけかた」(P.92)を参照してください。

アドバイス

- **エンジンストップスイッチが“⊗”のときはエンジンを始動できません。**
- **スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチを押すと、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒間経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。**

ローンチコントロールスイッチ

ローンチコントロールシステムを設定するときに使用します。
詳細は「ローンチコントロールシステム」(P.74)を参照してください。

■ ハザードスイッチ ⚠

故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを押すと、すべてのターンシグナルライトが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

エンジンは、次の手順でかけてください。

1. エンジンストップスイッチが“⟲”になっていることを確認します。
2. メインスイッチをONにします。
3. ニュートラルインジケータライトの点灯を確認します。点灯しないときは、ギヤシフトレバーを操作してニュートラルにします。
4. エンジン警告灯の消灯を確認します。
5. スロットルグリップを閉じたまま、スタータスイッチ“⊛”を押します。
6. 走行前にサイドスタンドが完全に格納されているか確認します。サイドスタンドインタロックの詳細は、「サイドスタンドインタロック」(P.95)を参照してください。

注 記

エンジンの温度上昇によるエンジン本体や車体の損傷を避けるために次のような使いかたをしないでください。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ぶかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作

アドバイス

この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動できます。詳細は、「スズキイージースタートシステム」(P.94)を参照してください

エンジンがかかりにくいときは

スタータスイッチを2〜3回押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチ“⚡”を押します。

⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。

排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたりすると、消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用したりして、スタータモータを連続して回転させないでください。

注 記

エンジン警告灯が点灯したままスタータスイッチを押し続けると、バッテリあがりの原因となります。

エンジン警告灯が点灯しているときは、スタータスイッチを押し続けないでください。

エンジンのかけかた

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータライトの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが N の表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが（1、2、3、4、5、6）いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが消灯していること。

注 記

エンジンを始動した後、油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開く、または走行させるとエンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

スロットルを操作する前や走行前には油圧警告灯が消えていることを確認してください。

アドバイス

転倒した場合は、エンジンを止めるシステムがエンジンを止めます。また、同時にマスタウォーニングインジケータライトが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。マスタウォーニングインジケータライトが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。

■ スズキイージースタートシステム

スタータスイッチをワンプッシュするとエンジンを始動できます。スイッチから手を放してもスタータモータが回り続け、数秒が経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。

- ギヤポジションがニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は、「サイドスタンドインタロック」(P.95)を参照してください。

アドバイス

バッテリの状態によっては、スズキイージースタートシステムによるエンジン始動が困難な場合があります。エンジンがかかりにくい場合は、クラッチレバーを握り、ニュートラルに入れてスタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリが弱っていますので、バッテリを充電するか交換してください。もしエンジンがかからないときは、スズキ販売店にご相談ください。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－ 10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外のときはエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速は、エンジン故障の原因となります。

数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

アドバイス

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因になります。

■ サイドスタンドインタロック

サイドスタンドを出したままの走行することを防ぐためのスタンド外し忘れ防止装置です。サイドスタンドの状態によって次のように作動します。

サイドスタンドが出ている場合

- ギヤが入っているときはエンジンを始動できません。（ニュートラルを除く）
- エンジン回転中にギヤを入れるとエンジンは停止します。

サイドスタンドが出ていない場合

エンジン回転中に、ギヤが入っている状態でサイドスタンドを立てるとエンジンは停止します。

エンジンのかけかた

⚠警 告

走行中にサイドスタンドを出すと、エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

アドバイス

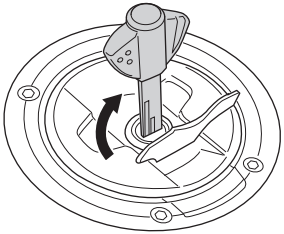
- **サイドスタンドを完全に外していないとき、シフトペダルを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

ガソリンの給油

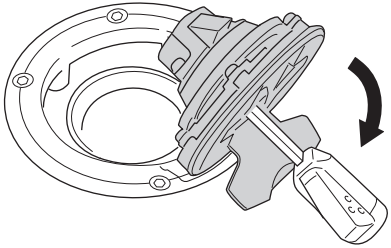
■ 給油の手順

次の手順でガソリンを給油します。

1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。



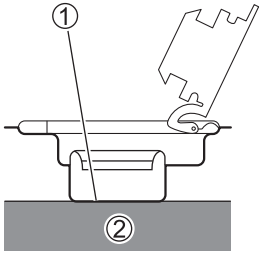
3. キャップを開けます。



4. ガソリンを給油します。
   キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端①以上入れないでください。

   指定燃料：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

   タンク容量：20L



② ガソリン

5. キャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。

⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。
- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

注 記

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

この場合は、給油するガソリンスタンドを変えてみることをおすすめします。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

ガソリンは、アルコールを含んでいるため塗装に損傷をあたえます。

給油するときは、外装に付かない様に注意してください。外装に付いたときは、すぐに拭き取ってください。

注 記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

無鉛レギュラーガソリン、粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

注 記

給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入すると、フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。

給油するときは、タンク内に異物が入らないように注意してください。

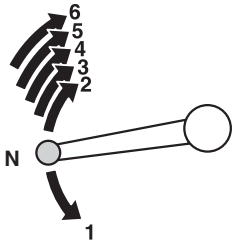
シフトペダル

■ シフトペダルについて

トランスミッションは6段変速でギヤシフトペダルを図のように操作します。
6速リターン式で、ニュートラルは1速と2速の中間にあります。

アドバイス

トランスミッションがニュートラルにあるときは、緑のニュートラルインジケータライトが点灯します。ニュートラルインジケータライトが点灯していても、クラッチレバーはゆっくり操作して確実にニュートラルに入っていることを確認してください。



ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～

■ シフトペダルの操作方法

トランスミッションは、エンジンの出力に合わせて効率よく運転できるように設計されています。運転するときには、運転の状況に合わせてシフトチェンジしてください。
なお、クラッチの摩耗の原因になるため、半クラッチを車両速度の調節のために使わないでください。
減速時には、エンジン回転数に合わせて、シフトダウンしましょう。

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、ギヤシフトレバーを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。シフトチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。シフトペダル操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。

クイックシフト操作手順

1. QS（クイックシフト）のMODE（モード）設定を「QS1」もしくは「QS2」に設定している状態でクラッチレバーを握り、ギヤを1 速に入れます。

アドバイス

- **クイックシフトを設定しても、シフトペダルの操作方法は設定前と変わりません。クイックシフトの設定に関わらず、シフトチェンジを行うときは、コツンと感じるまでシフトペダルを確実に操作してください。**
- **クイックシフトの設定方法については、下記を参照してください。**
  - **「運転アシストシステムインジケータ（L、R）」（P.49）**
  - **「RIDING SET」（P.56）**

2. クイックシフトは、走行中のギヤポジションに対するエンジン回転数が作動回転数以上のときに作動します。
発進後、シフトチェンジするときは、次表の作動回転数以上のときにクラッチレバーを握らずにシフトペダルを操作します。

<クイックシフト作動回転数>

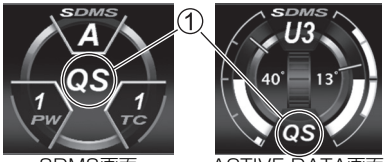
シフトアップ時

走行中のギヤポジション	エンジン回転数（r/min）
N	—
1速	1,600
2速	1,550
3速	1,450
4速	1,350
5速	1,300

シフトダウン時

走行中のギヤポジション	エンジン回転数（r/min）
N	—
2 - 6速	1,500

- シフトチェンジの際は、車がそのときの状況に応じてエンジン回転数の調整を行うため、スロットルグリップを操作する必要はありません。
- シフトチェンジをするときは、“コツン”と感じるまで、シフトペダルを操作してください。
- クイックシフトインジケータ①が点滅しているときは、クイックシフトが働きません。



SDMS画面　ACTIVE DATA画面

シフトペダル

注 記

以下のときにクラッチレバーを使用せずにシフトチェンジを行うと、エンジンや駆動系にダメージを与え、損傷の原因となるおそれがあります。以下のときには、クラッチレバーを使用してください。

- クイックシフトの設定が「OFF」のとき
- エンジン回転数が規定の回転数以下のとき

アドバイス

走行中、エンジン回転数が規定の回転数以下のときにチェンジ操作をすると、クイックシフトインジケータが点滅します。

3. 停車するときは、クラッチレバーを握って停車します。

アドバイス

- クイックシフトを使用して連続したシフトチェンジを行う場合でも、チェンジ操作は一段ずつ正確に行ってください。
- クラッチ操作を行わず、スロットル開度を一定に保ちながらチェンジ操作を行うと、クイックシフトがスムーズに作動します。

警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、次の原因により事故や故障の原因になりおそれがあります。

シフトダウンをするときは、スピードを落としてください。

- 強いエンジンブレーキによる尻振りなど走行安定性の悪化
- エンジン回転が上がりすぎることによるエンジン、トランスミッションの損傷

警 告

コーナリング中のシフトダウンは、リヤタイヤのスリップや走行の不安定につながるおそれがあります。

コーナリングを始める前に、スピードを落としてシフトダウンしてください。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

上り坂などでは、ブレーキを使用してください。

注 記

エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。

安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。

注 記

以下のような操作や走行は、エンジンの損傷の原因となりますので行わないでください。

- クラッチレバーを確実に握らないシフトチェンジ操作
- 無理なシフトチェンジ操作
- ギヤシフトペダルに足を乗せたままの走行

アドバイス

- チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。
- むやみにエンジン回転数を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。
- エンジン回転数がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。
- 空ぶかしや、1速、2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。
- レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転数を下げてください。
- 走行中にニュートラルギヤに入ったときは、エンジンや駆動系を保護するためにエンジン回転数リミッタが作動し、エンジン回転数を制御する場合があります。

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

ブレーキレバー

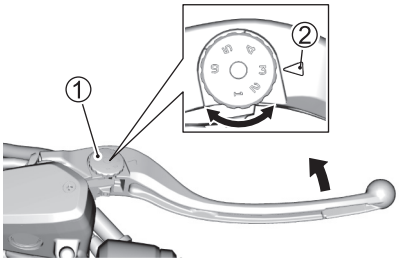
■ ブレーキレバーについて

ブレーキレバーを握ると、フロントブレーキとリヤブレーキが同時に作動し、ブレーキライトが点灯します。
ブレーキレバーとグリップとの間隔は、6段階の調整ができます。工場出荷状態は、3段の位置に調整されています。

ブレーキレバー

■ ブレーキレバーの調整

1. ブレーキレバーを前方に押した状態で、アジャスタ①を回します。
2. アジャスタの数字とマーク ② が合う位置でレバーをはなします。



⚠警 告

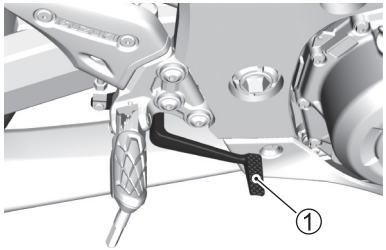
走行中にレバーの調整を行うと思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

ブレーキレバーの調整は停車中に行ってください。

リヤブレーキペダル

■ リヤブレーキペダルについて

リヤブレーキペダル①を踏み込むとリヤブレーキがかかります。同時にブレーキライトが点灯します。



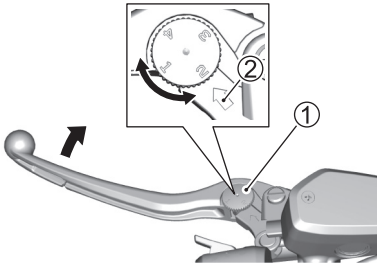
クラッチレバー

■ クラッチレバーについて

クラッチレバーとグリップとの間隔は、4段階の調整ができます。工場出荷状態では、2段の位置に調整されています。

■ クラッチレバーの調整

1. クラッチレバーを前方に押した状態で、アジャスタ①を回します。
2. アジャスタの数字とマーク ② が合う位置でレバーをはなします。



⚠警 告

走行中にレバーの調整を行うと思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

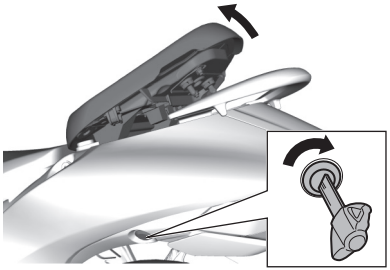
クラッチレバーの位置調整は停車中に行ってください。

シート

■ リヤシート＆シートロック

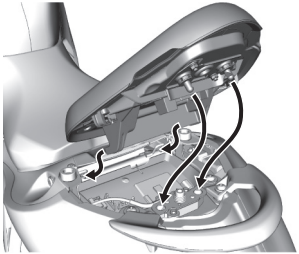
リヤシート取外し

1. キーを差し込み、右に回してシートロックを解除します。
2. リヤシートの後部を持ち上げ、後方に引いて外します。



リヤシートの取付け

1. シート下側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの後部を押し下げ、ロックします。



シート

⚠警 告

シートが正しく取付けられていないと、シートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に確実に締め付けてください。

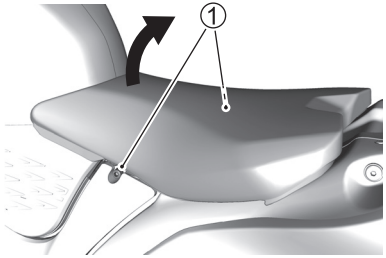
アドバイス

- **シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。**
- **シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。**

■ フロントシート

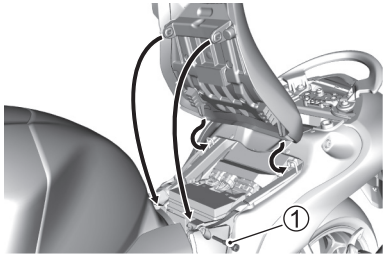
フロントシートの取外し

1. リヤシートを取り外します。(☞P.103)
2. ボルト①を取り外します。
3. フロントシートの前側を持ち上げ、前方にスライドして外します



フロントシートの取付け

シート下側のフックを車両側に差し込み、ボルト①を取り付けます。



⚠警 告

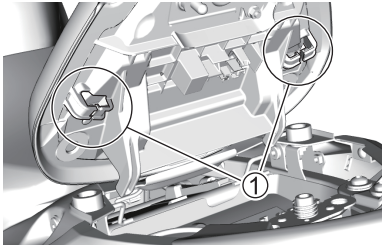
シートが正しく取付けられていないと、シートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に確実に締め付けてください。

ヘルメットホルダ

■ ヘルメットホルダについて

リヤシート下側にヘルメットのあごひもを掛けるフック①があります。
リヤシートを取り外し、フックにヘルメットを掛け、シートを元に戻します。



⚠警 告

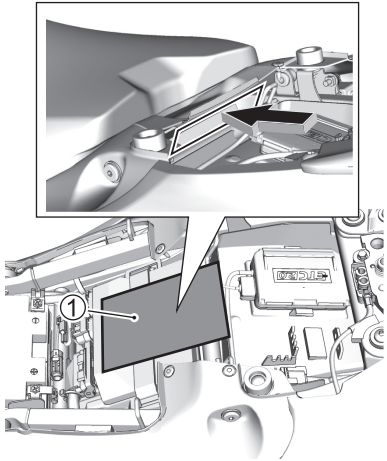
ヘルメットホルダにヘルメットを付けたまま走行すると、運転の妨げとなり事故の原因になります。また、ヘルメットに損傷を与えた場合、保護機能を低下させるおそれがあります。

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。ヘルメットを運ぶ場合はシートの上にしっかり固定してください。

書類入れ

■ 書類入れについて

リヤシートを外すと書類入れがあります。
メンテナンスノート①は、ビニール袋に入れてここに保管してください。



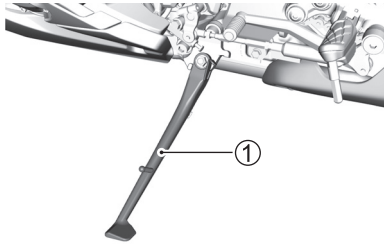
スタンド

■ スタンドについて

この車には、駐車するためのサイドスタンドを装備しています。

■ サイドスタンド

サイドスタンド①を出すときは、スタンドの端に右足をかけていっぱいに引き出します。
サイドスタンドインタロックについては「サイドスタンドインタロック」(P.95)を参照してください。



スタンド

⚠警 告

サイドスタンドが完全に収納されていない状態で運転すると、左旋回時に事故につながるおそれがあります。

走行前に、サイドスタンドインタロック機能の作動をチェックしてください。発進する前にサイドスタンドを確実に収納してください。

アドバイス

駐車するときは、できるだけ固い平坦な路面に駐車してください。やむをえず傾斜地に駐車する場合は、お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。

サスペンション

■ サスペンションについて

フロントフォークおよびリヤショックアブソーバの標準セッティングは、お車のスピードや荷重の変化などの多様なライディング条件に対応できるように設定されています。
なお、サスペンションセッティングはお好みに合わせて微調整できます。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

■ フロントフォーク

⚠警 告

左右で異なるサスペンションセッティングは、操縦性を低下させ、走行安定性を損なうことがあります。

左右のフロントフォークは同一のセッティングに調整してください。

注 記

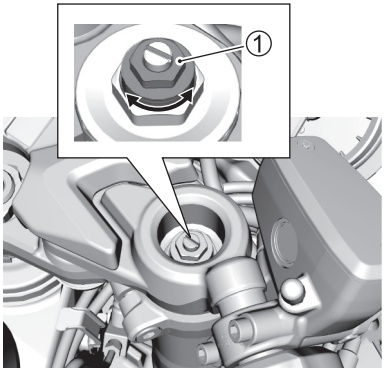
フロントフォークを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂が噛み込んだり、オイルシールの損傷によりオイル漏れの原因になったりします。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

スプリングの強さの調整は、アジャスタ①を回して行います。

- アジャスタを時計回りに回すと強くなります。
- アジャスタを反時計回りに回すと弱くなります。



アドバイス

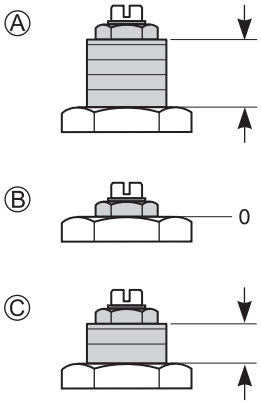
左右とも、同じ位置に調整してください。

アジャスタの調整範囲は0～10.0 mmです。

A：最弱　アジャスタ高さ 10.0 mm

B：最強　アジャスタ高さ 0.0 mm

C：工場出荷時
　　アジャスタ高さ6.0 mm



アドバイス

- **アジャスタを1回転させるごとにアジャスタ高さは1.0 mm変化します。**
- **アジャスタを無理に回転させないでください。**

減衰力の調整

伸び側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

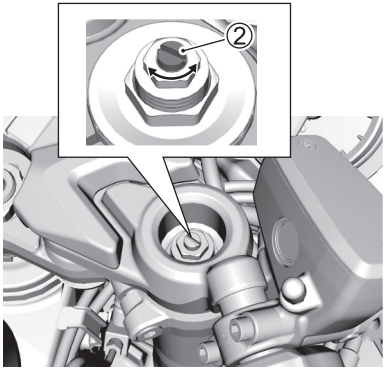
- 伸側減衰力アジャスタ ② は、フロントフォークの上部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ ③ は、フロントフォークの下部に配置されています。

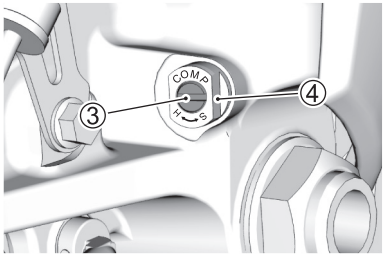
減衰力の調整は、まず標準セッティングにし、その後アジャスタで好みの位置に調整します。

アドバイス

- **フロントフォークのオイル漏れが発生するため、アジャスタベース④を緩めないでください。**
- **左右とも、同じ位置に調整してください。**

サスペンション





＜伸側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに8クリック戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに11クリックまでの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

＜圧側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに2回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに3回転までの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、徐々に調整を行って、最適な設定を見つけてください。

■ リヤサスペンション

⚠警 告

リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- **火や熱から遠ざけてください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

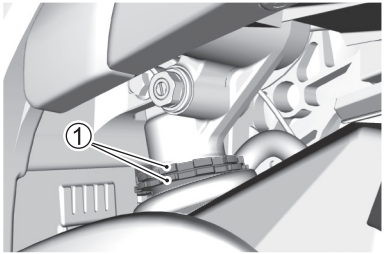
注 記

リヤショックアブソーバを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂が噛み込んだり、オイルシールの損傷によるオイル漏れの原因になったります。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

アジャスタリング①の位置を調整します。この作業には、特殊工具が必要になりますので調整は、スズキ販売店にご相談ください。



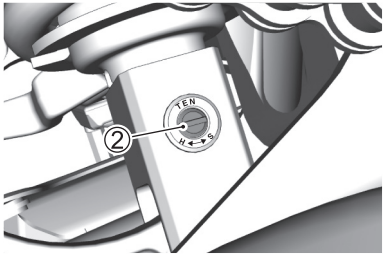
減衰力の調整

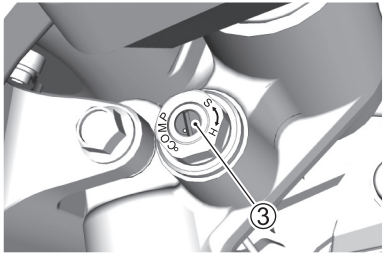
伸び側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

- 伸側減衰力アジャスタ②は、リヤサスペンションの底部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ③は、リヤサスペンションの左側に配置されています。

減衰力の調整は、まず標準セッティングにし、その後アジャスタで好みの位置に調整します。

サスペンション





＜伸側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1-1/2回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに1-4/5回転までの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

＜圧側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに8クリック戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに18クリックまでの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ徐々に調整を行って、最適な設定を見つけてください。

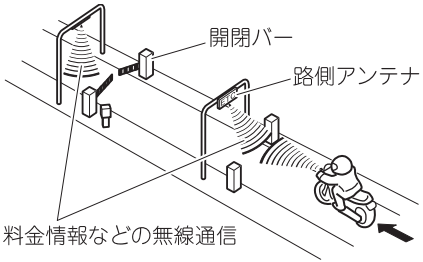
ETC2.0車載器

■ はじめに

ETCシステム利用規約、同実施細則、ETCカードの利用約款などに、ご利用上の注意事項が記載されています。ETCのご利用前に、この取扱説明書と合わせて必ずお読みください。

■ ETCシステムとは

ETCシステム（Electronic Toll Collection system）とは、有料道路の料金所の通過をスムーズに行なうために料金を自動で精算するシステムです。
車載器が料金所設置の路側アンテナと無線通信を行ない、料金はお客様が登録されたETCカードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



<ETC2.0車載器の機能と特徴>

ETC2.0車載器は、道路側のITSスポットアンテナと無線通信して、ITSスポットから発信されている注意喚起情報を受信します。
車載器が注意喚起情報を受信したときは、メータのERRインジケータが高速で点滅（約0.1秒間隔で5秒間）して、運転手にお知らせします。

⚠警 告

注意喚起情報を受信したときは、走行が危険な場合や警戒が必要な場合があります。

安全を確認の上、通常より注意して走行してください。

アドバイス

受信した情報の詳細内容の通知（音声案内など）には対応していません。

■ 事前に行っておくこと

ETCをご利用するには、事前にETCカードの取得と、車載器のセットアップが必要です。

<ETCカードの取得>

お客様ご自身によるクレジットカード会社または有料道路事業者へのお申し込みが必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<ETC2.0車載器のセットアップ>

正しく通行料金を精算するため、ナンバープレートなどの車両情報を車載器に登録する「セットアップ」の作業（有料）が必要です。
「セットアップ」の作業は、一般財団法人道路システム高度化推進機構に登録されているセットアップ店以外では行うことができません。

ETC2.0車載器

アドバイス

- 以下の場合は、車載器の再セットアップが必要です。
  - ・ナンバープレート（自動車登録番号標および車両番号標）が変更になった場合
  - ・車載器を他の車両に付け替えた場合
- 車載器がセットアップがされていないときは、ERRインジケータが点滅を続けます。

未セットアップ時

■ ETC利用時のご注意

<ETCカードの有効期限を確認>

有効期限が切れていたり、発行元が無効にしたETCカードでは、料金所の開閉バーが開きません。車載器に挿入する前に、ETCカードの有効期限を必ず確認してください。

⚠警 告

発行元が無効としたETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証（メータのERRインジケータが消灯）しますが、料金所の開閉バーは開きません。

車載器を使用するときは、有効なETCカードを使用してください。

⚠警 告

車載器のETCカードの有効期限切れをお知らせする機能は、GPS信号にて判定しています。メインキーをオンにした直後、地下駐車場などの屋内、車載器の故障時などのGPS信号を受信できていないときは判定できませんので、ご注意ください。

ETCカードの有効期限は、走行前にご確認ください。

<ETC2.0車載器の作動を確認>

乗車前には、ETCカードを車載器に確実に挿入し、メータのERRインジケータが消灯することを確認してください。

ETCインジケータとERRインジケータの作動状況については、P.44をご覧ください。

⚠警 告

注意喚起情報受信時を除いてERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCをご利用できません。

ETCをご利用するときは、走行前や料金所通過時にERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。

<料金所を通過するときは>

ETC　車線には、十分な車間距離をとり、20 km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。
スマートインターチェンジ*をご利用の際は、車両が停止した状態で通信の送受信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。

* スマートインターチェンジ：
高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置され、ETCを搭載した車両のみ通行可能なインターチェンジ

なお、開閉バーは、車載器と料金所間で通信エラーがあると開かないことがあります。

⚠警 告

以下の内容を守って運転してください。料金所で開閉バーが開かずに衝突するなど、事故の原因となります。

- **料金所には、安全に通行できるように路面表示があります。必ず、前車との車間距離を十分に取り、20 km/h以下に減速して進入し、路面表示にしたがって1台ずつ通行してください。**
- **スマートインターチェンジでは、開閉バーの手前で必ず一旦停止してください。**
- **ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入し、ERRインジケータが消灯していることを確認してください。**
- **メータのERRインジケータが消灯していても、通信エラーやアンテナ故障などで開閉バーが開かないことがありますので、安全な速度で料金所に進入してください。**
- **料金所内での並走、追越し、割込み、車群走行は絶対に行わないでください。**

ETC2.0車載器

- アンテナ故障などで料金所のアンテナと通信ができなかった場合にエラー表示（メータのERRインジケータが点滅または点灯）は行いません。また、このような場合は、ETCをご利用できません。
- 有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。異なるETCカードを使用すると料金所の開閉バーが開きません。
- ETC ご利用時でも、不測の事態（事故や異常気象）の際には、現場での指示などに従って運転してください。
- 開閉バーが開かなかったときは、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。
  ※ETC車線を通行中に開閉バーが開かなかった際は、路側表示が「停車」と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退やUターンしたりせず、二輪車の通行方法を指定する案内板や路面表示等に従い、開閉バーを避けて通過してETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
- ETCのご利用方法、通行方法、制限事項等については「ETCシステム利用規程」（https://www.go-etc.jp/kitei/kitei.html）に従ってください。ETCのご利用前に必ずご熟読ください。

■ 料金所でのETC情報通信

<予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナ>

料金所の手前に設置され、車載器と通信を行い、車載器が正常に使用できることを確認するためのアンテナです。

● ETC 車線利用不可能情報を受け取ったとき

メータのERRインジケータが点灯します。この場合、ETC専用車線はご利用できませんのでETC混在車線または一般車線をご利用ください。

アドバイス

予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナが設置されていない料金所もあります。

<障害者割引制度におけるETC利用について>

- ETC 無線走行で障害者割引の適用を受けるには、事前に福祉事務所などでの手続きと、併せて有料道路事業者が設定する窓口への登録が必要になります。両方の手続きがなされていない場合、ETC無線走行での障害者割引が適用されません。
- 事前に登録されたETCカードを、登録された車載器に挿入し、ETC車線を無線通行した場合のみ割引が適用されます。
  - 既に ETC 無線走行以外の支払いでの障害者割引適用の手続きをしている場合でも、改めて同様の手続きと登録をする必要があります。
  - 通行料金の請求を受ける料金所でETC車線が封鎖されている場合は、係員のいる車線（一般車線または混在車線）で、一旦停車して係員にETCカードを渡し、身体障害者手帳または療育手帳を呈示して確認を受けてください。料金精算機のある車線では、「障がい者用係員呼出ボタン（レバー）」を操作して係員を呼び出してください。
  - ETC 無線走行で障害者割引の適用を受けようとする場合でも、必ず身体障害者手帳または療育手帳を携行してください。（ETC車線が閉鎖されている場合で、上記手帳をご提示いただけない場合は、割引が適用できません。）
  - 障害者割引には有効期限があります。ご利用の前に有効期限を確認してください。なお、有効期限の更新手続きは福祉事務所などで行ってください。
  - 登録済のETCカード、ETC車載器、車両を変更される場合は、ETCのご利用前に福祉事務所などで変更手続きを行ってください。

<入口料金所、出口・均一料金所>

車両、入口、料金などの情報を車載器との間でやり取りします。

●料金所での異常通信時

開閉バーが開かなかった場合は、後続車両による追突事故の防止のため、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。
料金所で開閉バーが開かずに通過（退避）した場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所から遅滞することなく、ご利用の道路会社に連絡してください。

<フリーフロー型料金所>

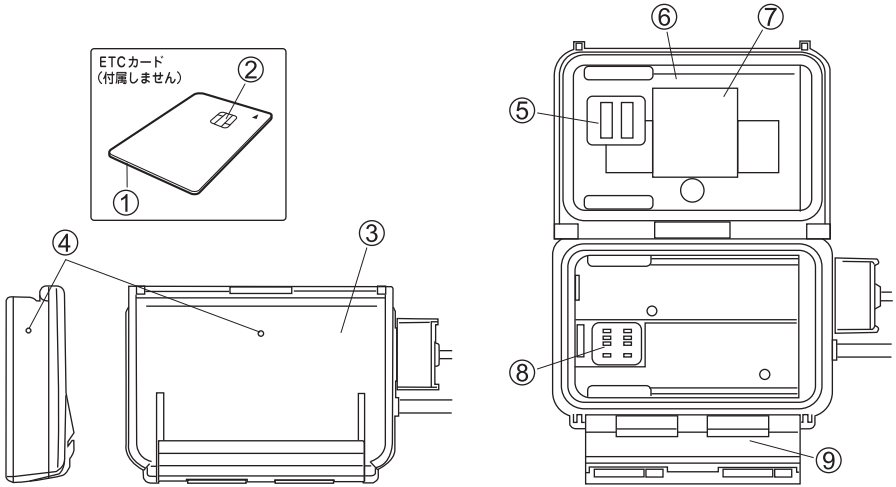
開閉棒のない料金所で、本線上にて経路チェックや料金収受を行います。

●ETC車線利用不可能情報の受信時

メータのERRインジケータが点灯します。次の料金所のETC専用車線はご利用できませんので、係員のいるETC混在車線または一般車線をご利用ください。

ETC2.0車載器

■ ETC車載器各部の名称



① **ETCカード**
お客様ご自身でご用意ください。

② **ICチップ**
カード情報が記録されています。

③ **ETC2.0車載器本体**
ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

④ **呼吸穴**
ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。

⑤ **耐振ゴム**
ETCカードとカードソケットの接触を保持します。

⑥ **カバー（上蓋）**
ETCカード着脱時に開閉します。

⑦ **銘板**
型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。

⑧ **カードソケット**
ETCカードとの通信を行います。

⑨ **バックル**
カバー（上蓋）をロックします。

<ETC2.0車載器、ETCカードの取扱い上のご注意>

- 車載器の分解や改造をしないでください。法律により処罰されることがあります。
- カバー（上蓋）内側の、銘板に記載されている車載器管理番号は、本車載器を利用した各種サービスを受けるための大切な番号です。サービスをご利用の際は、車載器管理番号をご確認ください。
- カバー（上蓋）内側の銘板は、はがさないでください。認証機器として認められなくなります。
- 車載器管理番号は、車載器に記載されている19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受ける場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。「ETC車載器セットアップ申込書・証明書（お客様保存用）」を大切に保管していただくとともに、車載器管理番号を別に記録し、保管するようにしてください。
- ETCカードの取扱いは、ETCカード発行会社が提示する注意事項に従ってください。

⚠警 告

- **お客様による車載器の取り付け位置の変更、載せ換えは絶対に行わないでください。必ず指定のスズキ販売店にご相談ください。誤った取り付けを行うと、誤作動を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。**
- **メータ付近に ETC アンテナが搭載されています。通信エラーの原因になりますので、次のことをお守りください。**
  - **・メータ周辺には物を置かない**
  - **・メータ周辺にはメッキや金属性のアクセサリを取り付けない**
  - **・チタンコーティングされているウインドスクリーンは使用しない**
  - **・ウインドスクリーンにシールなどを貼らない**

⚠警 告

以下の場合は、直ちに車載器への電源供給を止め、すみやかにスズキ販売店へご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。

- **内部に水や金属等の異物が入ったとき**
- **煙が出ている、異臭がする、異常に熱いなどの異常に気がついたとき**
- **車載器本体に亀裂などの破損を見つけたとき**

ETC2.0車載器

⚠警 告

車載器には精密な電子部品が組み込まれています。故障、誤動作、火災、感電、けがを防ぐため、以下の取り扱い方法を守ってください。

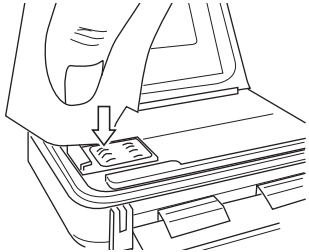
- 再配線をしない
- 分解や改造をしない
- 内部に異物を入れない
- 濡れた手で操作したり、水などをかけたりしない
- ETC カードの出し入れは、湿気、ほこり、油煙等が少ない場所、また雨等に濡れない場所で行う
- 車載器を火中に投入しない
- コード類を無理に引っ張らない
- 車載器をねじったり、重いものを載せたり、強く押しつけたりしない

注 記

- 走行前に積雪等によりアンテナの前方が遮られていた場合は、遮るものを取り除いてください。通信障害を起こす原因となることがあります。
- 車載器に強い衝撃を与えないでください。破損や故障の原因になります。
- 車載器の表面を掃除するときは、シンナー、ベンジン、ガソリン等の有機溶剤を使用しないでください。樹脂表面を痛める原因となることがあります。車載器の表面の掃除は、ちり、ゴミを取り除き、清潔な布で乾拭きするようにしてください。
- 車載器本体にある呼吸穴はふさがないでください。防水性低下を招いたり、カバー（上蓋）が開かなくなるおそれがあります。
- 車載器のカバー（上蓋）に付いている耐震ゴムは、はがさないでください。カード認識エラーの誘発およびカード破損の原因となることがあります。

<ETC2.0車載器のお手入れ方法>

カードソケット部分を乾いた布等で軽く押さえ、汚れ･水分を取り除いてください。



注 記

カードソケットが破損するおそれがあるので、ソケット面を擦り付けることは避けてください。

■ ETCを利用するときは

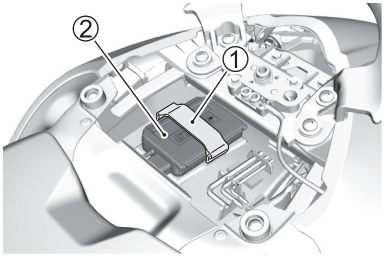
ETCを利用する際は、セットアップされた車載器へ、有効なETCカードを挿入する必要があります。

⚠警 告

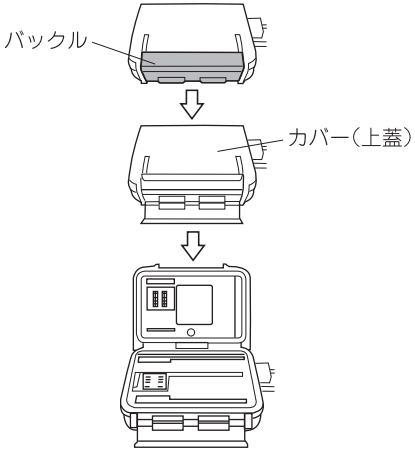
ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入してください。有効なETCカードが挿入されていないと開閉バーが開かず、事故の原因となります。

<ETCカードの挿入>

1. 車両のメインスイッチを **OFF** にします。
2. リヤシートを取り外します。
   ☞「リヤシート＆シートロック」(P.103)
3. バンド①を外し、車載器②を取り出します。



4. ETC車載器本体のバックルを外し、カバー（上蓋）を開きます。

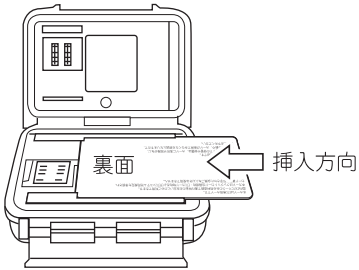


注 記

ETCカードの挿入前に、車載器のカードソケット、ETCカードのICチップに汚れ、濡れがないことを確認してください。ETCカードの認証エラーや故障の原因となるおそれがあります。

ETC2.0車載器

5. ETC カードの IC チップと車載器本体のカードソケットが接触するように、スライドさせて突き当たるまで挿入します。



6. カバー（上蓋）を閉じ、バックルでカバー（上蓋）を固定します。
7. 車両のメインスイッチを **ON** にします。

8. カード認証が開始（メータのERRインジケータが点滅）され、カードが認証されるとメータのERRインジケータが消灯します。

認証中　　認証完了

⚠警 告

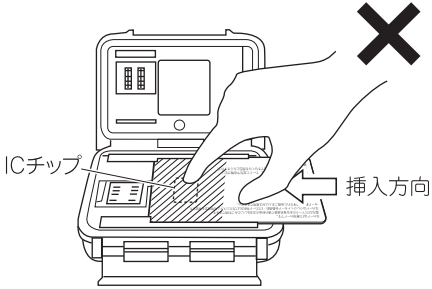
カード認証中はETCをご利用できません。開閉バーが開かず、事故の原因となりますので、認証が完了するまでお待ちください。

注 記

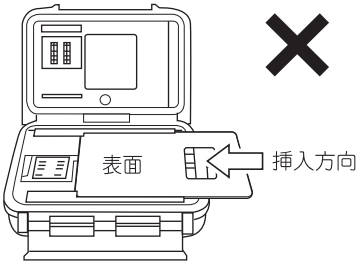
認証中にETCカードの抜き差しを行わないでください。ETCカードのデータが破損し使用できなくなることがあります。

<ETCカード挿入時のご注意>

- カード挿入時に、下図のようにICチップ付近を押さえて挿入すると、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがあります。ETCカードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。



- カードの逆差し（前後、表裏）や、ETC以外のカードを挿入した場合、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがありますので、ETCカードの向き等には十分にご注意ください。



■ エラー表示について

車載器への電源投入時、ETCカード挿入時、ゲートでの通信時などの処理を行った結果、エラーが発生した場合には、メータのERRインジケータが点灯または点滅します。
エラーには、次の表に記載の原因が考えられます。次の表の各対処方法を実施してもメータのERRインジケータが点灯または点滅する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

ERRインジケータが高速（約0.1秒間隔で5秒間）で点滅したときは、注意喚起情報を受信したことを知らせるものですのでエラーや故障ではありません。

ETC2.0車載器

ERR インジケータ	考えられる原因	対処方法
点滅	セットアップ未完了	車載器をセットアップしてください。
	本装置の故障	スズキ販売店にご相談ください。
点灯	ETCカード未挿入	ETCカードを挿入してください。
	ETCカード挿入異常	ETCカードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
	ETCカードの読み出し不良 （データ処理異常）	＜ETCカード挿入時＞ 挿入されたETCカードのデータを読み出すことができませんでした。 挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。 ＜ETC利用時＞ 料金所にて車両の停止が案内されることがありますが、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	ETCカードの認識不良 （ETCカード異常）	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 正しいETCカードであること、および挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。
	ETCカードの認識不良 （ETCカード情報の異常）	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 正しいETCカードであることをご確認の上、再度挿入してください。
	本装置と料金所間のデータ処理エラー （車載器情報の異常）	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	通信エラー	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。

■ 故障かなと思ったら

- 次の表で内容を確認し、処置してください。
- 処置しても症状が改善されないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

症状	確認すること	処置
ERRインジケータが点灯したまま	ETCカードが挿入されていますか？	ETCカードを正しく挿入してください。 （挿入方向、表裏）
	ETCカードが正しく挿入されていますか？	
	ETCカードのICチップ、および車載器本体のカードソケットが汚れたり、濡れたりしていませんか？	ETCカードのICチップ（電極）を清掃ください。 車載器本体のカードソケットは、「<ETC2.0車載器のお手入れ方法>」(P.118)を参照ください。
	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
メインスイッチがONのときにメータのETCインジケータとERRインジケータが両方とも消灯している	－	スズキ販売店にご相談ください。
料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所から、ETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	ETCカードの有効期限が切れていませんか？	有効なカードをご使用ください。
	アンテナの上や前方に遮蔽物がありませんか？	メータ周辺の電波を遮るものを取り除いてください。
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
	ETCカードの挿入部分に異物が入っていませんか？	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	利用履歴の確認をETC利用照会サービスのホームページにて行なってください。 https://www.etc-meisai.jp/	料金については、ETCカード発行会社（クレジット会社）にお問合せください。

ETC2.0車載器

■ お問合せ一覧

<ETCのご利用に関して>

東日本高速道路株式会社
NEXCO 東日本お客さまセンター
0570-024024
（PHS・IP電話のお客さまは　03-5338-7524）
受付時間：24 時間 （年中無休）

中日本高速道路株式会社
NEXCO 中日本お客さまセンター
0120-922-229
（フリーダイヤルがご利用できないお客さまは052-223-0333）
受付時間：24 時間 （年中無休）

西日本高速道路株式会社
NEXCO 西日本お客さまセンター
0120-924863
（フリーダイヤルがご利用できないお客さまは06-6876-9031）
受付時間：24 時間 （年中無休）

本州四国連絡高速道路株式会社
本四高速お客さま窓口
078-291-1033
受付時間：9:00 ～ 17:30

首都高速道路株式会社
首都高ETCコールセンター
03-6667-5859
受付時間：9:00 ～ 18:00 （年中無休）

阪神高速道路株式会社
阪神高速お客さまセンター
06-6576-1484
受付時間：月～金 8:30 ～ 19:00
（土日･祝日･年末年始は 9:00 ～ 18:00）

<ETCカードおよび請求金額に関して>

お手持ちのETCカード発行元にご確認ください。

<車載器に関して>

お車の購入先、または取扱説明書に記載されている連絡先にお問い合わせください。

<セットアップに関して>

一般財団法人 ITS サービス高度化機構（ITS-TEA）
ETC お問い合わせ窓口 03-5216-3856
受付時間：月～金 9:00 ～ 18:00
（土日・祝日・年末年始を除く）

メ　モ

点検と整備

■ 概要

定期的なお車の点検や整備は、安全に運転するために、またお車を長持ちさせるためにとても大切です。ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

お車をしばらく使用しないときにも、定期点検は実施してください。お車を長期間休ませた後に使い始めるときは、入念に点検してください。
点検の種類やタイミングについては、この章の「日常点検と定期点検」(P.127)をご参照ください。

⚠警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因になるおそれがあります。

常にお車を良い状態に保ってください。もしご自身での整備が難しい場合には、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

専門的な知識が無い状態で、技量をこえた整備を行うことは、事故や故障の原因になるおそれがあります。

整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

排気ガスには、無色・無臭の一酸化炭素や有毒ガスが含まれています。

一酸化炭素を吸うと、最悪の場合、死亡や重大な損害を生じるおそれがありますので、屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

⚠警 告

走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。

通常より速度を落とし、交通量の少ない所で行ってください。

⚠警 告

エンジンがかかっている状態での点検は、エンジンの可動部品に手や服がはさまれ、重大なけがを引き起こすおそれがあるため危険です。

ライト、エンジンストップスイッチ、スロットルの点検以外の点検を行うときは、エンジンを止めてください。

⚠警 告

ガソリンや可燃性のある油脂類がありますので、点検、整備を行うときは火気厳禁です。

整備中は、火気を近づけたりやたばこを吸わないでください。

⚠警 告

不安定な場所での整備は、作業中に車両が倒れる原因になります。

整備は、平坦で足場のしっかりした場所で行ってください。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

エキゾーストパイプやマフラ、エンジンの周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

メインスイッチがONの状態で電装部品の整備を行うと、電気回路がショートしたときに電装部品に損傷を与えるおそれがあります。

電装部品の整備を行うときには、メインスイッチをOFFにしてキーを抜いてください。

注 記

品質の悪い部品を使うと、お車の寿命を縮めるおそれがあります。

部品を交換するときは、スズキ純正部品のご使用をおすすめします。

アドバイス

一般的な使われ方より激しい状態(シビアコンディション)でお車をご使用される場合には、部品の劣化が通常より著しく進行することがありますので、通常より早めに点検整備を行ってください。シビアコンディションに該当する条件については、お車に付属するメンテナンスノートの[シビアコンディション条件]をご参照ください。

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

日常点検と定期点検

■ 概要

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐために道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

■ 点検の種類

＜日常点検＞

日常の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
次の項目について点検してください。

日常点検と定期点検

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

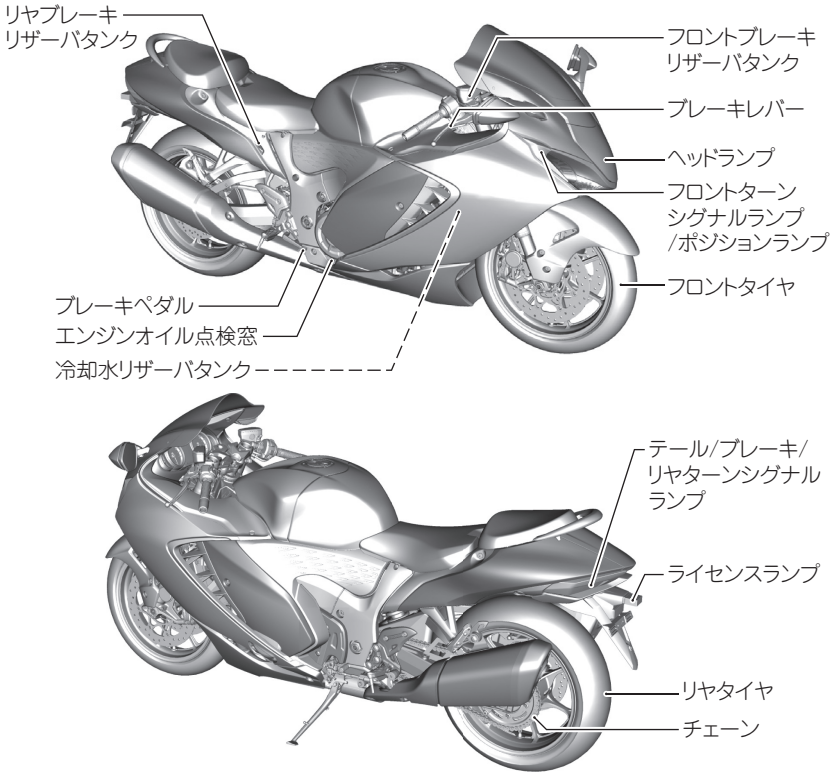
タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン
※ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



＜定期点検＞

車を使用する者が自身の責任において定期的に行う点検整備です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”、“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

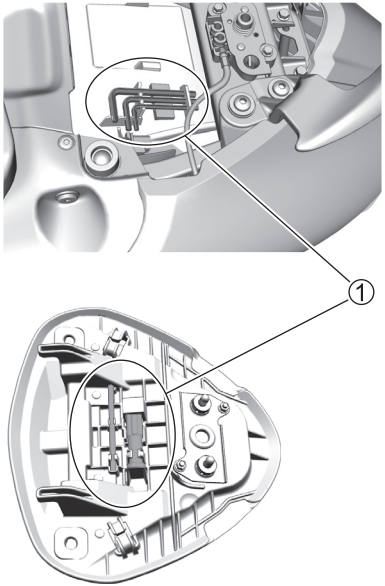
＜継続検査（車検）＞

小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

サービス工具

■ サービス工具の車載場所

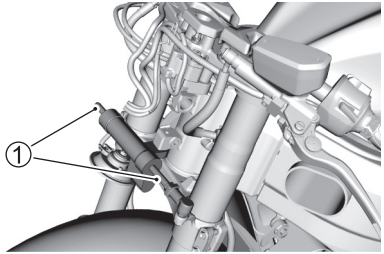
サービス工具①は、リヤシートおよび下側に収納されています。



ステアリングダンパ

■ ステアリングダンパの整備

- ステアリングダンパシャフト ① は常にきれいな状態に保ってください。
- オイル付着物はウエスなどで拭き取ってください。



アドバイス

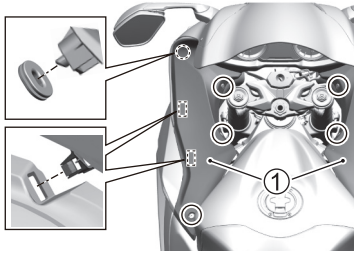
- **ダンパシャフト上のグリース状付着物は、ダンパのオイルシール潤滑剤ですので異常ではありません。**
- **ダンパシャフトが動くときに音が聞こえることがありますが、この音は、内部バルブ機構がシャフトの動きを抑制するときの音ですので異常ではありません。**

フェアリング

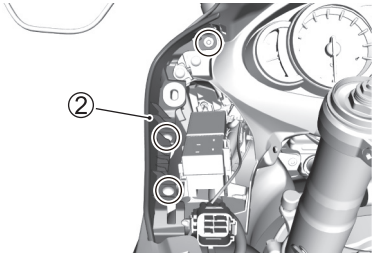
■ サイドカウル

サイドカウルの取外し

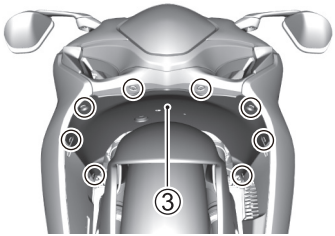
1. 平坦地に駐車します。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。
   ☞「フロントシートの取外し」(P.104)
   ☞「リヤシートの取付け」(P.103)
3. ボルト及びファスナを外し、左右のメータパネル①を外します。



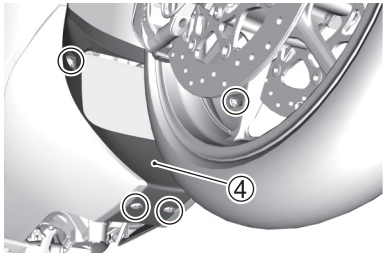
4. スクリュ及びファスナを外し、左右のメータフロントパネル②を外します。



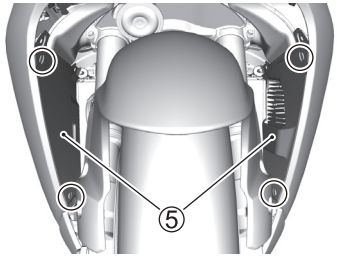
5. ファスナを外し、ボデーカウルカバー③を外します。



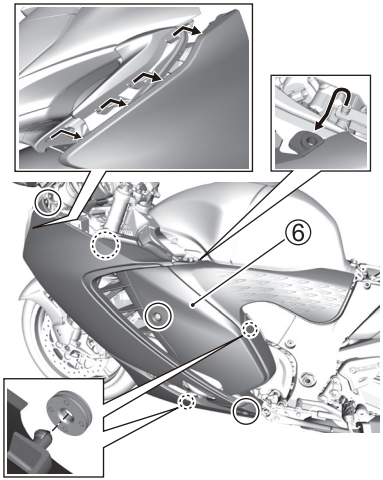
6. ファスナを外し、アンダセンタカウル④を外します。



7. ファスナを外し、左右のアンダインナカウル⑤を外します。



8. ボルト、スクリュ及びファスナを外し、左右のサイドカウル⑥を外します。



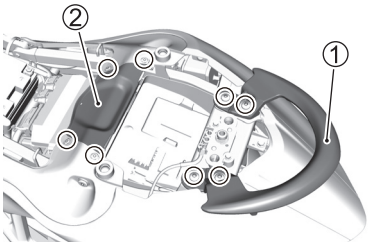
サイドカウルの取付け

サイドカウルの取付けは取外しの逆の手順で行います。

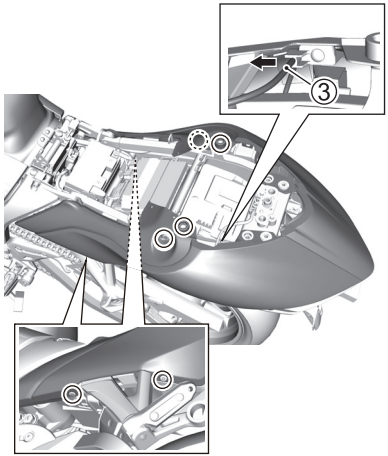
■ フレームカバー

フレームカバーの取外し

1. 平坦地に駐車します。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。
   ☞「フロントシートの取外し」(P.104)
   ☞「リヤシートの取付け」(P.103)
3. ボルトを外し、ピリオンライダハンドル①を外します。
4. ファスナを外し、フレームカバーセンタリッド②を外します。

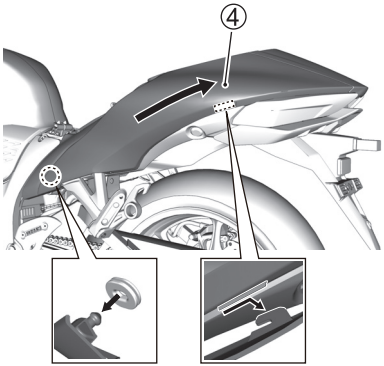


5. ボルト、スクリュ及びファスナを外し、シートロックケーブル③を外します。



フェアリング

6. 左右のフックを外し、フレームカバー④を矢印の方向へ取り外します。



フレームカバーの取付け

フレームカバーの取付けは取外しの逆の手順で行います。

ピリオンライダハンドルボルト
規定トルク：25 N･m

フューエルタンク

■ フューエルタンクの持ち上げかた

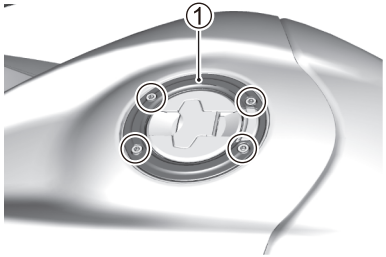
⚠警 告

ガソリンが十分入っている状態でフューエルタンクを持ち上げると、ガソリンが給油口からにじみ出て、引火するおそれがあります。

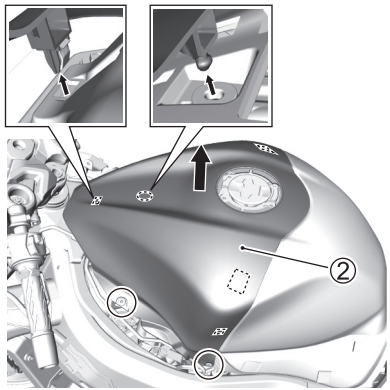
フューエルタンクを持ち上げる場合は、ガソリンの量を1/4以下にしてください。

次の手順でフューエルタンクを持ち上げます。

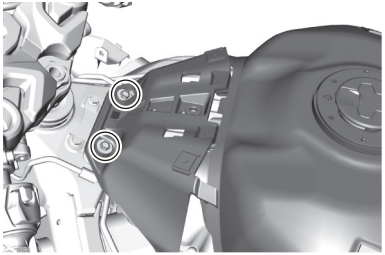
1. 平坦地に駐車します。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。
   ☞「フロントシートの取外し」(P.104)
   ☞「リヤシートの取付け」(P.103)
3. ボルトを外し、フューエルタンクキャップカバー ①を外します。



4. 左右にあるボルトおよびファスナを外し、フューエルタンクフロントカバー ②を上方向に取り外します。



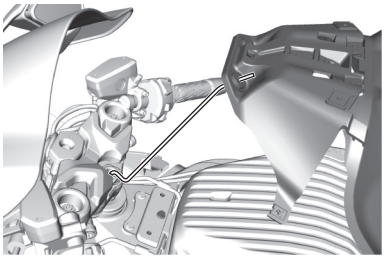
5. ボルトを外します。



6. フューエルタンクの前端を持ち上げ、図のように支えます。タンクステーのクランク形状側をステアリングステムナット部に差し込みます。

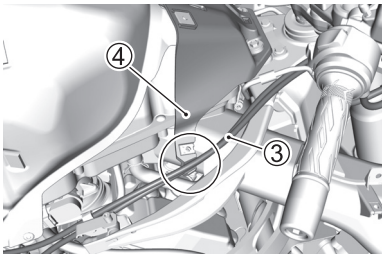
アドバイス

タンクステーはスズキ販売店で購入することができます。
タンクステー部品番号：44574-35F00



フューエルタンクの取付け

- フューエルタンクの取付けは持上げかたの逆の手順で行います。
- スロットルケーブル ③ はタンクブラケット④の外側に配置してください。



注油

■ 注油ポイント

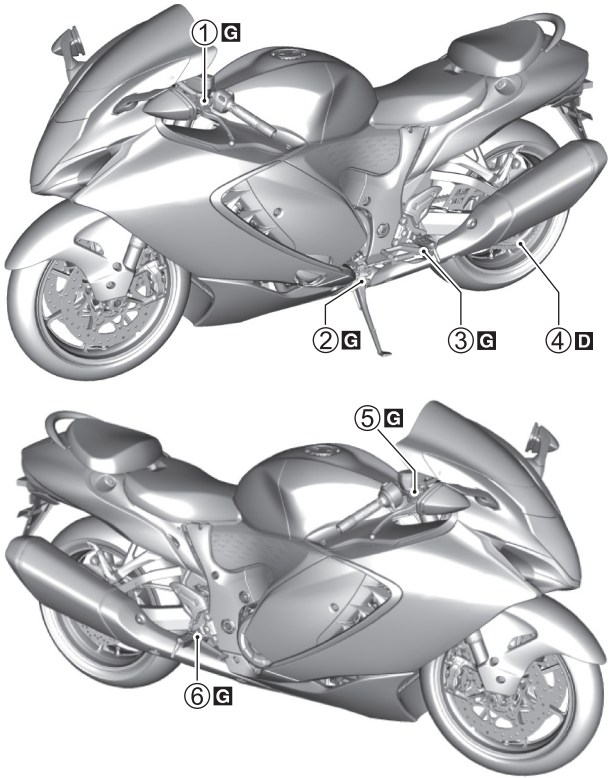
適切な注油は、スムーズな操作や各部品の寿命をのばすためだけでなく、安全に運転するためにも重要です。悪路を長時間走行したとき、雨で濡れたとき、または洗車したあとには、注油してください。

注 記

スイッチへ注油すると、故障の原因となります。

スイッチへグリースの塗布や注油をしないでください。

次の箇所に注油してください。



G：グリース
D：ドライブチェーンオイル

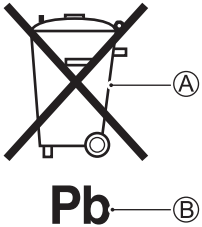
① クラッチレバーピボット
② サイドスタンドピボットおよびスプリングフック
③ チェンジペダルピボットおよびフットレストピボット
④ ドライブチェーン
⑤ ブレーキレバーピボット
⑥ ブレーキペダルピボットおよびフットレストピボット

バッテリ

■ 概要

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありませんが、スズキ販売店で定期的にバッテリの充電状態をチェックしてください。

バッテリを処分するときは、それぞれの地域の法律に基づいて処理してください。バッテリラベルにシンボルマークⒶ が表示されているバッテリは家庭用のごみとは分けて処分してください。鉛の含有率が0.004％を超えるバッテリには化学記号“Pb”Ⓑが表示されています。



使用済みのバッテリを適切に処分したり、リサイクルすることで環境や人体への悪影響を防ぐことができます。資源の節約のためにもリサイクルすることをおすすめします。使用済みのバッテリの処分またはリサイクルについて、くわしくはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

バッテリの電極、端子、その他関連する部品には、鉛や鉛化合物が含まれています。

鉛が体内にはいると健康を害しますので、鉛が含まれる部品をさわったあとは手を洗ってください。

⚠警 告

バッテリからは、引火性の有るガスが発生します。

火気を近づけたり、喫煙をしたりしないでください。

バッテリ

⚠警 告

バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると、失明や重いやけどを負うおそれがあります.

バッテリを取り外すときに傾けたりしないようにしてください。バッテリの近くで作業するときは、目を守るための適切な保護具や手袋を使用してください。もし目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。また、保管するときは、子供の手の届くところに置かないでください。

⚠警 告

乾いた布でバッテリをふくと、静電気が発生して引火するおそれがあります。

バッテリをふくときは、静電気を防ぐために湿らせた布で拭いてください。

注 記

長時間のアイドリングや不必要な空ぶかしはエンジン部品、触媒装置、電装部品に悪影響を与えます。また、燃料の無駄使いになるだけでなく、オーバーヒートの原因にもなります。

バッテリ充電のための長時間のアイドリングや空ぶかしは行わないでください。

アドバイス

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。ご自身で補充電される場合は、メンテナンスフリーバッテリに対応した充電器を使用してください。

アドバイス

充電するときに、電流、電圧、充電時間が不適切な場合は、バッテリの寿命を短くするおそれがあります。不明なときは、スズキ販売店にご相談ください。

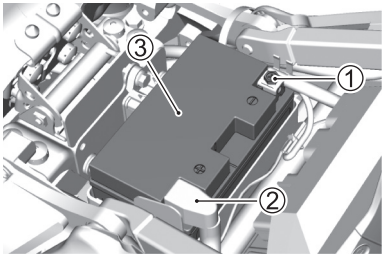
アドバイス

- バッテリを交換する場合は、同タイプのMF バッテリを選んでください
- 長期間、車を使用しない場合は月に一度充電してください。

■ バッテリ取り外し

次の手順でバッテリを取り外します。

1. 平坦地に駐車します。
2. メインスイッチをOFFにします。
3. フロントシートを取り外します。
   ☞「フロントシートの取外し」(P.104)
4. (−) 側バッテリコード①を外します。
5. (+) 側バッテリコード②を外します。
6. バッテリ③を外します。



7. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきとります。腐食が著しいときは、ワイヤーブラシかサンドペーパで磨いてください。

アドバイス

- **バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFF にし、マイナス(−)側を先に外してください。取り付けるときはプラス(+) 側を先に取り付けます。**
- **バッテリを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。**

■ バッテリ取り付け

次の手順でバッテリを取り付けます。

1. 端子部を清掃後、薄くグリースを塗り、取り外しの逆の手順でバッテリを取り付けます。
2. 端子を確実につなぎ、プラス(+) 側端子②にバッテリキャップをかぶせます。

注 記

バッテリのリード線のプラス(+) とマイナス(-) を逆に接続すると、充電系統およびバッテリが損傷する原因になります。

接続するときは、赤のリード線はプラス(+) 端子に、黒(または黒に白のストライプ) 線はマイナス(−) 端子に接続してください。

アドバイス

バッテリを外すとメータの設定が初期値に戻りますので、セットしなおしてください。

スパークプラグ

■ スパークプラグについて

スパークプラグの点検や交換はスズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検について

1年毎に点検してください。ホコリが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

- **エアクリーナエレメントは清掃できません。**
- **エアクリーナエレメントの点検・交換について、ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。**

エレメントが詰まると吸気抵抗が増え、結果として出力が低下し燃料消費が増大します。指定した時期に整備が必要です。埃、湿気、泥の多い条件で運転する場合は通常よりも頻繁にエアクリーナを点検する必要があります。
以下の手順でエレメントを取り外し、点検してください。

⚠警 告

エアクリーナエレメントを正しい位置に取付けないでエンジンをかけると危険です。エアクリーナエレメントが付いていないとエンジンからのバックファイアがエアクリーナボックスに吹き返されるおそれがあります。また、埃がエンジンに侵入し、重大なエンジンの損傷を招くおそれがあります。

エンジンをかけるときは必ずエアクリーナエレメントを正しい位置にとりつけてください。

⚠注 意

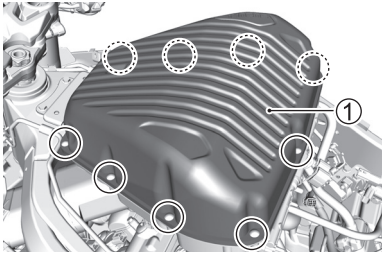
埃が多い、濡れている、または泥が多い環境で使用する場合、エアクリーナエレメントを頻繁に点検しないと故障につながるおそれがあります。このような状況でエアクリーナが詰まるとエンジンの損傷の原因になります。

過酷な環境で走行したあとは必ずエアクリーナエレメントを点検し、必要に応じて交換してください。エアクリーナケースに水が入った場合は、ただちにエレメントとケース内の清掃を行ってください。

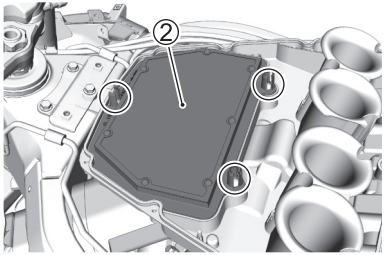
■ エアクリーナエレメント

取外し

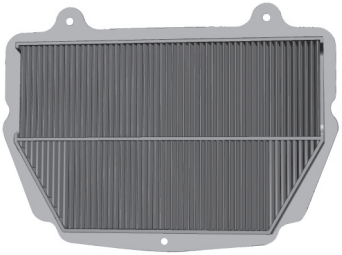
1. フューエルタンクを持ち上げます。
   ☞「フューエルタンクの持ち上げかた」(P.132)
2. スクリュを外し、エアクリーナキャップ①を取り外します。



3. スクリュを外し、エアクリーナエレメント②を取り外します。



4. エアクリーナエレメントを目視により点検します。汚れ、詰まりや損傷がある場合は、新品と交換します。



エアクリーナ

⚠注 意

エアを吹き付けるとエアクリーナエレメントが損傷するおそれがあります。

エアクリーナエレメントにエアを吹き付けないでください。

取付け

1. エアクリーナエレメントの取付けは取外しの逆の手順で行います。

⚠注 意

エアクリーナエレメントが破れていると、エンジンに汚れが入り、エンジンが損傷することがあります。

エアクリーナエレメントが破損している場合は、新しいエアクリーナエレメントと交換してください。取付け前にエアクリーナエレメントに裂け目がないか確認してください。

⚠注 意

エアクリーナエレメント取付け位置が正しくないと、汚れがエアクリーナエレメントをすり抜け、エンジン損傷の原因となります。

エアクリーナエレメントを正しく取り付けてください。

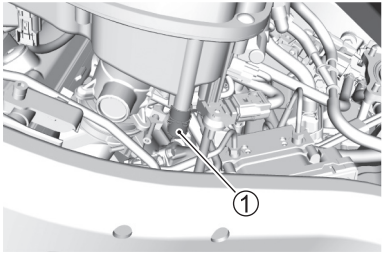
2. フューエルタンクを取付けます。

アドバイス

燃料タンクを取り付ける前に、燃料タンクのドレンホースやブリーザホースが曲がっていないことを確認してください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1 年毎に、エアクリーナボックスの下に取り付けられているエアクリーナドレンチューブ ① に、水やオイルがたまっていないかを点検してください。



<エアクリーナドレンチューブの点検、清掃>

1. フューエルタンクを持ち上げます。
☞「フューエルタンクの持ち上げかた」(P.132)
2. エアクリーナドレンチューブ①に、水やオイルがたまっていないかを点検します。
3. 汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを外し、汚れや水を取り除きます。
4. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

エンジンオイル

■ 概要

エンジンの寿命は、オイル量と品質によって大きく左右されます。また、日頃のオイル量の点検と定期的な交換は、お車の性能を引き出すうえで非常に大切ですので、忘れずに行いましょう。

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000 km
以降6,000 kmまたは1年ごと

オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000 km
以降18,000 kmごと

⚠警 告

エンジンオイルの取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。

エンジンオイル

■ エンジンオイルの選びかた

スズキ純正エンジンオイルまたは同等のエンジンオイルの使用をおすすめします。

＜スズキ純正エンジンオイル＞

規格／オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

＜同等のエンジンオイル＞

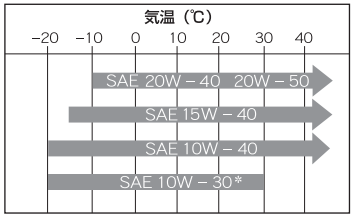
同等のエンジンオイルとは次の規格を満足したものです。

SAE	API	JASO
10W-40	SJ, SL, SM, SN	MA (MA1,MA2)

SAE：米国自動車技術者協会規格
API：米国石油協会規格
JASO：日本自動車技術会規格

＜SAE粘度表＞

SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



＊APIがSJ、SLのもの

注 記

銘柄やグレードの違うオイルを混ぜて使用すると、変質して故障の原因となることがあります。

オイルを混ぜて使ったり、低品質オイルを使用したりしないでください。

＜摩擦低減剤＞

摩擦低減剤は、不具合の原因になるため使用しないでください。

API SJ, SL, SM or SN

推奨します

API SJ, SL or SM

API SN

推奨しません

注 記

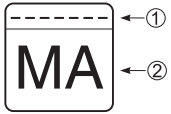
クラッチは、エンジンオイルに浸されていますので、摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。

摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。

<JASO T903>

JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。
二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903 はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。
MA（MA1、MA2）、MB の分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

例：MAのとき



①オイル販売会社の整理番号
②性能分類の表示MA分類を示す

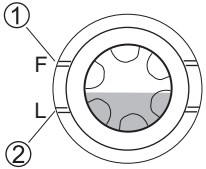
■ エンジンオイル量の点検

次の手順でエンジンオイルの点検を行います。

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを3分間アイドリング運転します。
3. エンジンを停止し、3分間待ちます。

エンジンオイル

4. 車体を垂直にして、エンジンの右側にある点検窓のF(Full)①とL(Low)②の間にエンジンオイルの油面があるかを点検します。
油面がF(Full)①より上またはL(Low)②より下の場合は、F(Full)①とL(Low)②の間になるよう調整してください。
●油面がL(Low)②より下の場合は、オイルを補給してください。
●油面がF(Full)①より上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。



⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

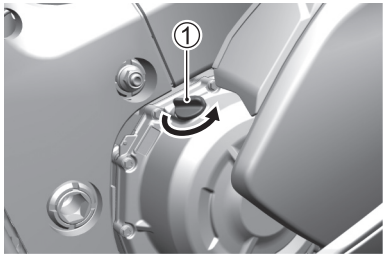
エンジンオイルが多すぎても、少なすぎてもエンジンに悪影響を与えます。

点検するときは車体を水平な場所に止めてください。車を使用する際には毎回点検窓でエンジンオイル油面を点検してください。オイル油面はL(Low) 線とF(Full) 線の間にあることを確認してください。

■ エンジンオイルの補給

次の手順でエンジンオイルを補給します。

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを 3 分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
3. 3分後、オイル注入口キャップ①を外します。



4. 車体を垂直にして、F(Full) とL(Low) の間に油面がくるように補給します。
5. キャップ①を確実に取り付けます。

⚠警 告

エンジンオイルは有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。

新しいオイル、エンジンから抜いたオイル、オイルフィルタは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

⚠警 告

エンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがありますので注意してください。

オイル交換をする際には、オイルに触れるのを避けるために長袖や耐油性の手袋を着用してください。もし、オイルが皮膚に付いたときは石鹸で十分に洗い、衣類やウエスにオイルがついた場合は洗濯してください。また、使用済みのオイルやオイルフィルタは、リサイクルするか適切な方法で処分してください。

注 記

オイル注入口からゴミなどが入るとエンジンが損傷するおそれがあります。

作業前に オイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口から入らないようにしてください。

アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。

冷却水

■ 概要

冷却水は定期的な交換が必要ですので、メンテナンスノートに従って適切な時期に交換してください。冷却水の交換は、スズキ販売店にご相談ください。

冷却水

■ 指定冷却水

冷却水はエンジンを冷やすためだけでなく、エンジン内部の防錆やウォータポンプの潤滑剤としても機能しています。また、寒冷地でも凍らないように不凍液を使用しています。お客様の地域が寒冷地でなくても、必ず冷却水をご使用ください。

次の冷却水をご使用ください。

指定冷却水：スズキスーパーロングライフクーラント（青）

冷却水容量：2700ml

スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

⚠警 告

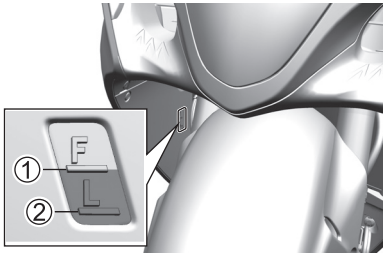
冷却水の取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。ご不明な点は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の量の点検

エンジンが冷えているときに、次の手順で点検してください。

1. 平坦地に駐車します。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクの F(Full)①と L(Low)②の間にあるかを点検します。



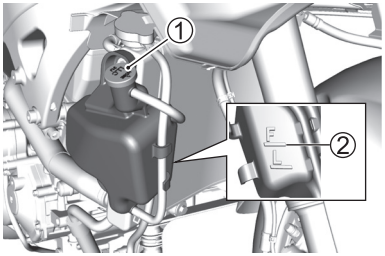
アドバイス

- **リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。**
- **冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。**

■ 冷却水の補充

次の手順で冷却水を補充します。

1. 平坦地に駐車します。
2. 右側サイドカウルを取り外します。
   ☞「サイドカウル」(P.130)
3. リザーバタンクキャップ①を外します。
4. F(Full)②まで冷却水を補給します。適切な冷却水については、「指定冷却水」(P.146)の項目を参照ください。



⚠警 告

冷却水は有毒のため、液を飲んだり蒸気を吸い込んだりすると身体に重大な影響を与えます。

冷却水や不凍液は、絶対に飲まないようにしてください。もし飲み込んだ場合は、無理に吐かずにすぐに医師に連絡してください。また、蒸気を吸い込んだ場合は、蒸気を吐き出し、きれいな空気を吸ってください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。冷却水を取り扱ったあとは、十分に手を洗ってください。冷却水を保管するときは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

⚠警 告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、エンジンが熱い間はラジエータキャップは外さないでください。

⚠注 意

“F”レベルを超えて補給するとエンジンが熱くなったときに冷却水がリザーバタンクからあふれ出るおそれがあります。

冷却水の補給は“F”レベル以上に入れないでください。

注 記

冷却水はお車の塗装面を痛めるおそれがあります。

こぼさないように注意してください。こぼれたときは、すぐに拭き取ってください。

アドバイス

水だけを補充するとエンジンクーラントは希釈され効果が低下します。必ず、指定の冷却水を補充・交換してください。

冷却水

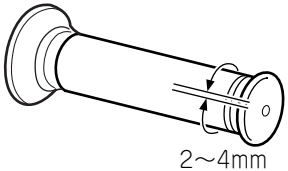
■ 冷却装置の点検

ラジエータ本体やホースにひびや損傷、冷却水の漏れがないかを点検してください。もし不具合が見つかった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検

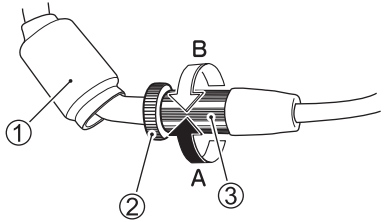
メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いか点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。



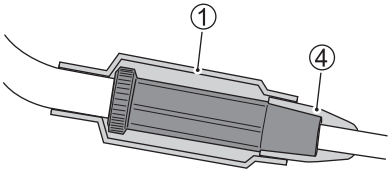
■ スロットルケーブルの遊び調整

アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツ ① をずらし、ロックナット②をゆるめます。アジャスタ③を A の方向に回すと遊びが多く、B の方向に回すと遊びが少なくなります。



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小④を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大①の先端をかぶせます。



ドライブチェーン

■ 概要

この車両のチェーンは、ジョイントを使用したマスターリンク式チェーンを使用しています。チェーンを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。
毎回、運転する前にはチェーンの状態とゆるみを点検してください。点検と整備の方法は、次の「点検」の項目に従ってください。

⚠警 告

ドライブチェーンのゆるみが多いとスプロケットからはずれ、重大な事故を引き起すおそれがあります。

運転前にドライブチェーンの点検または調整をしてください。

注 記

チェーンの遊びが規定値から外れている状態で走行すると、チェーン周辺の部品を破損させるおそれがあります。

メンテナンスノートに従い、日常点検および定期点検を実施してください。
☞「日常点検と定期点検」(P.127)

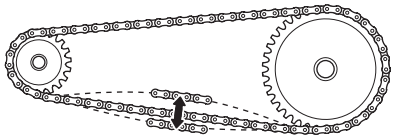
■ ドライブチェーンの点検

次の点を点検してください。

- ピンのゆるみ
- ローラーの損傷
- リンクの乾燥や錆
- 曲がりや固着
- 異常摩耗
- ゆるみ(たるみ）量

運転前にドライブチェーンのゆるみ（たるみ）を点検してください。平坦路に駐車して、ドライブチェーン中央部のゆるみ（たるみ）が規定値になっているか点検します。

ゆるみ(たるみ）規定値：20～30mm



20～30mm

調整については「ドライブチェーンの調整」(P.151)を参照ください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンの状態や調整に関して、不具合を見つけた場合はご自身の知識や技量に応じて整備してください。ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。
もしドライブチェーンが損傷している場合は、スプロケットも損傷しているおそれがありますので、スプロケットについて次の点を点検してください。

- 歯の異常摩耗
- 歯の欠損または損傷
- スプロケットマウントナットのゆるみ

スプロケットに不具合が見つかったときは、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

かしめが不十分だったり、クリップ式のチェーンを使ったりすると、ドライブチェーンがはずれたり切れたりする原因になります。重大なエンジンの損傷や事故を引き起こすおそれがありますので注意してください。

チェーンの交換には、特別な工具や品質の高いノンクリップタイプのチェーンが必要です。専門の技術が必要ですので、スズキ販売店にご相談ください。

■ ドライブチェーンの清掃・注油

次の手順で清掃、注油をしてください。

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。そのときに、シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄は、シールチェーン専用クリーナまたは水や中性洗剤などと柔らかいブラシを使用します。
   ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。

   推奨クリーナ：スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車をしないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 水や洗浄剤をきれいにふき取ります。
4. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

注 記

ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

5. オイルがドライブチェーン各部によく行きわたるように、ドライブチェーンチェーンの手前と奥の両側に注油します。
6. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウエスでふき取ります。

■ ドライブチェーンの調整

⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーンの整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

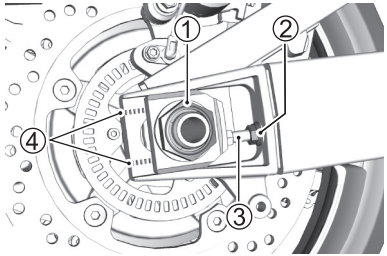
ドライブチェーンのゆるみ(たるみ) は、次の手順で調整してください。

1. 平坦路に駐車します。
2. アクスルナット①を緩めます。
3. 左右のロックナット②を緩めます。
4. 左右のアジャスタボルト③を回してフロントスプロケットとリヤスプロケットの中央部のゆるみ（たるみ）が規定値になるように調整します。

   ゆるみ（たるみ）規定値：20～30 mm

アドバイス

ドライブチェーンはフロントスプロケットとリヤスプロケットに対して一直線上になるように調整します。スイングアーム上の目盛り④を目安に左右同じ位置に合わせてください。



ドライブチェーン

5. アクスルナット①を規定トルクで締め付けます。

   アクスルナット規定トルク:100 N·m

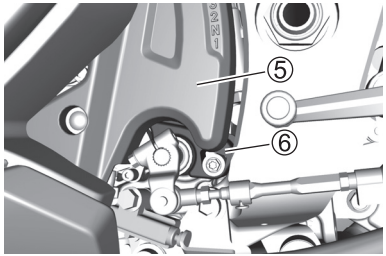
6. ゆるみが規定値であるか再確認します。必要であれば再調整します。
7. 左右のロックナット②を締め付けます。
8. ギヤシフトカバープロクタを点検します。

アドバイス

- **スイングアーム上の目盛り④の範囲内で調整してください。スイングアーム上の目盛り④の範囲を超える場合はドライブチェーンを交換してください。**
- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。**

■ ギヤシフトカバープロテクタの点検

ドライブチェーンを調整するときにギヤシフトカバー⑤を取り外し、ギヤシフトカバーのプロテクタ⑥が摩耗、損傷していないかを点検します。ギヤシフトカバープロテクタが摩耗していたり、損傷している場合は、新しいものと交換が必要です。ギヤシフトカバープロテクタの点検や交換は、スズキ販売店にご相談ください。

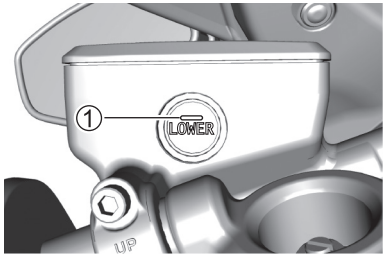


クラッチ

■ クラッチの点検

この車両は油圧クラッチを装備しています。油圧によって遊びは自動調整されるので調整する必要はありませんが、正常に機能させるためには次の項目を点検してください。

- リザーバタンクの液面がロアライン ①より上にあるか
- 液漏れがないか
- クラッチレバーが円滑に操作できるか



アドバイス

- クラッチ液は定期的な交換をおすすめします。
  交換時期：初回3年、以降2年ごと
  指定クラッチ液：スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）
- ご自身での整備が難しい場合には、スズキ販売店にご相談ください。
- クラッチ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したらすぐにふき取ってください。

警 告

DOT4以外のクラッチ液を使用すると、クラッチの損傷の原因になり事故を招くおそれがあります。

必ずDOT4のクラッチ液を使用し、違う種類のものを混ぜて使用しないでください。また、クラッチ液の容器は、品質の低下をふせぐために使う直前に開けてください。クラッチ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください

警 告

クラッチ液は有害ですので、絶対に飲まないでください。また、皮膚に付いたりや目に入らないように注意してください。

もし、飲んだ場合には、すぐに医師に連絡してください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。また、幼児やペットが触れない場所に保管してください。

■ クラッチホースの点検

クラッチホースや接続部に損傷がないかを点検してください。もし、ひび割れや亀裂などの不具合が見つかったときは、スズキ販売店でクラッチホースを新しいものに交換してください

ブレーキ

■ 概要

この車は、前輪と後輪にディスクブレーキを装備しています。

⚠警 告

ブレーキ系統の点検と整備が不適切な場合は、事故にあう可能性が増えます。

運転前には、「日常点検」の項目を参考に点検してください。また、メンテナンスノートに従って定期点検を行ってください。ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

アドバイス

泥、水、砂などがブレーキにかかる運転は、ブレーキディスクやパッドの消耗が早くなります。このような運転が多い場合には、メンテナンスノートの点検時期よりひんぱんに点検してください。

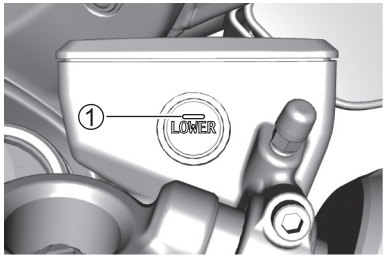
■ ブレーキホースの点検

ブレーキホースや接続部に損傷がないかを点検してください。もし、ひび割れや亀裂などの不具合が見つかったときは、スズキ販売店でブレーキホースを新しいものに交換してください。

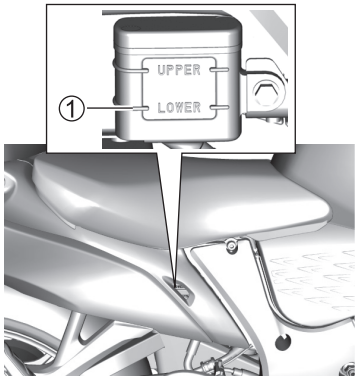
■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベル①より上にあるかを点検します。

フロントブレーキ



リヤブレーキ



⚠警 告

液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパットの摩耗やブレーキ系統の液漏れ等が考えられます。

スズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ブレーキ液は、吸湿性が高いためブレーキホースなどを通して徐々に湿気を吸収します。湿気を吸収すると沸点が下がり、ブレーキが効きにくくなることがあります。また、ブレーキ部品を腐食させてブレーキシステム（ABS を含む）の異常を引き起こすおそれがあります。

安全のため、2年毎にブレーキ液を交換してください。

指定ブレーキ液：

スズキブレーキフルード DOT4（JIS BF-4）

⚠警 告

DOT4以外のブレーキ液を使用すると、ブレーキの損傷の原因になり事故を招くおそれがあります。

必ずDOT4のブレーキ液を使用し、違う種類のものを混ぜて使用しないでください。また、ブレーキ液の容器は、品質の低下をふせぐために使う直前に開けてください。ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

⚠警 告

リザーバタンクにゴミなどが入ると、ブレーキ系統の故障の原因になります。

ブレーキ液を入れるときは、フィラーキャップを開ける前にキャップの周りを清掃してください。

⚠警 告

ブレーキ液は有害ですので、絶対に飲まないでください。また、皮膚に付いたりや目に入らないように注意してください。

もし、飲んだ場合には、すぐに医師に連絡してください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。また、幼児やペットが触れない場所に保管してください。

注 記

ブレーキ液はお車の塗装面、プラスチック、ゴム類を痛めるおそれがありますので、こぼさないように注意してください。

こぼれたときは、すぐに拭き取ってください。

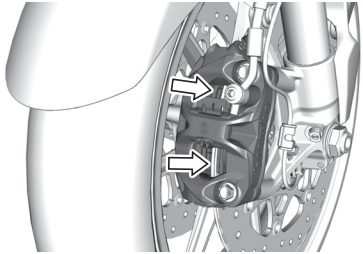
ブレーキ

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

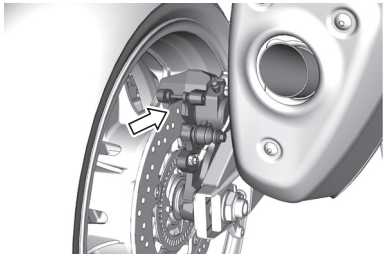
ブレーキキャリパの後ろ側から、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝①がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。

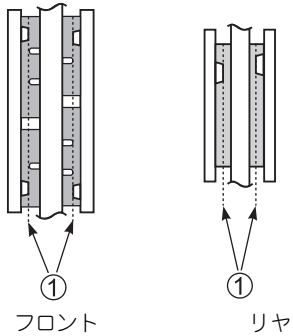
ブレーキパッド交換後は、ブレーキレバーまたはブレーキペダルが正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。これにより、ブレーキパッドが適切な位置になります。
新しいブレーキパッドは、きき具合が異なる場合がありますので、慎重な運転を心がけてください。

フロントブレーキ



リヤブレーキ





⚠警 告

ブレーキパッドの点検や整備を行わなかったり、適切なパッドを使わなかった場合には、ブレーキが効かずに事故を招くおそれがあります。

ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

両側あるブレーキパッドのうち片側だけを交換すると、ブレーキの利きが安定しません。

両側のブレーキパッドを一緒に交換してください。

⚠警 告

ブレーキを修理したり、ブレーキパッドを交換したりしたあとは、パッドが適切な位置になっていません。ブレーキレバーやペダルを数回ストロークせずに走行すると、ブレーキが効きにくくなっているため危険です。

走行前に必ずブレーキレバーやペダルを数回ストロークして、ブレーキが効くことを確認してください。

アドバイス

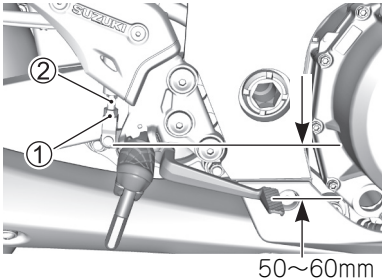
ブレーキパッドの交換中は、ブレーキレバーやペダルをストロークしないでください。ブレーキキャリパのピストンを元の位置に戻すことが難しくなるだけでなく、ブレーキ液が漏れる原因になります。

■ リヤブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、適切な位置に調整してください。調整が不適切だと、ブレーキパッドがディスクに当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

次の手順でブレーキペダルの位置を調整してください。

1. ロックナット①をゆるめてプッシュロッド②を回し、ペダルをフットレスト上面から50 ～ 60 mm 低い位置に調整します。



ブレーキ

2. ロックナット①を締め付け、プッシュロッド②を固定します。

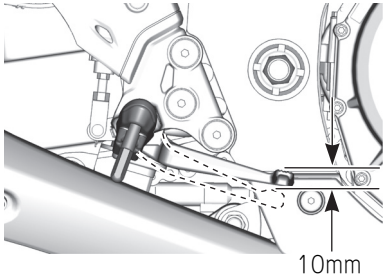
注 記

ブレーキペダルの調整が不適切だと、ブレーキパッドとディスクが常に当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

この項目に書かれている方法で、ブレーキペダルを正しく調整してください。

■ リヤブレーキランプスイッチの点検および調整

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



ブレーキランプスイッチの調整は、スズキ販売店にご相談ください。

シフトペダル

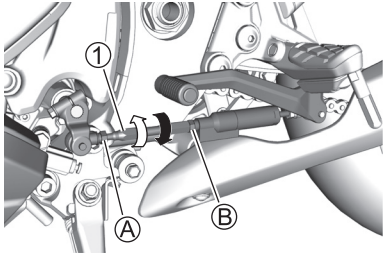
■ 概要

運転するときにシフトチェンジしにくいときは、シフトペダルの高さがお体に合っていない可能性があります。お体に合った高さに調整することをおすすめします。

■ シフトペダル高さの調整

次の手順でシフトペダルの高さが調整できます。

1. ロッド①をスパナなどで固定し、ロックナットⒶを⇧、Ⓑを⬇の方向に緩めます。

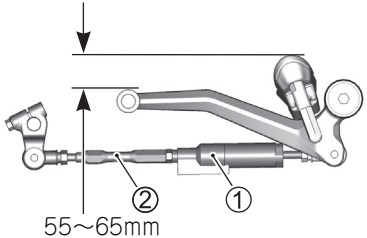


2. ロッドを手前（⬇）に回すとペダル位置が高く、反対（⇧）に回すと低くなります。
3. シフトペダル位置をフットレスト上面から55 ～ 65 mm 低い位置に調整します。

注 記

シフトセンサ①を回転させるとクイックシフトなどが正常に機能しなくなるおそれがあります。

シフトペダルの高さ調整はロッド②で行い、シフトセンサ①は回転させないでください。

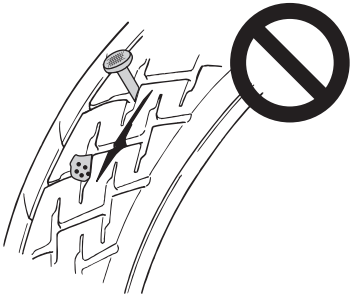


4. 調整後は、ロックナットⒶを⬇、Ⓑを⇧の方向に締め付けてください。

タイヤ

■ 概要

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



また、タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。

タイヤ

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	120/70ZR17M/C (58W)
	種類	BRIDGESTONE:S22F L
後	サイズ	190/50ZR17M/C (73W)
	種類	BRIDGESTONE:S22R L

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。

必ず指定タイヤを取り付けてください。

⚠警 告

タイヤの修理、取り付け、バランス取りが不適切だと、お車をコントロールしにくくなったり、タイヤの摩耗が早くなったりします。

- タイヤの交換、修理、バランス取りには、適切な工具や経験が必要ですので、スズキ販売店やバイクショップにご相談ください。
- 取り付けるときには、タイヤ側面にある回転方向を示す矢印に注意して取り付けてください。

⚠警 告

タイヤは、お車と路面をつなぐ重要な部品です。安全に運転するために、以下の内容をお守りください。

- 運転する前に、タイヤの状態と空気圧をチェックし、必要であれば空気圧を調整してください。
- 最大積載量を守り、過度な積載は避けてください。
- 限界まで摩耗していたり、亀裂や損傷を発見したりしたときは交換してください。
- この取扱説明書に記載されているサイズと種類のタイヤを必ず使用してください。
- 取付け後は、ホイールのバランスを取ってください。
- この取扱説明書のこの章をよく読んでください。

⚠警 告

タイヤのならしを適切に行わないと、タイヤがスリップしてコントロールを失うおそれがあります。新しいタイヤに交換したときは、特に注意して運転してください。

「ならし運転」(P.10)の項目を参照し、最初の160 km は急加速、急カーブ、急ブレーキを避けてタイヤのならしを正しく行ってください。

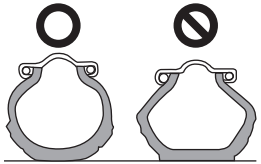
アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

■ タイヤ空気圧の点検

安全運転のために、タイヤの空気圧と使用するタイヤの選択は取扱説明書に従ってください。

タイヤは、走行すると温まって空気圧が上がるため、走行前のタイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧になっているか点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



また、最大積載量をこえると、タイヤの損傷につながったり、お車をコントロールできなくなたりするおそれがありますので注意してください。

運転する前に、次の表を参考に、乗車人数にあったタイヤの空気圧になっているか確認してください。

タイヤ空気圧

1人乗車時	**前**	290kPa
	後	290kPa
2人乗車時	**前**	290kPa
	後	290kPa

空気圧が下がると、曲がりにくくなるだけでなく、タイヤの摩耗が早くなります。逆に、空気圧が高いとタイヤと路面の接地面が小さくなるため、滑って転倒する原因になります。

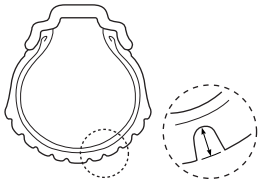
アドバイス

チューブレスタイヤは、タイヤに穴が開くと空気が抜けてしまいますので、タイヤの空気圧が下がったときは、タイヤに釘などが刺さっていないか、リムが損傷していないかを確認してください。

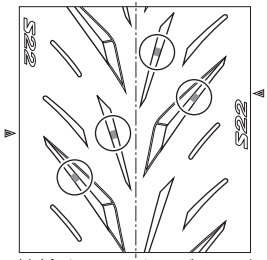
■ タイヤ溝の深さの点検

タイヤの状態や種類は、お車の性能に影響します。タイヤに亀裂や損傷などの異常があると、お車をコントロールできなくなるおそれがあります。摩耗したタイヤは、ハンドリング特性が変わるだけでなく、パンクしやすくなりますのでご注意ください。

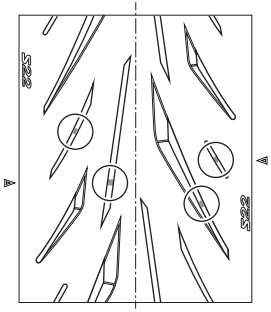
運転前に、タイヤの状態を確認してください。
使用限度近くまで摩耗しているときは、安全に走行するために早めのタイヤ交換をおすすめします。
溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。ウエアインジケータが路面に接触するようになったら、タイヤの摩耗限界に到達したことを示していますので、タイヤを交換してください。



タイヤ



前輪ウエアインジケータ



後輪ウエアインジケータ

⚠警 告

この車は、チューブレスタイヤを使用しています。チューブレスタイヤはチューブタイヤと扱いが違いますので、安全のために以下の内容を守ってください。

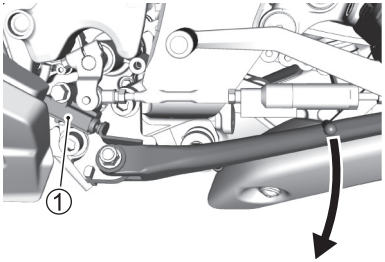
- **チューブレスタイヤは、タイヤとホイールのビードとの間に気密性が必要です。タイヤとホイールの損傷を防ぐために、タイヤの取り付け取り外しの工具には、特殊な工具が必要です。**
- **チューブレスタイヤのパンク修理には、一度タイヤを取り外し、内側からパッチを貼ります。**
- **タイヤの外側からパンクの穴に差して修理する修理キットをオートバイに使うと、コーナリング時に抜けるおそれがありますので使わないでください。**
- **修理したタイヤは、修理部の劣化や空気圧低下の原因になる発熱を防ぐために、最初の24時間は80 km/hまでにしてください。**
- **タイヤ側面がパンクしたり、トレッド部が6 ㎜以上のパンクをしたりしたときは修理できませんので、タイヤを交換してください。**

サイドスタンド/インタロックシステム

■ サイドスタンド/インタロックシステムの点検

次の手順でサイドスタンド/インタロックシステムが正常であるか点検します。

1. サイドスタンドを外して乗車します。
2. ギヤを1速に入れて、クラッチレバーを握り、エンジンを始動します。
3. クラッチレバーを握ったままでサイドスタンドを出します。



① サイドスタンドインタロックスイッチ

- サイドスタンドを出したときにエンジンが停止するようならサイドスタンド/インタロックシステムは正常に機能しています。
- ギヤが入っている状態でスタンドを出したときにエンジンが停止しないようならサイドスタンド/インタロックシステムは適切に動作していません。スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

■ 概要

電装部品は、大きな負荷がかかっても破損しないようにヒューズで保護されています。電装部品が動かないときは、ヒューズが切れていないかを確認してください。

⚠警 告

指定容量を超えるヒューズや針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。原因が分からないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

お車に適さない電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こしたりすることがあります。

電装品類を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。

注 記

洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけると、配線の中に水が入り、腐食やショートの原因になります。

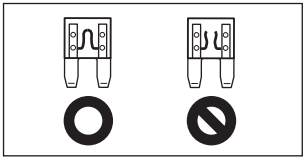
ヒューズのまわりは、水を強く吹きつけないように注意してください。

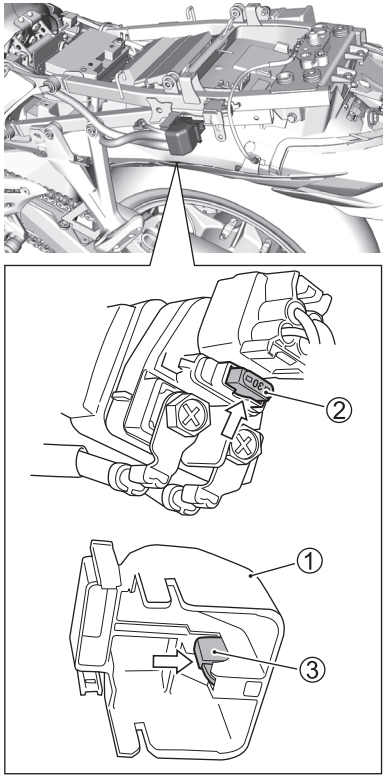
ヒューズ

■ メインヒューズ

メインヒューズはリヤシートのフレームカバー内(左側)にあります。
次の手順でメインヒューズを点検します。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. フレームカバーを取り外します。
   ☞「フレームカバー」(P.131)
3. スタータリレーボックスのカバー ①を外し、ヒューズ②を抜いて点検します。
4. 切れている場合は原因を確認後、スペアヒューズ③と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



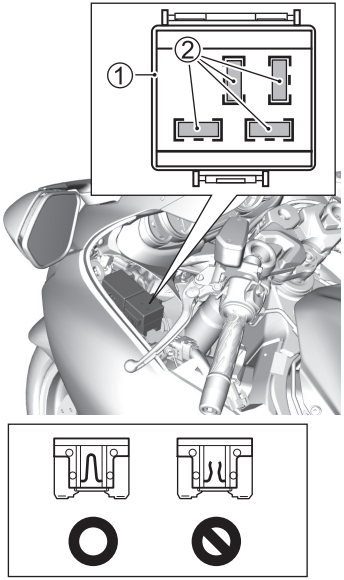


■ ヒューズ

ヒューズはメータ左側のフロントパネルの下にあります。

次の手順でヒューズを点検します。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. 「サイドカウル」(P.130) を参照してメータ左側のフロントパネルを取り外します。
3. ヒューズボックスカバー ① を取り外し、ヒューズを抜いて点検します。
4. 切れている場合は原因を確認後、同じアンペアのスペアヒューズ②と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

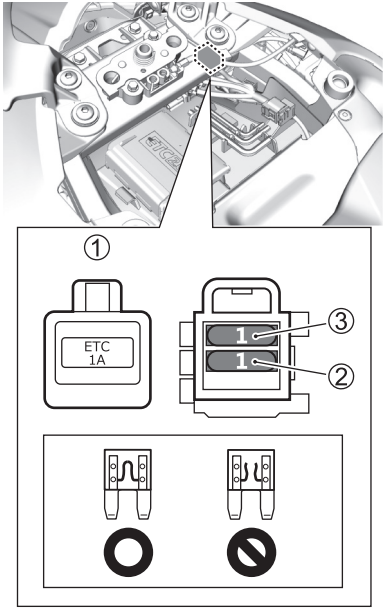


■ ETCヒューズ

ETCヒューズはリヤシートの下にあります。

次の手順でETCヒューズを点検します。

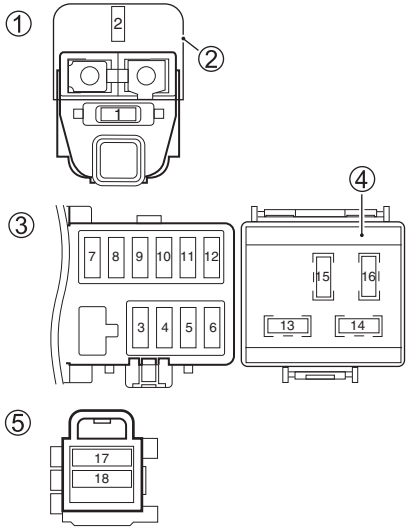
1. メインスイッチをOFFにします。
2. リヤシートを取り外します。
   ☞「リヤシート取外し」(P.103)
3. ヒューズカバー①を外し、ヒューズ②を抜いて点検します。
4. 切れている場合は原因を確認後、スペアヒューズ③と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



ヒューズ

■ ヒューズリスト

次の表は、各ヒューズが保護する主な接続装置を表しています。



① スタータリレーボックス
（メインヒューズ）
② スタータリレーボックスカバー
③ ヒューズボックス
④ ヒューズボックスカバー
⑤ ETC ヒューズ

位置	表示	容量	主な接続先
1	MAIN	30 A	すべての電気回路
2	SPARE	30 A	-
3	HEAD-LO	7.5 A	ヘッドランプ(ロービーム)
4	HEAD-HI	7.5 A	ヘッドランプ(ハイビーム)
5	FAN-L	15 A	クーリングファンモータ左
6	FUEL	10 A	・スピードメータ ・フューエルポンプ ・ECM
7	FAN-R	15 A	クーリングファンモータ右
8	IGNITION	10 A	・イグニションコイル ・スタータリレー ・クーリングファンリレー ・フューエルポンプリレー ・ソレノイド ・ECM ・O2 センサ ・ABS
9	SIGNAL	10 A	・ストップランプ ・テールランプ ・ライセンスランプ ・ターンシグナルランプ ・スピードメータ ・ホーン
10	PARK	10 A	・テールランプ ・ライセンスランプ
11	ABS-MOTOR	30 A	
12	ABS-VALVE	15 A	
13	SPARE	10 A	-
14	SPARE	7.5 A	-
15	SPARE	30 A	-
16	SPARE	15 A	-
17	SPARE	1 A	
18	ETC	1 A	

灯火装置、方向指示器

■ LED（発光ダイオード）

この車の灯火装置や方向指示器には、LEDを使用しています。
LEDを使用したランプは非分解式のため、LED のみの交換はできません。もし、LEDが１つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ H/L		LED
ポジション		LED
ストップ／テール		LED
ターンシグナル	前	LED
	後	LED
ライセンス		LED

トラブルシューティングとは

トラブルシューティングには、一般的なトラブルの原因を見つけるための情報をのせています。
お車に不具合や違和感を感じたときは早めにスズキ販売店にご相談いただくことをおすすめします。

注 記

不適切な整備や調整は、お車の損傷の原因となり、保証を適用されない場合があります。

不明な点がある場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンがかからないときは

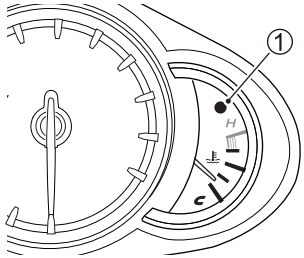
次の点を確認してください。

- 始動手順は手順通りですか？
  ☞「エンジンのかけかた」(P.92)
- フューエルタンクに燃料は入っていますか？
  ☞「ガソリンの給油」(P.96)
- エンジン警告灯は点灯したままになっていませんか？
  ☞「エンジン警告灯」(P.33)
- イモビライザ警告灯は点灯したままになっていませんか？
  ☞「イモビライザ」(P.89)
- バッテリ端子がゆるんでいませんか？
  ☞「バッテリ」(P.135)
- ヒューズが切れていませんか？
  ☞「ヒューズ」(P.163)

異常がある場合はスズキ販売店にご相談ください。

オーバーヒートしているときは

水温警告灯①が点灯したら安全な場所に停車して、次の点を確認し、必要に応じて処置を行ってください。



1. メインスイッチをOFFにして、エンジンをとめます。
2. メインスイッチをONにし、ラジエータファンを作動させてエンジンを冷やします。
   ラジエータファンが作動しない場合はエンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れがないかを確認します。
   - 水漏れしているときは、エンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。
   - 水漏れしていなくて、冷却水の量が不足しているときは冷却水を補充します。やむをえず水だけを補充した場合は、できるだけ早くスズキ販売店で冷却水の点検または交換を依頼してください。
4. 確認して異常がない場合は、水温警告灯が消灯すれば走行可能です。お車に不具合がないかを、できるだけ早くスズキ販売店で点検を受けてください

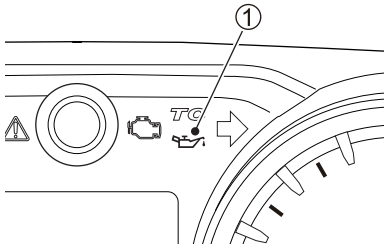
注 記

オーバーヒートしている状態で走行するとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

水温警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

油圧が下がっているときは

油圧警告灯①が点灯したら安全な場所に停車して、次の点を確認し、必要に応じて処置を行ってください。



1. メインスイッチをOFFにして、エンジンをとめます。
2. エンジンオイル量が適切であるか点検します。エンジンオイル量が不足している場合は補充してください。
3. エンジンをかけます。
   - 油圧警告灯が消灯したら走行可能です。
   - 油圧警告灯が消灯しない場合はエンジンをとめてスズキ販売店にご相談ください。
4. オイルが減っている場合は、エンジンが故障しているおそれがありますのでスズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

エンジンの油圧が低下している状態で走行すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

メータに次の表示が出たときは

メータに次の表示が出たときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジン警告灯が点灯または点滅したとき
  ☞「エンジン警告灯」(P.33)
- 故障診断表示にFIを表示したとき
  ☞「故障診断表示」(P.36)
- 故障診断表示のCHECK表示が消えないとき
  ☞「故障診断表示」(P.36)
- メインスイッチを　ON　にしたときに、ABS警告灯が点灯しないとき
  ☞「ABS警告灯 (ABS)」(P.30)
- ギヤポジションインジケータがニュートラルのときに、ニュートラルインジケータライトが点灯しないとき
  ☞「エンジンをかける前に」(P.92)
- ギヤポジションインジケータが1、2、3、4、5、6のときに、ニュートラルインジケータライトが点灯するとき
  ☞「エンジンをかける前に」(P.92)
- ギヤポジションインジケータに数字が表示されない。
  「ギヤポジションインジケータ」(P.53)
- トラクションコントロールを設定しているときに、走行中に消灯していたTCインジケータライトが点灯したとき
  ☞「TCインジケータライト」(P.33)
- サービスリマインダインジケータが点灯したとき
  ☞「サービスリマインダインジケータ」(P.38)
- 水温警告灯が点灯し、エンジンが冷えても消灯しないとき
  ☞「オーバーヒートしているときは」(P.168)
- エンジンオイルが適量なときに、油圧警告灯が点灯したとき
  ☞「油圧が下がっているときは」(P.169)

お車が次の状態のときは

お車が次の状態のときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジンが始動しないとき
- 転倒したとき
- 異音や液漏れがあるとき
- エンジンの出力が落ちたときや出ないとき
- ブレーキ液の液面が下がったときやブレーキ液やパッドを交換するとき
- ブレーキの効きが悪くなったとき
- クラッチ液の液面が下がったときやクラッチがきれない、つながらないとき
- 冷却水の液面が下がったときや交換するとき
- ヒューズが切れた原因が分からないとき
- タイヤが限度溝まで減ったときや交換するとき

メ　モ

保管のしかた

■ 概要

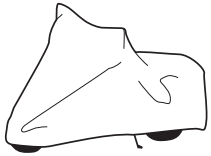
お車に長期間乗らないときには、保管する前に十分なお手入れが必要です。次にあげるお手入れをしましょう。

アドバイス

ご自身で行うのが難しいときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 車体

お車は、倒れにくい平坦な場所に駐車してください。もし、メインスタンドを装備している車の場合は、メインスタンドで駐車してください。
保管する前には洗車し、乾燥させた後にボディカバーをかけてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジン、エキゾーストパイプやマフラが冷えてからかけてください。

■ バッテリ

1. 「バッテリ」(P.135)の項目を参考に、バッテリを取り外します。
2. バッテリの外側を清掃するときは中性洗剤で拭き、端子が腐食しているときはワイヤーブラシなどでサビを落としてください。
3. 気温が低いときは、室内で保管してください。

アドバイス

バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して室内か風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(−)ターミナルを外してください。

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

■ タイヤ

タイヤの空気圧は規定圧に調整してください。必要に応じてメンテナンス用スタンドなどを使用して前輪と後輪を地面から浮かせてください。

アドバイス

前輪と後輪を地面から浮かせる方法については、スズキ販売店にご相談ください。

長期保管後は

■ 再始動の手引き

1. ボディカバーを外し、洗車します。
2. スズキ販売店でエンジンオイルとオイルフィルタを交換します。
3. 「バッテリ」(P.135)の項目を参考に、バッテリを取り付けます。
4. 「注油」(P.134)の項目を参考に、注油します。
5. 日常点検を実施します。
6. エンジンをかけます。

サビを防ぐために

■ サビの原因

お車のサビを防いで、長持ちさせるためにお手入れしましょう。

次のものは腐食の原因なります。

- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などの塩分、未舗装走行による飛び石などによる傷、湿気、化学物質の蓄積など
- 軽い事故や石や砂利が当たったときの金属部品や塗装面への傷など

サビを防ぐために

■ サビにくくするためには

- 少なくとも月に1回は、洗車しましょう。また、洗車後はきれいなやわらかい布で水分を拭きとってください。
- お車に凍結防止剤、化学薬品、油やタール、樹液、鳥のふんなどが付着するとお車の外観を悪くするだけでなく、さびなどの原因になりますので、付着したときはできるだけ早く取り除いてください。水で落ちない場合には、クリーナを使用してください。特別なクリーナを使用するときには、クリーナの取り扱い方法をよくお読みください。
- お車に傷を見つけたら、できるだけ早くなおしてください。塗装面より深い傷はサビの原因になりますので、飛び石やひっかき傷を見つけたときはよく確認してください。サビのおそれがあるときには、タッチアップペイントで補修してください。傷がひどいときは、スズキ販売店にご相談ください。
- お車の保管場所は、乾燥していて換気の良い場所が理想的です。ガレージで洗車したり濡れたりしたまま保管することが多いと、ガレージの湿度が上がりサビの発生や進行の原因になるおそれがあります。また、換気の悪いガレージに濡れた車を停めた場合には、ガレージの中が暑くてもサビが発生するおそれがあります。
- 駐車するときは、お車にボディカバーをかけましょう。日中の強い日差しにさらされると、塗装面、プラスチック部品、メータなどの着色部品の色あせの原因になります。お車を有害な紫外線などから守るために、品質の良い、通気性に優れたカバーをご使用ください。適切なカバーの選び方が分からない場合には、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。

アドバイス

海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

洗車

■ 車体

お車を長持ちさせるためにも、きれいな状態に保ちましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。なお、洗車はエンジンが冷えているときに行いましょう。

洗車は、次の手順で行ってください。

1. 冷たい水道水をかけながら、やわらかいスポンジやブラシでほこりや泥を落とします。硬いブラシなどを使うと塗装面に傷を付ける原因になりますので使用しないでください。
2. スポンジや柔らかい布を使って、中性洗剤やカーシャンプーで洗います。スポンジや布に付いた汚れで傷を付けないためにも、ひんぱんに洗浄液に浸しましょう。
3. 汚れが完全に取れたら、水道水で洗剤を洗い流します。
4. すすぎ終わったら、セーム革などの吸水性のいいやわらかい布で水分を拭き取り日陰で乾燥させます。
5. 塗装面に損傷がないかを注意深く点検します。損傷があるときは、タッチアップペイントを用意し、下記要領でタッチアップします。
   a. 損傷している所を清掃し乾燥させます。
   b. ペイントをかき混ぜ、損傷部分に小さいブラシで薄く塗ります。
   c. ペイントを完全に乾燥させます。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置き忘れるとハンドル操作に悪影響を与えるおそれがあります。

清掃時にフェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。

注 記

洗車時、エキゾーストパイプやマフラ、エアクリーナや電装品に水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。

洗車時には、水が入らないように注意してください。

注 記

アルカリ性や強酸性のクリーナ、ガソリン、ブレーキフルード、その他のケミカル類で洗車すると部品を損傷させるおそれがあります。

冷水かぬるま湯などに溶かした中性洗剤やカーシャンプーを使い、やわらかい布で清掃してください。

洗車

注 記

コイン式の洗車場にあるような高圧洗浄機やスチーム洗車機を使用すると車体に損傷をあたえ、さびや腐食の原因になるだけでなく、部品の消耗を早めるおそれがあります。また、パーツクリーナも車体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

洗車をする場合は高圧洗浄機を使用しないでください。また、スロットルボディやフューエルインジェクションセンサにパーツクリーナを使用しないでください。

注 記

ラジエータに高圧の水をかけると、冷却フィンが損傷するおそれがあります。

ラジエータ周辺を洗うときには、注意してください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- **メインスイッチ**
- **スパークプラグ**
- **フューエルタンクキャップ**
- **フューエルインジェクションシステム**
- **ブレーキマスターシリンダ**
- **スロットルケーブルのブーツ**

アドバイス

洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリあがりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。

■ ホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。

■ プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーン、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーンなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤や撥水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、有機溶剤など**

■ エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、ステンレススチールマフラークリーナー（品番99000-59312）などで磨いてから、汚れを落とします。

注 記

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

冷めるまでは触れないように、注意してください。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

■ ワックスがけ

洗車後は、サビ予防や塗装面の保護のためにワックスがけを行ってください。

- ワックスとポリッシャーは、品質のいいものを使用してください。
- ワックスとポリッシュは、そのメーカーの取扱説明書に従って行ってください。

洗車

■ つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や、表面を擦り過ぎたり強く磨いたりすると、つや消し表面が変化することがあります。

洗車後は

■ 洗車後のお手入れ

車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油してください。
注油する場所については、「注油ポイント」(P.134) の項目をご確認ください。
また、前回の運転時に見つかった不具合がないかを「<日常点検>」(P.127)の項目を参考にして確認してください。

⚠警 告

洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

効きが悪いときは、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

メ　モ

触媒装置

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。

不適切な調整や誤った取扱いによるエンジンの不完全燃焼（失火）は、触媒装置を異常な高温にするおそれがあります。触媒装置および他の関連部品が損傷する原因になりますのでご注意ください。

触媒装置に特別な点検や整備は必要ありませんが、エンジンは定められた点検、整備を実施してください。

注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、次の注意事項をお守りください。

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。**
- **走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。**
- **押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。**
- **診断テストなどで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。**
- **不要な空ぶかしや長時間のアイドリングは行わないでください。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。**
- **エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。**

車両の情報記録装置

■ 情報記録装置について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピュータが装備されており、主に次のデータを記録します。

■ データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ(ABS含む)、ギヤポジションなどの操作状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報

アドバイス

- **お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。**
- **音声は記録していません。**
- **使用条件などにより、データが記録されない場合があります**

■ データの開示について

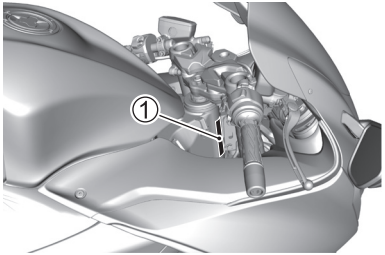
スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、お車の故障診断、研究開発、品質の向上などを目的に取得、利用することがあります。
なお、スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示、提供しません。

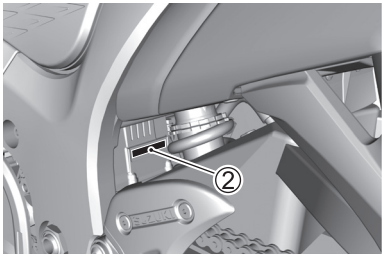
- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

識別ナンバー打刻位置

■ 識別ナンバーについて

お車の登録書類を作るときなどの手続きのために、フレームナンバー①とエンジンナンバー ②を控えておきましょう。
また、販売店で部品を注文するときに、これらのナンバーが必要になる場合があります。





■ フレームナンバー

フレームナンバー ①はステアリングヘッドに刻印されています。

今後の参照のためにフレームナンバーをここに記入してください。

機　　種	ハヤブサ
フレームナンバー	

■ エンジンナンバー

エンジンナンバー ②はクランクケースに刻印されています。

今後の参照のためにエンジンナンバーをここに記入してください。

エンジンナンバー	

識別ナンバー打刻位置

■ キーナンバー

お車には、キーが2個と英数字のキーナンバーを印したプレートがセットされています。

アドバイス

- **この車のキーは通常の機能に加え、イモビライザの役割を持っています。**
- **万一破損させたり、紛失したりすると多大な費用が必要となりますので大切に扱ってください。**
- **スペアキーは大切に保管してください。**

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。

廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、次のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
　ホームページ：https://www.jarc.or.jp/

主要諸元

項目		諸元
長さ		2,180 mm
幅		735 mm
高さ		1,165 mm
軸距		1,480 mm
車両重量		264 kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前	120/70ZR17M/C (58W)
	後	190/50ZR17M/C (73W)
最小回転半径		3.3 m
エンジン形式		4サイクル・4気筒
冷却方式		水冷
燃料供給方式		フューエルインジェクション
総排気量		1,339 cm^3
内径×行程		81.0×65.0 mm
アイドリング回転速度		1,150 r/min
最高出力		138 kW/9,700 r/min
最大トルク		149 N·m/7,000 r/min

項目		諸元
クラッチ形式		湿式·多板· コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	1.596
	2次	2.388
変速比	1速	2.615
	2速	1.937
	3速	1.526
	4速	1.285
	5速	1.136
	6速	1.043
ブレーキ形式	前	ダブルディスク
	後	シングルディスク
フューエルタンク容量		20 L
点火方式		フル・トランジスタ式 バッテリ点火

サービスデータ

項　　目	調　整　値
ドライブチェーンのゆるみ	20～30 mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	290 kPa
		後	290 kPa
	2人乗車時	前	290 kPa
		後	290 kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	3.2 L
	オイルフィルタ交換時	3.4 L
	全　容　量	4.1 L

スパークプラグ	種類	NGK	CR8EIA-9
		DENSO	IU24D
	ギャップ		0.8～0.9 mm

項　　目		調　整　値
バッテリ	種　類	FTZ14S メンテナンスフリー
	容　量	12 V—11.2 Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L		LED
	ポジション		LED
	ストップ／テール		LED
	ターンシグナル	前	LED
		後	LED
	ライセンス		LED

ヒューズ	1 A、7.5 A、10 A、 15 A、30 A

メ　モ

メ　モ

メ　モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611　浜松市南区高塚町 300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ **フリーダイヤル　0120-402253**
受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(https://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください